

水戸城跡

水戸法務総合庁舎新営事業
地内埋蔵文化財調査報告書

茨城県教育財団文化財調査報告第444集

水戸城跡

公益財団法人茨城県教育財団

令和2年3月

水戸地方検察庁
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第444集

水^み戸^と城^{じょう}跡^{あと}

水戸法務総合庁舎新営事業
地内埋蔵文化財調査報告書

令和2年3月

水戸地方検察庁
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、水戸地方検察庁による水戸法務総合庁舎新営事業に伴って実施した、茨城県水戸市水戸城跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、江戸時代の多数の掘立柱建物跡のほか、溝や廃棄土坑が確認でき、中山備前守の屋敷地の一端が明らかになりました。また、明治時代に敷設された石組水路跡が確認されました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります水戸地方検察庁に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和2年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 小野 寺 俊

例 言

- 1 本書は、水戸地方検察庁の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成30年度に発掘調査を実施した、茨城県水戸市北見町1番1号に所在する水戸城跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成30年4月2日～9月30日
整理 平成31年4月1日～令和元年11月30日
- 3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 本橋弘巳
次席調査員 永井 敦
調査員 鯉沼智博 平成30年4月2日～7月31日
調査員 野田良直 平成30年8月1日～9月30日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長皆川修のもと、次席調査員永井敦が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、第1号近代建物跡出土の石材については、茨城大学名誉教授田切美智雄氏に、水戸城跡出土の七面焼および陶磁器類、瓦類については、水戸市立博物館長関口慶久氏に御指導いただいた。
- 6 本遺跡の実測図・写真等の資料は茨城県埋蔵文化財センターにて、出土遺物は水戸市教育委員会にて保管されている。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅷ区座標に準拠し、 $X = + 42,120 \text{ m}$ 、 $Y = + 57,720 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1a) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…j、西から東へ 1、2、3、…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P-ピット PG-ピット群 SA-柱穴列 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡 SE-井戸跡
SI-竪穴建物跡 SK-土坑

遺物 B-骨格製品 DP-土製品 G-ガラス製品 M-金属製品 N-自然遺物
Q-石器・石製品 T-瓦

土層 K-攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 300 分の 1、各遺構の実測図は原則として 80 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構毎かつ種類毎に番号を振り、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(4) 瓦の計測値は、次頁に示した通りである。軒丸瓦・軒平瓦・軒棧瓦の計測部位と名称は、茨城県教育財団文化財調査報告第 396 集を参考にした。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸 (径) 方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した (例 N-10°-E)。

- 7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更

旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号
SK435	SB 2 P 5	SK434	SB 2 P 6	SA10P1	SB 2 P 7	SK407	SB 2 P 8

旧番号	新番号
SK375	SB 2 P10
PG17P 2	SB 2 P11
SK587	SB 3 P 3
SK585	SB 3 P 6
SK403	SB 3 P 7
SK399	SB 3 P 8
SK561	SB 3 P10
SK588	SB 3 P11
SK437	SB 3 P12
SK424	SB 3 P13
SK599	SB 3 P14
SK586	SB 4 P 3
SK438	SB 4 P 4
SK587	SB 4 P 5
SK574	SB 4 P 7
SK572	SB 4 P 8
SK460	SB 5 P 2
PG16P29	SB 5 P 3
PG16P21	SB 5 P 4
PG17P30	SB 5 P 6
PG17P40	SB 5 P 7
SK441	SB 5 P 9
SK493	SB 6 P 2
SK488	SB 6 P 3

旧番号	新番号
SK449	SB 6 P 5
SK470	SB 6 P 6
SK466	SB 6 P 7
SK464	SB 6 P 8
SK482	SB 6 P10
SK481	SB 6 P11
PG16P46	SB 6 P12
PG16P26	SB 7 P 1
PG16P30	SB 7 P 4
SK442	SB 7 P10
SK506	SB 8 P 1
SK569	SB 8 P 2
SK570	SB 8 P 3
SK422	SB 8 P 4
PG18P61	SB 8 P 6
SA10P 3	SB 8 P 7
SA10P 4	SB 8 P 8
SK413	SB10P 1
SK380	SB10P 2
SK381	SB10P 3
PG17P23	SB10P 4
PG17P20	SB10P 6
PG17P 6	SB10P 7
PG17P 5	SB10P 8

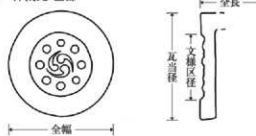
旧番号	新番号
PG17P9	SB10P 9
PG14P23	SB11P 1
SK345	SB11P 2
PG13P10	SB11P 3
PG13P12	SB11P 4
PG13P 7	SB11P 5
PG13P 2	SB11P 6
PG13P 4	SB11P 7
SK340	SB11P 8
SA11P 4	SB11P 9
PG13P 8	SB11P10
PG14P14	SB11P11
PG14P26	SB11P12
PG14P25	SB12P 1
PG14P24	SB12P 3
PG12P35	SB12P 4
PG13P 5	SB12P 5
SK342	SB12P 6
PG12P33	SB12P 7
PG13P 7	SB12P 8
PG14P27	SB13P 1
PG14P 5	SB13P 2
SK348	SB13P 3
PG13P16	SB13P 4

旧番号	新番号
SK341	SB13P 5
PG12P32	SB13P 6
PG13P 3	SB13P 7
SK339	SB13P 8
SK455	SB14P 1
SK453	SB14P 2
SK447	SB14P 3
SK444	SB14P 5
SK443	SB14P 6
SK425	SB15P 1
SK427	SB15P 2
SK590	SB15P 3
PG18P62	SB15P 6
SK371	SB16P 2
SK575	SB16P 3
SK330	SB16P 4
SA 9 P 1	SB16P 5
SA 9 P 2	SB16P 6
SA 9 P 3	SB16P 7
SE 4	SK306
SA10P 2	SK616
SA11P 1	SK617
SA12P 3	SK618

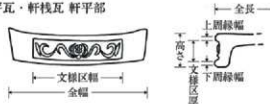
欠番 SB 9 SD 7 SK283・374・419・420・439・440・503・514 PG15

瓦計測部位凡例図

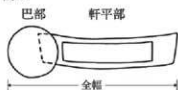
軒丸瓦・軒棧瓦 巴部



軒平瓦・軒棧瓦 軒平部



軒棧瓦



目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
水戸城跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	10
第3節 遺構と遺物	12
1 平安時代の遺構と遺物	12
竪穴建物跡	12
2 江戸時代の遺構	15
(1) 掘立柱建物跡	15
(2) 井戸跡	31
(3) 溝 跡	31
(4) 土 坑	35
(5) ビット群	52
3 近代以降の遺構	54
(1) 掘立柱建物跡	54
(2) 井戸跡	56
(3) 石組水路跡	57
(4) 水路状施設	65
(5) 溝 跡	66
(6) 近代建物跡	66
(7) 整地跡	68
(8) 土 坑	73
(9) 柱穴列	77
(10) ビット群	79
4 江戸時代・近代以降の遺物	79
第4節 総 括	124
写真図版	PL.1～PL.22
抄 録 付 図	

水戸城跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

水戸城跡は、水戸市の北部に位置し、那珂川と千波湖・桜川に挟まれた標高約 25 ～ 27 m の舌状台地上に立地しています。当城跡の調査は水戸法務総合庁舎新営事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、平成 30 年 4 月から 9 月までの 6 か月間、茨城県教育財団が実施しました。



調査の内容

水戸城は水戸徳川家の城として知られ、今回調査した箇所は北三の丸の一画に当たります。調査では、平安時代の竪穴建物跡 1 棟、江戸時代の掘立柱建物跡 14 棟・溝跡 7 条・廃棄土坑 9 基、近代の石組水路跡 4 条・建物跡 1 か所・整地跡 2 か所などを確認しました。主な出土遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、土製品、金属製品、瓦などです。



調査区遠景（第 1 次面）



第 400 号土坑完掘状況



廃棄土坑から出土した遺物



第 1 次面の土坑から出土した磁器



第 2 号石組水路跡の遺物出土状況

調査の結果

調査区の面積は 2,853m²で、当初の遺構確認面の下にもう一面確認しました。遺構確認面を第 1 次面として調査を行い、第 1 次面は明治時代～昭和時代、第 2 次面は平安時代～江戸時代と考えられます。

第 1 次面では、明治時代の監獄^{かんごく}を建てる際の整地跡、その際に設置・利用されたと考えられる凝灰質泥岩^{ぎょうかいしつでいがん}の切石^{きりいし}を組み合わせた大規模な石組水路跡を確認しました。第 2 次面では、江戸時代の掘立柱建物跡、溝跡、廃棄土坑などを確認しました。水戸城北三の丸は、現存する絵図から水戸藩^{つげがろう}附家老の中山氏の屋敷地と伝わっています。中山氏に直接関わるものとして、廃棄土坑から家紋の刻印された軒丸瓦^{のきまるがわ}が出土しました。その軒丸瓦が廃棄された土坑からは、中山氏と関わりの深い高萩^{たかはぎ}の松岡焼^{まつおか}、徳川家と縁のある七面焼^{しちめんやき}が出土しています。さらに、京焼^{きょうやき}や初期伊万里^{い万里}の皿など庶民では手に入れられないような陶磁器類も出土しています。第 2 次面で確認した遺構は、中山氏の屋敷地と関係すると考えられ、当時の屋敷地内の様子などを想定する上で重要な資料となります。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

水戸地方検察庁では、水戸法務総合庁舎の新営工事を計画している。

平成27年11月26日、水戸地方検察庁検事正は、茨城県教育委員会教育長あてに水戸法務総合庁舎新営工事地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて、茨城県教育委員会は平成28年10月3日に現地踏査を、平成29年7月21日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成29年8月17日、茨城県教育委員会教育長は、水戸地方検察庁検事正あてに事業地内に水戸城跡が所在すること、及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成29年10月23日、水戸地方検察庁検事正は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成30年2月16日、茨城県教育委員会教育長は、水戸地方検察庁検事正あてに、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成30年2月21日、水戸地方検察庁検事正は、茨城県教育委員会教育長あてに水戸法務総合庁舎新営事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成30年2月22日、茨城県教育委員会教育長は、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、水戸地方検察庁検事正から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成30年4月2日から9月30日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

水戸城跡の調査の概要を表で記載する。

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月
調査準備 遺構除却 土壌確認		■	■		■	■	
遺構調査		■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理		■	■	■	■	■	
撤収							■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

水戸城跡は、茨城県水戸市北見町1番1号に所在している。

水戸市は、県のほぼ中央部に位置し、北は那珂市・東茨城郡城里町、東はひたちなか市・東茨城郡大洗町、南は東茨城郡茨城町、西は笠間市と接している。当市は、江戸時代に水戸徳川家の城下町として栄え、明治時代以降は県庁所在地として、本県の政治、経済、文化の中心地となっている。

市域の地形は、西部が八溝山地中央部の鶏足山塊に属する標高60～200mの丘陵地、中央部が東茨城台地の北東部にあたる標高20～30mの水戸台地、北部の一部が標高30～40mの那珂台地、北部から東部へ流れる那珂川の流域が標高10m以下の沖積低地からなり、このうち台地部が最も広い地域を占めている。また、水戸台地は那珂川の支流である沢渡川、桜川、逆川によって上市台地、見和台地、千波台地、吉田台地に分けられ、当城跡は上市台地の先端部に位置している。

台地の地質は、古生代の鶏足層を基盤とし、下層から第三紀層の泥岩からなる水戸層、第四紀層の粘土や砂で構成される見和層、段丘礫層の上市層、灰白色粘土の常総粘土層、関東ローム層の順に堆積している。また、低地部は沖積谷に河川堆積物である砂礫層が堆積し、場所により有機質の黒色泥や草炭類の堆積が見られる¹⁾。

当城跡は、水戸市街地の中心部、JR常磐線水戸駅の北側に位置し、北を那珂川、南を千波湖と桜川に挟まれ、南東にせり出した幅約1.5km、長さ約7kmの舌状台地上の東端、那珂川右岸の標高30mの台地上に立地しており、低地との標高差は約20mである。城の構造は、東西に細長く延びる台地を堀や土塁で区画した連郭式平山城であり、東から東二の丸（浄光寺曲輪・下の丸）、本丸、二の丸、三の丸が配置されている。現在は、学校施設や県三の丸庁舎（旧県庁舎）、県立図書館などが建つ文教地区となっているほか、本丸と二の丸の間の堀がJR水郡線、二の丸と三の丸の間の堀が県道市毛水戸線として利用されている。

今回の調査地は、旧北三の丸の東側部分、水戸藩附家老の中山備前守屋敷跡地にあたる。調査前の現況は水戸法務総合庁舎である。

第2節 歴史的環境

遺跡の所在する水戸市は、旧石器時代から近世にかけての遺跡が数多く確認されている²⁾。ここでは、当城跡に関連する周辺遺跡を中心に、時代ごとに記述する。

旧石器時代の遺跡は、十万原台地上のニガサフ遺跡、二の沢B遺跡、ドウゼンコボ遺跡などで確認されており、十万原遺跡では石器集中地点や集石土坑などが確認されている³⁾。

縄文時代の遺跡には、愛宕町遺跡、アラヤ遺跡、長者山遺跡、渡里町遺跡などが上市台地の縁辺部に位置し⁴⁾、この地域が早い時期から生活域として利用されていたことがわかる。また、『常陸國風土記』に巨人伝説が記され、古代からその存在が知られていた大串貝塚をはじめ、柳崎貝塚（48）や吉田貝塚（37）、安楽寺遺跡（31）など、那珂川・桜川の流域が豊かな資源を与える生活に適した場であったことがうかがえる。

弥生時代では、那珂川流域の台地上を中心に遺跡や遺物が確認されており、上市台地上においては、西原遺跡、堀遺跡、文京二丁目遺跡などがあげられる。見和台地上では、見川塚畑遺跡において、弥生時代の集落跡

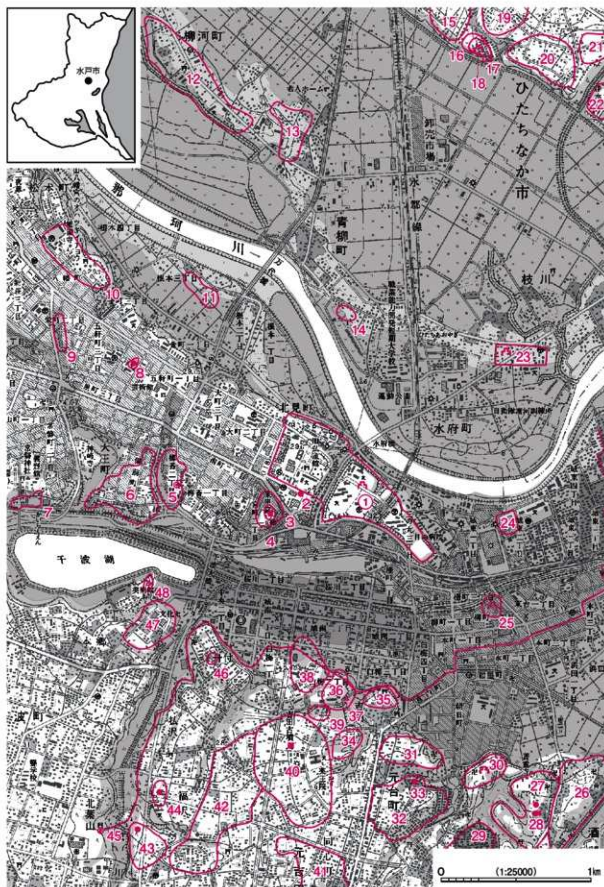
が確認されている⁵⁾。

古墳時代の上市台地上の遺跡としては、愛宕山古墳群があり、国指定史跡である愛宕山古墳が存在している。県内では石岡市の舟塚山古墳、常陸太田市の梵天山古墳に次ぐ全長 136.5m の大型前方後円墳である。また、台波里官衙遺跡群では一辺 75m の方形の堀を伴う豪族居館跡が発見されている⁶⁾。当城跡では、水戸市教育委員会の調査でこの時代の集落が確認されている⁷⁾。

奈良・平安時代の当城跡周辺は、那賀郡常石郷に属している。当時代の主な遺跡としては国指定史跡の台波里官衙遺跡群があげられる。長者山地区が那賀郡衙の正倉院に比定されており、観音堂山地区では 7 世紀後半、南方地区では 9 世紀後半の時期の異なる寺院跡が確認されている。周辺にはアラヤ遺跡、長者山遺跡、波里町遺跡、台波里遺跡、西原遺跡、堀遺跡、文京二丁目遺跡などが分布しており、台波里廃寺跡を中心としたこれらの遺跡群は、那賀郡の郡庁院、正倉院、寺院、集落が一体となった官衙関連遺跡として捉えられている⁸⁾。また、当城跡では前時代から引き続き集落が営まれている。平安時代の竪穴建物跡からは黒書土器や腰帯具などが出土している⁹⁾。

中世以降になると、水戸地方においても戦乱が続き、多くの城館が築かれている。当城跡周辺の主な中世城館跡は、大掾氏の一族である吉田氏の居館と考えられる吉田城跡 (30)、大掾氏の支城として築かれ、その後江戸氏の一族、春秋氏の居城であったとされる見川城跡、長者山城跡、大掾氏配下の穴戸氏の居城とされる中河内館跡などがある。また、那珂川流域では枝川城跡 (23)、堀口館跡、武田館跡、勝倉城跡、西木倉館跡、市毛館跡、那珂台地上においては島崎館跡、福田中坪館跡、玄蕃山館跡、原坪館跡、藤沢丹後館跡、高野式館跡、堀の内館跡、新地館跡などの多くの城館跡が確認されている。那珂川を望む台地上において、有力領主層を頂点とする領地支配のネットワークがみとれ、政治的・軍事的に重要な地であったことがうかがえる¹⁰⁾。

水戸城は、平安末期から鎌倉時代初期に常陸大掾馬場資幹が館を構えたのが始まりで、当初は馬場城と呼称されていた。馬場氏は大掾職を世襲していたため、現石岡市の府中に居住していたと考えられることから、馬場城は支館であり、その規模も小さかったと推定されている。次いで応永 33 年 (1426)、河和田城主江戶道房が大掾満幹の留守に水戸城を占拠し、以来 165 年間、江戸氏の支配が続いた。江戸氏時代の水戸城は、居館のあった内城とその外郭である宿城からなり、城郭としての構えが成立したと考えられている。天正 18 年 (1590)、太田城の佐竹義重・義宣が江戸氏を討伐し、本拠を太田城から水戸城へ移し、領国の中心と定めた。内城を本丸、宿城を二の丸とし、また二の丸の外側に郭を造り、三の丸としたと伝えられている¹¹⁾。さらに、大掾氏時代からの古い水戸明神や浄光寺のある側に浄光寺曲輪を設けるなど、文禄 2 年 (1593) から慶長 7 年 (1602) ごろまで積極的に城郭の修築・拡張をおこなった。城下町においても三の丸の門前に町人町が定められ、城郭は町人町からはっきりと分離されるなど、徳川時代の城郭及び城下町の基礎は佐竹氏の時期に築かれた。慶長 7 年 (1602) 5 月、佐竹氏は徳川家康に秋田へ転封を命じられ、同年 11 月には家康の第 5 子武田信吉が水戸城に入封する。しかし、翌年病死したため、家康第 10 子の頼宣が城主となる。続いて第 11 子頼房が水戸徳川家の初代藩主となり、水戸藩の基礎をなした¹²⁾。この際に家康の家臣であった中山信吉が、頼房に付属されて家老となり、中山氏は水戸藩家老として代々仕えていくことになる。頼房は寛永 2 年 (1625) に城の大修築を始め、二の丸を本丸とし、大手橋をつくった。寛永 5 年 (1628) には、本丸多聞・二の丸帯曲輪・田町水門の普請が行われ、寛永 15 年 (1638) には、三の丸の南北の郭門・南見付・荒神見付などもつくられた。二の丸の北西部において、この時期に構築された堀跡と法面を形成する盛土遺構を確認している¹³⁾。城下町に関しては、寛永 2 年に町人を移住させた田町周辺が下町、それに対して城郭部分の台地上は上町と呼ばれ、整備拡張が行われた。曲輪間を区画する堀もこの徳川時代のものでされている。このような整備拡張が行われたが、



第1図 水戸城跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「水戸」「ひたちなか」）

表1 水戸城跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代								
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	
①	水戸城跡	○			○	○	○	○	25	横竹隣遺跡							○	
2	三の九古墳				○				26	塙平遺跡			○		○			
3	東照宮境内遺跡		○						27	酒門台遺跡			○	○	○			
4	東照宮境内古墳群				○				28	酒門台古墳群				○				
5	鷹匠町遺跡					○			29	横宿遺跡		○	○	○				
6	釜神町遺跡		○		○	○		○	30	吉田城跡							○	
7	七面製陶所跡							○	31	安楽寺遺跡		○	○		○			
8	五軒町古墳群				○				32	大鋸町遺跡		○	○	○	○			
9	並松町遺跡		○						33	大鋸町古墳					○			
10	茨城高等学校遺跡		○	○					34	薬王院東遺跡		○	○		○			
11	根本町遺跡		○						35	吉田神社遺跡			○	○	○			
12	柳河町遺跡			○	○	○			36	水戸南高校遺跡		○	○	○				
13	反町遺跡			○	○				37	吉田貝塚		○						
14	青柳町遺跡					○			38	お下屋敷遺跡		○	○	○	○			
15	津田若宮遺跡	○	○	○	○	○			39	東組遺跡		○	○		○		○	
16	天神山遺跡		○	○	○	○			40	吉田古墳群		○		○				
17	天神山古墳				○				41	元吉田原遺跡				○	○			
18	天神山館跡		○	○	○	○			42	米沢町遺跡			○	○	○			
19	西中島遺跡		○	○	○	○			43	福沢古墳群				○				
20	上馬場遺跡		○	○					44	弘沢古墳群				○				
21	津田久保遺跡				○	○			45	笠原水道								○
22	市毛上坪遺跡			○	○	○			46	舟付遺跡				○				
23	枝川城跡						○		47	下本郷遺跡		○						
24	三ノ町遺跡							○	48	柳崎貝塚		○						

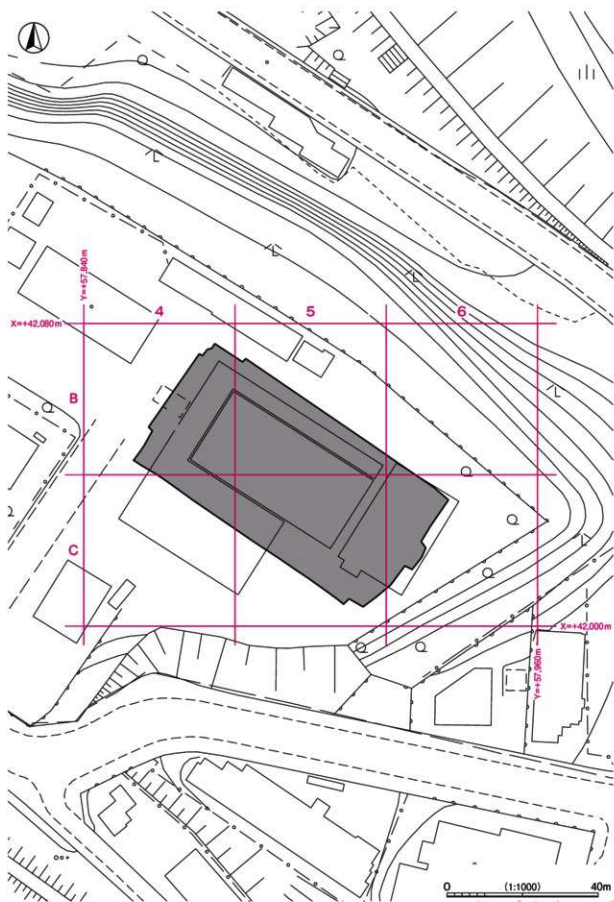
上町・下町ともに上用水の確保は困難であった。そこで徳川光圀は寛文2年(1662)に笠原不動谷の湧水を引くために笠原水道(45)の建設に着手し、翌年完成させた¹⁰⁾。天保12年(1841)には、徳川齊昭によって藩校である弘道館が開かれた。

その後、幕末の争乱を迎え、水戸城周辺でも倒幕派と佐幕派による弘道館の戦いが起り、明治4年(1871)には廃城令が公布され、翌年、放火によりほとんどの建物が焼失した。その後、第二次世界大戦の昭和20年(1945)の水戸大空襲により、三階櫓なども焼失し、現在、当時の様子をうかがえる城郭施設はほとんど残っていない。現存するものでは、旧弘道館(正庁・至善堂・正門附櫓)が昭和27年に国の特別史跡、昭和39年に国の重要文化財に、土塁・空堀が昭和42年に県指定史跡に、昭和58年に薬師門が県指定有形文化財にそれぞれ指定されている。また、平成27年に旧弘道館は「近世日本の教育遺産-学ぶ心・礼節の本源-」の一部として日本遺産に登録されている。さらに水戸市による「明治維新150年記念 水戸城大手門復元整備事業」に伴う大手門跡の発掘調査で、大型の瓦葺や石組水路が発見されている¹¹⁾。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の当該遺跡番号と同じである。なお本章は財団報告第329・362・396集を基にして、加筆修正を加えたものである。

註

- 1) 水戸市史編さん委員会『水戸市史 上巻』水戸市 1963年10月
- 2) 茨城県教育庁文化課「茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)」茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 菅川修『十万原遺跡1 十万原地区市街地開発事業地内市街地開発事業地埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第179集 2001年3月
- 4) 註1に同じ
- 5) 盛野浩一「見川塚遺跡 広城公園併築公園園路広場整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告第430集 2018年3月
- 6) 田中裕 太田有里乃 栗原悠 小林佳南子 山川千博 横山真那美 大久保敦史 菅澤由希 下山はる奈「常陸国那賀郡家周辺遺跡の研究」茨城大学人文学部考古学研究报告第11冊 2014年3月
- 7) 茨城県教育財団 水戸市教育委員会『水戸城跡(第5地点・第6地点)現地説明会資料』2008年11月
- 8) 佐々木藤雄他「台渡里廃寺跡-市道常盤17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)-」水戸市埋蔵文化財報告書第4集 水戸市教育委員会 2006年3月
- 9) 盛野浩一「水戸城跡 水戸地方検察庁仮庁舎建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告第396集 2015年3月
- 10) 井上琢哉「主要地方道水戸茂木線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書 加倉井忠光館跡」茨城県教育財団文化財調査報告第294集 2008年3月
- 11) 茨城地方史研究会「茨城の歴史 県北編」茨城新聞社 2002年5月
- 12) 水戸市史編さん委員会『水戸市史 中巻(一)』水戸市 1968年8月
- 13) 清水智「水戸城跡 一般県道水毛水戸線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告第329集 2010年3月
- 14) 註11に同じ
- 15) 水戸市教育委員会『水戸城跡第63次発掘調査(大手門跡)現地説明会資料』2018年1月



第2図 水戸城跡調査区設定図（水戸市都市計画図 2,500分の1）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

水戸城跡は、水戸市の北部を東流する那珂川右岸の上市台地の東端に所在している。遺跡の範囲は東西約1,100 m、南北約950 mである。調査区は遺跡の中央北部に位置し、江戸時代の北三の丸の東端にあたる。また、江戸時代は、水戸藩附家老中山氏の屋敷地と伝えられている。調査前は水戸地方検察庁舎跡で、調査面積は東西約78 m、南北約39 mの長方形で2,854㎡である。

調査の結果、竪穴建物跡1棟（平安時代）、掘立柱建物跡15棟（江戸時代14・明治時代1）、井戸跡3基（江戸時代1・明治時代2）、石組水路跡4条（明治時代）、水路状施設1か所（明治時代）、溝跡8条（江戸時代7・明治時代1）、整地跡2か所（明治時代）、土坑335基（江戸時代252・近代83）、柱穴列3か所（近代）、ピット群10か所（江戸時代9・近代1）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に75箱出土している。主な遺物は、土師器（坏・高台付坏・甕）、須恵器（坏・碗・高台付坏・甌類・甕類・飯）、灰軸陶器（壺）、土師質土器（皿・蓋・灯明皿・燭台・瓦灯傘[※]・置き壺・行平・焙烙・焼塩壺蓋・焼塩壺・火入・火鉢・七厘・七厘風口・焔炉・五徳）、瓦質土器（火消壺蓋・火鉢・焔炉・風炉・播鉢）、陶器（小坏・碗・蓋・皿・水柱・カンテラ・鬘水入れ・行平・土瓶蓋・土瓶・鍋・髪油壺・柄杓形容器・播鉢・植木鉢・片口・火鉢・徳利・渡瓶・小甕・中甕・本業敷瓦・便器[※]）、炆器（急須蓋・急須・播鉢・広口壺）、磁器（小坏・筒形坏・碗・皿・鉢・猪口・香炉・水滴・仏花瓶・梅瓶）、土製品（土人形・碁石・煉瓦・土管）、石器・石製品（砥石・碁石・岩樋）、金属製品（包丁・鎌・鋸・釘・簪・煙管）、銭貨、骨格製品（櫛払い）、瓦（軒丸瓦・軒平瓦・棟込瓦・軒棧瓦・斐斗瓦・平瓦・丸瓦）、煉瓦、ガラス製品（インク瓶・食品瓶・薬品瓶）、自然遺物（高瀬貝・貝ボタン）などである。

第2節 基本層序

調査区北西部の台地上の平坦面（B 4c8区）にテストピットを設定し、基本土層の観察を行った。テストピット周辺では、第1層の上に攪乱層と砕石からなる表土が約40cm堆積している。

第1層は、褐色のソフトローム層である。締まりがやや強く、層厚は10～32cmである。

第2層は、黄褐色のハードローム層である。締まりが強く、層厚は10～30cmである。

第3層は、明黄褐色のハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は10～28cmである。

第4層は、黄褐色のハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は10～24cmである。シルトを含み、常総粘土層の漸移層と考えられる。

第5層は、にぶい黄橙色の常総粘土層である。粘性・締まりともに非常に強く、細礫を少量含み、層厚は26～58cmである。

第6層は、灰白色の常総粘土層である。粘性・締まりともに非常に強く、鉄分を少量含み、層厚は20～40cmである。

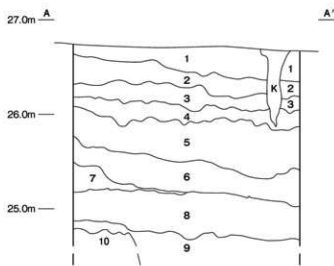
第7層は、にぶい黄橙色の常総粘土層である。粘性が強く、砂粒を少量含み、層厚は0～30cmである。

第8層は、にぶい黄褐色で砂質が強くなった常総粘土層である。第7層よりも砂粒を、第6層よりも鉄分を多量に含む。粘性はやや強く、締まりも強く、層厚は30～50cmである。

第9層は、褐色の段丘礫層への漸移層である。締まりが強く、砂粒を多量、礫を少量含み、層厚は下部が未掘のため不明である。

第10層は、暗褐色の段丘礫層への漸移層である。粘性は弱く、締まりはやや強い。砂粒を多量、礫を中量含む。層厚は、下部が未掘のため不明である。

遺構は、第1次面を調査区西部では、第1層上面で確認している。調査区中央部・東部では第3層下面の標高で確認している。また、調査区南部および東部は広い範囲で整地されており、第2次面を第5層と同じ標高で確認している。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

本節では、時代別に項目を設け、記述を行う。当調査区一帯は、平安時代以降、現代まで性格を変えながら、土地利用されてきた。各時代ごとに記述し、土地利用の過程を時系列で捉えていく。

1 平安時代の遺構と遺物（第2次面）

当時代の遺構は、竪穴建物跡1棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

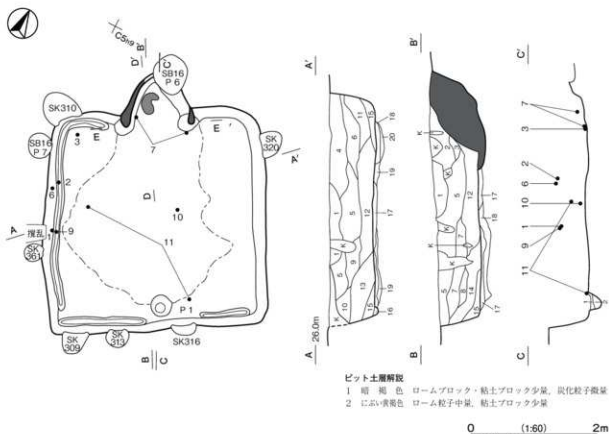
第12号竪穴建物跡（第4～6図 PL 2・6）

位置 調査区南東部のC 5 h9区、標高258mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第16号掘立柱建物、第309・310・313・316・320・352・353・356～361・364号土坑、第11号ビット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.56m、短軸3.52mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁は高さ68～73cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部から竈付近が踏み固められている。貼床は、外回りを溝状に掘り込まれ、暗褐色土で構築されている。竈西側から西壁の壁下及び、南壁の壁下に壁溝が巡っている。壁溝は幅約12cm、深さ6cm程度である。



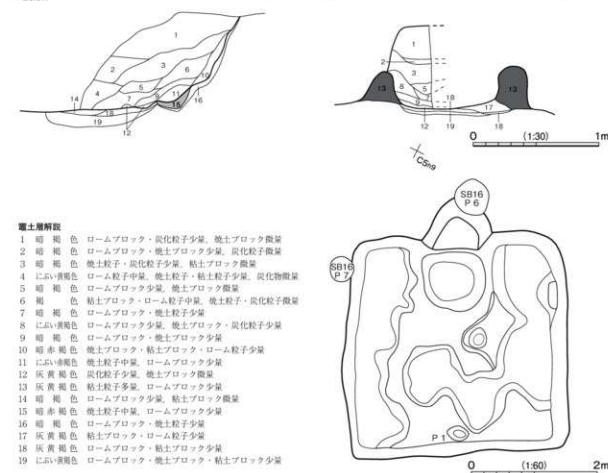
第4図 第12号竪穴建物跡実測図(1)

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚き口から煙道部まで95cmで、燃焼部幅は70cmである。袖部は、粘土粒子を主体とした第13層を積み上げて構築されている。火床面は、第15層上面で火熱を受けて赤変しているが、硬化は確認できない。煙道部は第16号掘立柱建物に掘り込まれており、全容は確認できないが、壁外に48cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

ピット P1は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 16層に分層でき、多くの層にロームブロック、粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第17～20層は、貼床の構築土である。

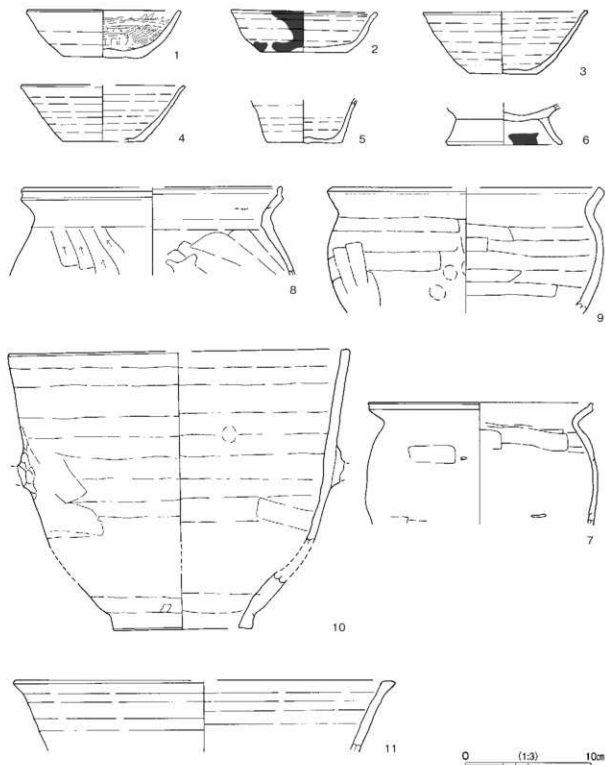
土層解説			
1	暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	11	暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
2	にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土粒子中量、粘土ブロック、炭化物微量	12	暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量
3	暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化物微量	13	暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・粘土粒子少量
4	暗褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	14	暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック少量
5	暗褐色 ロームブロック・粘土粒子・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	15	暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量
6	暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	16	暗褐色 粘土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量
7	にぶい黄褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	17	暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
8	暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量	18	暗褐色 粘土ブロック・炭化物・粘土ブロック・ローム粒子少量
9	暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・粘土ブロック少量	19	灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量、粘土ブロック微量
10	暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	20	にぶい黄褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子微量



第5図 第12号竈穴建物跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片 694 点 (坏 37, 高台付坏 3, 甕類 654), 須恵器片 79 点 (坏 43, 高台付坏 5, コップ形土器 1, 瓶類 2, 甕類 17, 甕 11), 灰釉陶器片 1 点 (壺), 粘土塊 9 点が, 全域から散在した状況で出土している。3・7 は床面近くから出土しており, 廃絶時に遺棄されたか廃絶後間もなく投棄されたものである。10・11 は覆土下層から出土したもので, 埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉と考えられる。



第6図 第12号堅穴建物跡出土遺物実測図

第12号竪穴建物跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	120	3.8	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土上層	100%
2	土師器	坏	[114]	3.4	[6.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り痕を残すナゲ	覆土上層	50%
3	須恵器	坏	130	5.1	5.6	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残すナゲ ヘラ記号「×」	床面	80% 木葉下遺層
4	須恵器	坏	[130]	4.5	[6.4]	長石・石英・針状物質	灰	普通	底面ナゲ	覆土中	30% 木葉下遺層
5	須恵器	コップ形土師器	-	(3.5)	[6.0]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り痕を残すナゲ	覆土中	20% 木葉下遺層
6	土師器	高台付坏	-	(3.2)	9.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼付け	覆土上層	40%
7	土師器	甕	176	(9.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナゲ 体部外・内面ヘラナゲ	覆土中 床面	20%
8	土師器	甕	[206]	(7.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナゲ 体部外面上半部ヘラ磨り 体部内面ヘラナゲ	掘方覆土中	5%
9	土師器	甕	[222]	(9.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁～頸部外面横ナゲ 体部外面中位縦位ヘラナゲ 指頭痕 体部内面ヘラナゲ	覆土上層	10%
10	須恵器	瓶	[272]	(19.5)	[11.0]	長石・石英・礫・針状物質	黄灰	普通	体部外・内面中位斜位ヘラナゲ 突起部指頭痕	覆土下層	10% 木葉下遺層
11	須恵器	瓶	[306]	(3.6)	-	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	体部外・内面横ナゲ	覆土下層	5% 木葉下遺層

2 江戸時代の遺構（第2次面）

当時代の遺構は、掘立柱建物跡14棟、井戸跡1基、溝跡7条、土坑252基、ピット群9か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡（第7・63図 PL 6）

位置 調査区南部のC 4b9区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

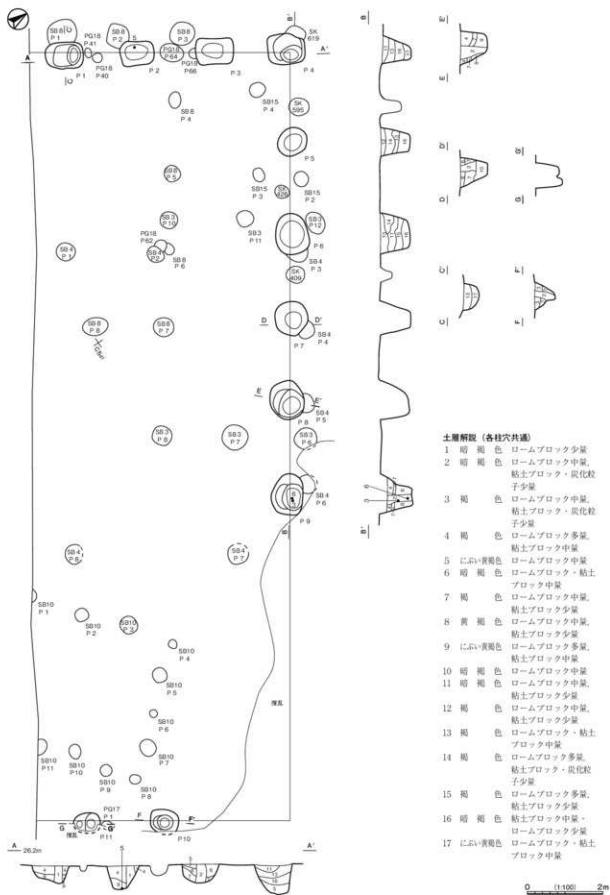
重複関係 第4・8号掘立柱建物跡、第619号土坑、第18号ピット群P 66を掘り込んでいる。第3・10・15号掘立柱建物とも重複をしているが、柱穴同士は重複していない。第409・426・595号土坑、第17号ピット群P 1、第18号ピット群P 40・P 41・P 64とも重複関係にあるが、新旧は不明である。

規模と構造 南部は調査区域外に延びており、北東部は攪乱を受けているため、桁行5間、梁行3間のみ確認できた。桁行5間以上、梁行4間以上の欄柱建物で、桁行方向がN-55°-Wの東西棟と推測できる。規模は、桁行20.30mで、梁行は6.85mである。柱間寸法は、桁行が西妻から2.4m（8尺）、2.4m（8尺）、2.3m（8尺）、2.2m（7尺）、2.4m（8尺）、梁行が西妻側で北平から、2.0m（7尺）、2.0m（7尺）、1.8m（6尺）で柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 11か所。平面形は、隅丸方形または楕円形で、規模は長軸・長径68～108cm、短軸・短径60～86cmである。深さは48～73cmで、掘方の壁はほぼ直立または外傾している。本来は、P 9の東側に柱穴が4か所、P 10の北側にも1か所存在したと考えられるが、攪乱により確認できなかった。第1・2層は柱痕跡で、第3～10層は埋土である。第11～17層は柱材抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 須恵器片4点（坏）、土師質土器片19点（皿3、小皿15、焙烙1）、磁器片1点（碗）が、P 1～P 5・P 7・P 9・P 11の覆土中からまばらに出土している。

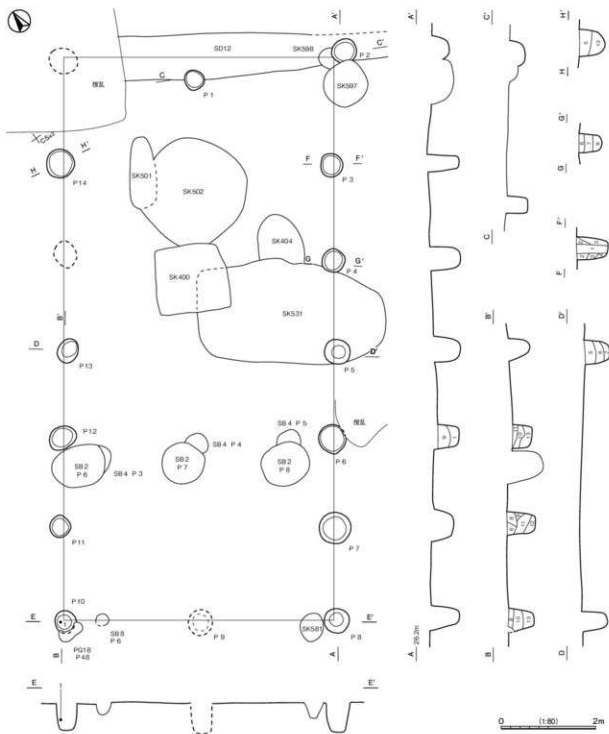
所見 時期は、第4・8号掘立柱建物跡を掘り込んでいることや、出土土器から江戸時代後期の18世紀後半から19世紀中葉に比定できる。本跡は、掘立柱建物群の中でも規模が最大の東西棟で、江戸時代は中山備前守の屋敷地であったことから、中山氏に關係する建物と推測できる。その規模の大きさから屋の可能性をもつ建物が想定される。



第7図 第2号掘立柱建物跡実測図

第3号掘立柱建物跡 (第8・63図)

位置 調査区中央部のC 5a2区、標高25.8mほどの平坦な台地上に位置している。



土層解説 (各柱穴共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック中層、粘土ブロック少量
- 2 黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 黄褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量
- 4 黄褐色 ローム粒子中層、粘土ブロック少量
- 5 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子顕著
- 6 黄褐色 粘土ブロック中層、ロームブロック少量
- 7 黄褐色 ロームブロック中層、粘土ブロック少量

- 8 褐色 ロームブロック中層、粘土ブロック・炭化粒子少量
- 9 黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中層
- 10 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物中層
- 11 褐色 ロームブロック中層、粘土ブロック少量
- 12 に近い黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中層
- 13 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第8図 第3号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第531・598号土坑を掘り込み、第8号掘立柱建物、第597号土坑、第12号溝、第18号ピット群P 48に掘り込まれている。また、第2・4号掘立柱建物、第581号土坑とも重複しているが、柱穴との重複は見られない。第404号土坑は、本跡よりも古く、第400・501・502号土坑との新旧は不明である。

規模と構造 桁行6間、梁行2間の偶柱で、桁行方向がN-36°-Eの南北棟である。規模は、桁行12.00m、梁行5.76mで、面積は69.12㎡である。柱間寸法は、桁行が北妻から2.4m(8尺)、2.1m(7尺)、1.8m(6尺)、1.9m(6尺)、1.8m(6尺)、2.0m(7尺)、梁行が2.8m(9尺)の等間で柱筋はほぼ揃っている。

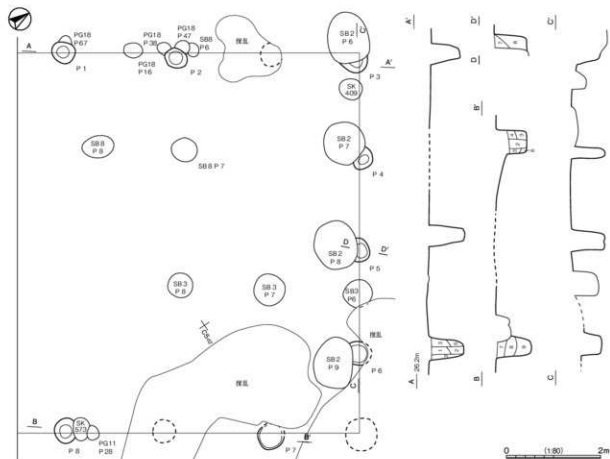
柱穴 14か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径40～67cm、短径38～66cmである。深さは34～76cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P 13・P 14の北側は覆乱を受けており、柱穴が確認できなかった。またP 9は、第8号掘立柱建物P 7に掘り込まれており、確認できなかった。第1層は柱痕跡で、第2～4層は埋土である。第5～13層は柱材抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿1、小皿5)が、P 10・P 12の覆土中から出土している。1はP 10の覆土中層から出土している。

所見 時期は出土土器から江戸時代初期・前期の17世紀前葉から中葉と考えられる。掘立柱建物群の中でも規模が大きな南北棟である。性格は、規模と構造から屋としての機能が想定できる。

第4号掘立柱建物跡(第9図)

位置 調査区南部のC 5b1区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。



第9図 第4号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第18号ピット群P 38・P 47・P 67を掘り込み、第2号掘立柱建物、第573号土坑に掘り込まれている。また、第3・8号掘立柱建物とも重複しているが、柱穴との重複は見られない。第409号土坑、第11号ピット群P 28、第18号ピット群P 16とも重複をしているが、新旧は不明である。

規模と構造 南部が調査区域外に延びており、攪乱によって一部の柱穴が確認できなかったが、桁行4間、梁行が3間以上の側柱建物で、桁行方向がN-57°-Wの東西棟と推定できる。規模は、推定桁行8.04mで、確認できた桁行が6.30m、梁行6.30mで、面積は50.65㎡である。柱間寸法は、桁行が西妻から2.2m（7尺）、2.0m（7尺）、2.1m（7尺）、梁行が西妻側で北平から推定2.0m（7尺）、2.0m（7尺）、2.2m（7尺）で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径44～52cm、短径26～46cmである。深さは60～75cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は柱痕跡、第3～6層は埋土、第7～9層は柱材抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量	6 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	7 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量	8 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
4 にくい黄褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量	9 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
5 暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量	

所見 遺物は出土していないが、重複関係から第8・15号掘立柱建物跡を建て替えて、規模を大きくしたと推測される。第8号掘立柱建物跡の時期は、出土土器から17世紀後葉から18世紀前葉と考えられるため、本跡は江戸時代中期の18世紀前葉から中葉と判断した。性格は、規模と構造から屋としての機能が想定できる。

第5号掘立柱建物跡（第10図）

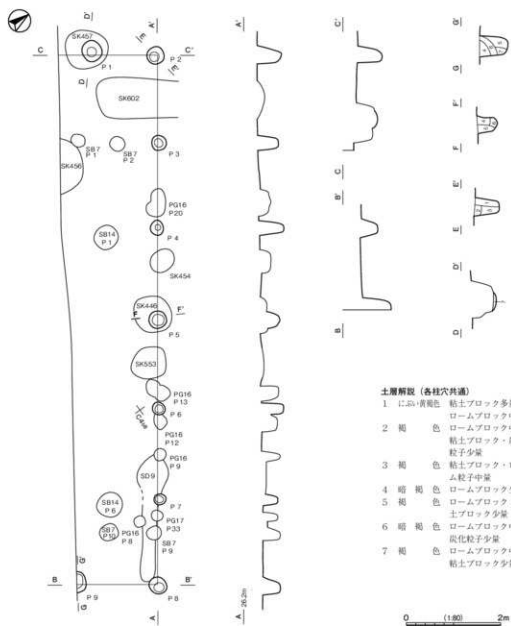
位置 調査区南西部のC 4a7区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号掘立柱建物跡、第9号溝跡、第446号土坑、第16号ピット群P 12を掘り込み、第457号土坑に掘り込まれている。第14号掘立柱建物とも重複しているが、柱穴同士の重複は見られない。また、第454・553・602号土坑、第16号ピット群P 9・P 13・P 20、第17号ピット群P 33との新旧は不明である。

規模と構造 南部が調査区域外に延びていることから、桁行6間で、梁行は1間しか確認できなかった。桁行6間、梁行2間以上の側柱建物で、桁行方向がN-54°-Wの東西棟と推定できる。規模は、桁行11.20m、梁行2.10mで、確認できた範囲の面積は23.52㎡である。柱間寸法は、桁行が西妻側から1.8m（6尺）、1.8m（6尺）、2.0m（7尺）、1.9m（6尺）、1.9m（6尺）、1.8m（6尺）で、梁行が西妻側で1.5m（5尺）で柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 9か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径32～66cm、短径24～36cmである。深さは28～52cmで、掘方の壁はほぼ直立または外傾している。P 3は、第7号掘立柱建物跡のP 3を掘り込んでいる。第1層は柱痕跡、第2・3層は埋土である。第4～7層は柱抜き取り後の覆土である。

所見 遺物は出土していないが、掘立柱建物同士が重複する状況から考えると、建て替えが推測できる。第7号掘立柱建物跡と本跡は軸がほぼ同じであり、本跡の規模が大きくなっていることから、第7号掘立柱建物跡の建て替えと考えられる。第7号掘立柱建物跡の時期は、重複関係から17世紀後葉から18世紀前葉と考えられるため、それに続く江戸時代中期の18世紀前葉から中葉と判断した。性格は、規模と構造から、倉庫としての機能が想定できる。



土層解説 (各柱穴共通)

- 1 に赤・黄褐色 粘土ブロック多量、
ロームブロック中量
- 2 褐色 土ブロック中量、
粘土ブロック・炭化
粒子少量
- 3 褐色 粘土ブロック・ローム
粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック・粘
土ブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、
炭化粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック中量、
粘土ブロック少量

第10図 第5号掘立柱建物跡実測図

第6号掘立柱建物跡 (第11・63図)

位置 調査区西南部のB4h6区、標高258mほどの台地平坦部に位置している。

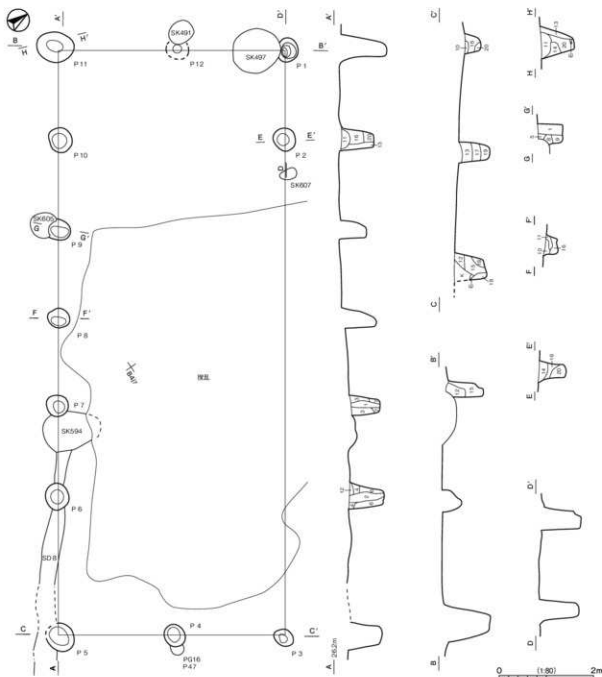
重複関係 第594号土坑、第8号溝跡、第16号ピット群P47を掘り込み、第491・497・605号土坑に掘り込まれている。第607号土坑との新旧は不明である。

規模と構造 桁行6間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-55°-Wの東西棟である。規模は、桁行12.60m、梁行5.10mで、面積は64.26㎡である。北側は攪乱を受けており、一部の柱穴を確認することができなかった。柱間寸法は、桁行が南平で東妻側のみ2.8m(9尺)、それ以外は1.9m(6尺)、梁行は東妻側で2.4m(8尺)等間である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径44~80cm、短径32~62cmである。深さは40~100cmで、掘方の壁はほぼ直立または外傾している。第1・2層は柱痕跡、第3~9層は埋土である。第10

～20層は、柱材抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 須恵器片1点(坏), 土師質土器片2点(小皿)が、それぞれP5・P8の覆土中から出土している。P5の須恵器片は、建物廃絶時の埋め戻しで混入したものと考えられる。



土層解説 (各柱穴共通)

- 1 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 4 に近い黄褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 灰化粒子少量
- 6 褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 8 褐色 ロームブロック多量
- 9 黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック少量

- 11 褐色 ローム粒子中量, 灰化粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 13 に近い黄褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 14 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量
- 15 灰褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子微量
- 16 褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 17 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 18 褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック少量
- 19 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 20 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量

第11図 第6号掘立柱建物跡実測図

所見 出土土器の量が少なく、細片のため明確な時期の決定ができない。そこで、掘立柱建物の配置場所から考えると、18世紀前葉から中葉であるとみられる第5号掘立柱建物跡をやや北側に規模を大きくして建て替えたと推測できることから、江戸時代後期の18世紀中葉から後葉と考えられる。

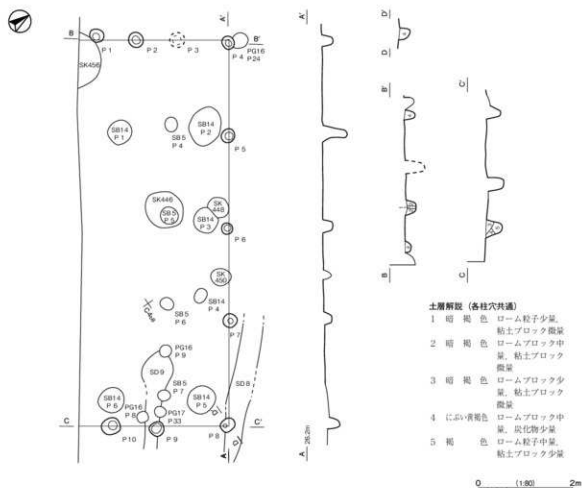
第7号掘立柱建物跡（第12図）

位置 調査区西南部のC4a6区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8・9号溝跡、第16号ピット群P24を掘り込み、第5号掘立柱建物に掘り込まれている。第14号掘立柱建物とも重複しているが、柱穴同士の重複は見られない。第446・448・450・456号土坑との新旧は不明である。

規模と構造 南部が調査区域外に延びていることから、桁行4間、梁行4間以上の側柱建物で、桁行方向がN-56°-Wの東西棟と推定できる。規模は、桁行8.10m、梁行3.20mで、面積は確認できた範囲で25.92㎡である。柱間寸法は、桁行が西妻から2.0m（7尺）、2.0m（7尺）、2.0m（7尺）、2.2m（7尺）、梁行が西妻側で北平から1.0m（3尺）、0.9m（3尺）、0.9m（3尺）で柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径24～40cm、短径22～38cmである。深さは10～54cmで、掘方の壁はほぼ直立またはやや外傾している。P3は、第5号掘立柱建物P3に掘り込まれており、確認ができなかった。第1層は柱痕跡、第2層は埋土、第3～5層は柱材抜き取り後の覆土である。



第12図 第7号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が、P10の覆土中から出土している。土師器片は建物廃絶時の埋め戻しで混入したものと考えられる。なお、小片のため図示できなかった。

所見 出土土器から時期を明確にすることができない。掘立柱建物同士が重複していることから、建て替えが推測できる。建物の規模から第14号掘立柱建物跡より新しく、第5号掘立柱建物より古いと想定できる。第5号掘立柱建物が18世紀前葉から中葉と考えられるため、それよりも古い17世紀後葉から18世紀前葉と判断をした。性格は、規模と構造から倉庫と考えられる。

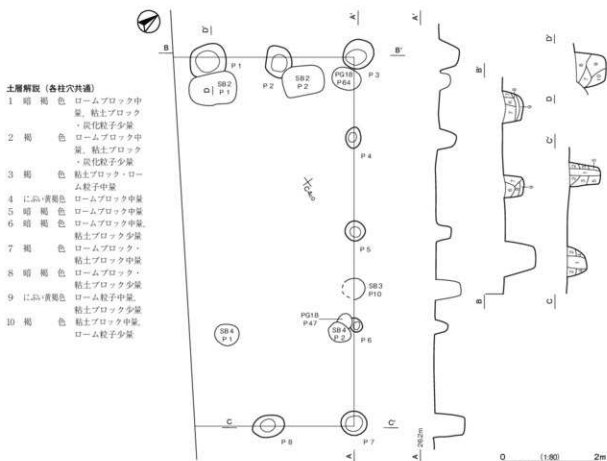
第8号掘立柱建物跡 (第13・63図)

位置 調査区南部のC4b9区、標高258mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号掘立柱建物跡を掘り込み、第2号掘立柱建物、第18号ピット群P47に掘り込まれている。第4号掘立柱建物とも重複をしているが、柱穴同士の重複はしていない。また、第18号ピット群P64とも重複関係にあるが、新旧は不明である。

規模と構造 南部が調査区域外に延びていることから、桁行4間、梁行2間のみ確認できた。桁行4間、梁行3間以上の側柱建物で、桁行方向がN-51°-Wの東西棟と推定できる。規模は、桁行7.84m、梁行3.86mである。柱間寸法は、桁行が西妻から1.7m(6尺)、2.0m(7尺)、2.0m(7尺)、2.1m(7尺)、梁行が西妻側で1.6m(5尺)、1.5m(5尺)で柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は、隅丸方形または楕円形で、規模は長軸・長径54~80cm、短軸・短径30~68cmである。深さは38~66cmで、掘方の壁はほぼ直立または外傾している。P7は、第3号掘立柱建物跡P9を掘り込ん



第13図 第8号掘立柱建物跡実測図

ている。第1層は柱痕跡で、第2～5層は埋土である。第6～10層は柱材抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 陶器片1点(皿)が、P4の覆土中から出土している。陶器片は、細片のため図示できなかったが、御深井釉の皿とみられる。

所見 出土土器の流通が17世紀中葉とみられ、建物の廃絶時に混入したものと推測できる。そのため、時期は17世紀後葉から18世紀前葉と考えられる。重複する第4号掘立柱建物の時期は18世紀前葉から中葉で、規模と配置から建て替えの可能性が高いため、本跡が古いとみられる。性格は、規模や構造から屋と考えられる。

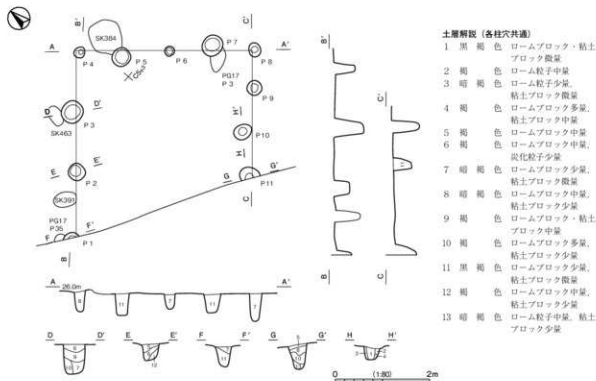
第10号掘立柱建物跡 (第14図)

位置 調査区南部のC5d2区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第384・463号土坑、第17号ピット群P3・P35を掘り込んでいる。第391号土坑とも重複しているが、新旧は不明である。

規模と構造 南部が調査区域外に延びていることから、桁行3間、梁行4間のみ確認できた。桁行3間以上、梁行4間の竪柱建物で、桁行方向がN-53°-Eの南北棟と推定できる。規模は、桁行3.90m、梁行3.69mを確認した。柱間寸法は、桁行が西平側で北妻から1.3m(4尺)、1.2m(4尺)、1.4m(5尺)、梁行が北妻から1.0m(3尺)、1.0m(3尺)、0.9m(3尺)、0.9m(3尺)でP10を除いて、柱筋はほぼ揃っている。
柱穴 11か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径22～48cm、短径20～44cmである。深さは32～62cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1層は柱痕跡で、第2～4層は埋土、第5～13層は柱材抜き取り後の覆土である。

所見 遺物は出土していないが、建物の主軸が他の建物群と明らかに違うため、時期は建て替えられた建物以前と想定でき、16世紀代までさかのぼる可能性がある。16世紀代は、この地に江戸氏の折願寺の和光院が存在したため、それに伴う建物と考えられる。



第14図 第10号掘立柱建物跡実測図

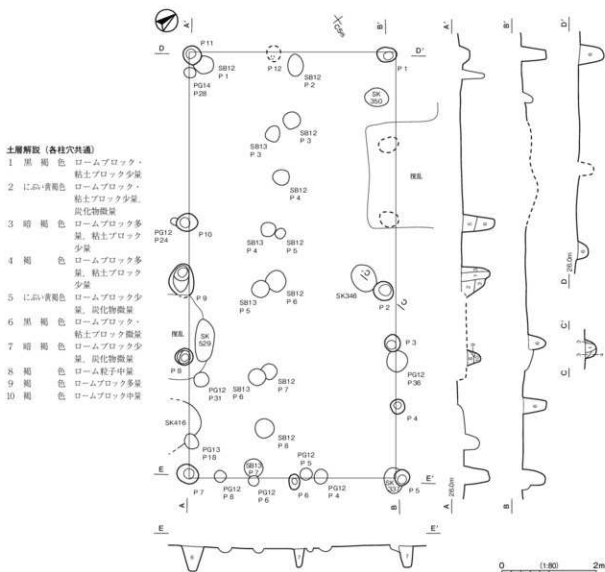
第 11 号掘立柱建物跡 (第 15 図)

位置 調査区南東部の C 5 4 区、標高 25.8 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 12 号掘立柱建物跡、第 337・346 号土坑、第 12 号ビット群 P 22・P 31 を掘り込み、第 13 号掘立柱建物に掘り込まれている。また、第 350・416・529 号土坑、第 12 号ビット群 P 4～P 6・P 8、第 13 号ビット群 P 18、第 14 号ビット群 P 28 とも重複しているが、新旧は不明である。

規模と構造 桁行推定 6 間、梁行 2 間の側柱建物で、桁行方向が N-54°-W の東西棟である。規模は、桁行 9.00 m、梁行 4.50 m で、面積は 40.50 m² である。柱間寸法は、桁行が南平側で西妻から 3.6 m (12 尺)、1.1 m (4 尺)、1.8 m (6 尺)、2.5 m (8 尺)、梁行が西妻側で南平から 1.8 m (6 尺)、2.3 m (8 尺) で柱筋は P 2 を除いて、ほぼ揃っている。

柱穴 12 か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径 32～70 cm、短径 22～52 cm である。深さは 24～70 cm で、掘方の壁はほぼ直立または外傾している。P 1 と P 2 の間は攪乱を受けており、一部の柱穴が確認できなかった。第 1 層は柱痕跡、第 2～4 層は埋土、第 5～10 層は柱材抜き取り後の覆土である。



第 15 図 第 11 号掘立柱建物跡実測図

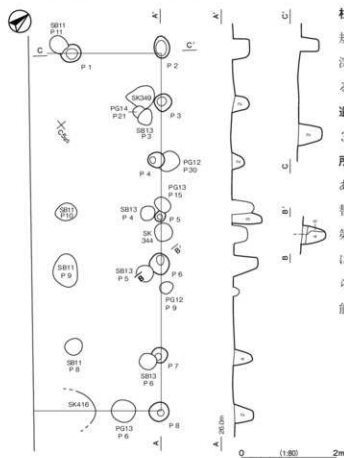
遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が、P3の覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。
所見 出土土器が細片のため、時期決定が困難である。重複関係と規模からみて、第12号掘立柱建物から本跡への建て替えが想定される。本跡の主軸は第6号掘立柱建物とほぼ同じため、同時期の建物と想定できる。また、18世紀前葉から中葉の第12号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、本跡は江戸時代後期の18世紀中葉から後葉と考えられる。性格は、規模と構造から倉庫としての機能が想定できる。

第12号掘立柱建物跡 (第16・63図)

位置 調査区南東部のC54区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号ピット群P30を掘り込み、第11・13号掘立柱建物、第416号土坑、第13号ピット群P15に掘り込まれている。第344・349号土坑、第13号ピット群P6とも重複しているが、新旧は不明である。

規模と構造 南部は調査区域外に延びているため、桁行6間、梁行1間のみ確認できた。桁行6間、梁行2間以上の側柱建物で、桁行方向がN-48°-Wの東西棟である。規模は、桁行7.62m、梁行2.50m以上である。柱間寸法は、桁行が西妻から1.1m(4尺)、1.2m(4尺)、1.2m(4尺)、0.9m(3尺)、2.0m(7尺)、1.2m(4尺)、梁行が1.8m(6尺)で柱筋はほぼ揃っている。



柱穴 8か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径22~44cm、短径20~42cmである。深さは26~48cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1~5層は柱材抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が、P3の覆土中から出土している。

所見 出土土器が細片のため、時期決定が困難である。第11号掘立柱建物との重複関係から建て替えが推測でき、本跡の規模が小さいことから、第11号掘立柱建物より古いと想定される。時期は、江戸時代中期の18世紀前葉から中葉と考えられる。性格は、規模と構造から倉庫としての機能が想定できる。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 褐色 ローム粒子中葉
- 2 暗褐色 ロームアブロック少量
- 3 暗褐色 ロームアブロック少量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームアブロック多量
- 5 暗褐色 ロームアブロック中量

第16図 第12号掘立柱建物跡実測図

第13号掘立柱建物跡 (第17・63図)

位置 調査区南東部のC54区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11・12号掘立柱建物跡、第13号ピット群P 16、第14号ピット群P 19を掘り込み、第401号土坑、第12号ピット群P 6に掘り込まれている。第12号ピット群P 15とも重複しているが、新旧は不明である。第349号土坑とは重複している第14号ピット群P 19が掘り込んでいるため、本跡が新しい。

規模と構造 北部、西部及び南東部の一部が攪乱を受けているため、桁行6間、梁行1間のみ確認できた。桁行7間以上、梁行2間以上の隅柱建物跡で、桁行方向がN-51°-Wの東西棟である。規模は、桁行11.50m、梁行2.20mである。柱間寸法は、桁行は西妻から推定1.2m（4尺）、1.6m（5尺）、2.1m（7尺）、1.3m（4尺）、1.8m（6尺）、2.0m（7尺）、1.5m（5尺）、梁行は南平から2.2m（7尺）で柱筋はほぼ揃っている。

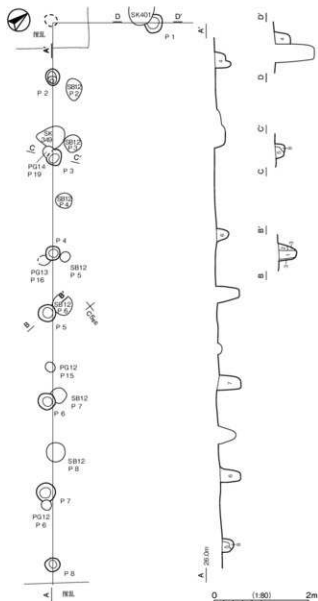
柱穴 8か所。平面形は、円形または隅丸方形で、規模は長径・長軸30～42cm、短径・短軸28～38cmである。深さは22～48cmで、掘方の壁はほぼ直立または外傾している。第1層は柱痕跡で、第2・3層は埋土、第4～8層は柱材抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 土師器片1点(甕)、土師質土器片1点(皿)が、それぞれP 6・P 7の覆土中から出土している。P 6の土師器片は、建物廃絶時の埋め戻しの混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器が細片のため、決定が困難である。建物の重複関係をみると、本跡は他の建物跡と軸が少し違っており、北側が攪乱のため不明瞭ではあるが、建て替えが推測できる。重複関係と規模からみて、第11号掘立柱建物跡よりも新しいと想定される。そのため、時期は江戸時代後期の18世紀後半から19世紀中葉と考えられる。性格は、規模と構造から倉庫としての機能が想定できる。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭土粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック多量 (8層より締まりが強い)
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 7 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 8 褐色 ロームブロック多量



第17図 第13号掘立柱建物跡実測図

第14号掘立柱建物跡 (第18図)

位置 調査区南西部のC 4a7区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

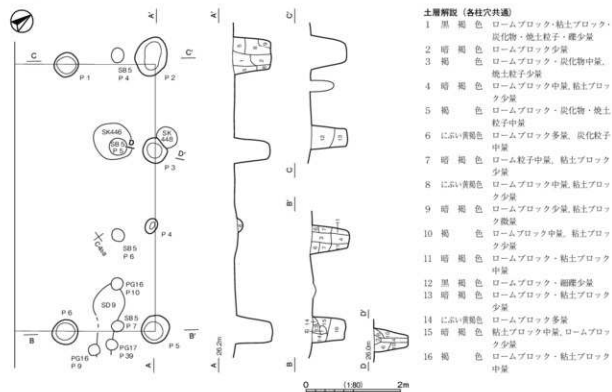
重複関係 第448号土坑を掘り込んでいる。第5・7号掘立柱建物とも重複しているが、柱穴同士の重複は見られない。第9号溝、第446号土坑とも重複しているが、新旧は不明である。

規模と構造 南部は調査区域外に延びているため、桁行3間、梁行1間のみ確認できた。桁行3間、梁行2間以上の側柱建物で、桁行方向がN-53°-Wの東西棟である。規模は、桁行380m、梁行1.60mで面積は6.08㎡である。柱間寸法は、桁行が西妻から1.2m(4尺)、1.1m(3尺)、1.5m(5尺)、梁行が1.2m(4尺)、で柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径24～56cm、短径16～44cmである。深さは10～54cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1～4層は柱痕跡、第5～11層は埋土、第12～16層は柱材抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 土師器片1点(表)がP6の覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。土師器片は、建物廃絶時の埋め戻しの混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器が細片のため、決定が困難である。建物の重複関係から、建て替えが推測できる。本跡は、第5・7号掘立柱建物跡とほぼ同じ場所で、規模が小さいため、2つの掘立柱建物より古い建物と想定した。また、第3号掘立柱建物と軸線がほぼ同じであることから、本来は南北棟であった可能性や同時期に存在したことが考えられる。以上のことから、時期は江戸時代初期の17世紀前葉から中葉と考えられる。性格は、規模と構造から倉庫としての機能が想定できる。



第18図 第14号掘立柱建物跡実測図

第15号掘立柱建物跡 (第19図)

位置 調査区南部のC4a0区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第423・557号土坑を掘り込んでいる。第2号掘立柱建物とも重複関係にあるが、柱穴同士は重複していない。第595・619号土坑、第19号ピット群P17とも重複しているが、新旧は不明である。

規模と構造 北部が掘乱を受けており、柱穴の一部を確認することができず、桁行3間、梁行2間を確認できた。桁行3間、梁行2間以上の側柱建物で、桁行方向がN-54°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.55m、

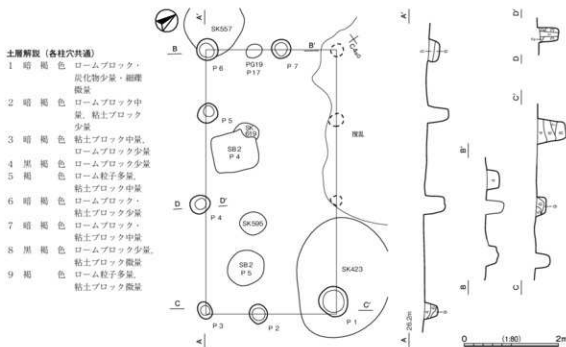
土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土粒子・糞少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子中量
- 6 広い黄褐色 ロームブロック多量、炭化物中量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量
- 8 広い黄褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 10 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 11 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 12 黒褐色 ロームブロック・細砂少量
- 13 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 14 広い黄褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 15 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 16 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

梁行2.76mで、面積は15.32㎡である。柱間寸法は、桁行が西妻から1.3m（4尺）、1.8m（6尺）、2.4m（8尺）、梁行が西妻側の南平から2.0m（7尺）、東妻側の南平から1.5m（5尺）、2.0m（7尺）で柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 7か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径38～46cm、短径28～46cmである。深さは20～46cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1層は柱痕跡で、第2・3層は埋土である。第4～9層は柱材抜き取り後の覆土である。

所見 建物の重複関係から建て替えが推測でき、本跡は第8号掘立柱建物と主軸方向がほぼ同じため、同時期に存在したと想定できる。時期は、江戸時代前期から中期にあたる17世紀後葉から18世紀前葉と考えられる。性格は、規模と構造から倉庫としての機能が想定できる。



第19図 第15号掘立柱建物跡実測図

第16号掘立柱建物跡（第20図）

位置 調査区南東部のC5g8区、標高25.8mほどの台地縁部に位置している。

重複関係 第12号竪穴建物跡、第322号土坑を掘り込んでいる。第373号土坑とも重複関係にあるが、新旧は不明である。

規模と構造 北妻側の一部が攪乱を受けているが、桁行2間、梁行2間の側柱建物で、桁行方向がN-40°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.30m、梁行3.90mで、面積は16.77㎡である。柱間寸法は、桁行が西平側の南妻から2.4m（8尺）、1.8m（6尺）、梁行が南妻側の西平から2.1m（7尺）、1.6m（5尺）で柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径38～62cm、短径32～54cmである。深さは23～58cmで、掘方の壁はほぼ直立またはやや外傾している。第1～4層は柱痕跡で、第5～11層は埋土、第12～19層は柱材抜き取り後の覆土である。

所見 重複をしている第322号土坑から17世紀中葉から18世紀前葉の丹波系焙器の摺鉢が出土しているため、時期は江戸時代後期の18世紀中葉から後葉と考えられる。

(2) 井戸跡

第6号井戸跡 (第21図)

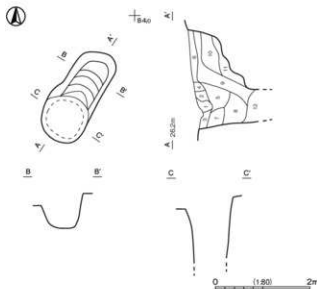
位置 調査区西南部のB49区、標高25.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.18m、短径1.0mの楕円形で、長軸方向は $N-35^{\circ}-E$ である。確認面から深さ112cmまでの北側部分は、階段状に掘り込まれている。それより下部は、長径0.98m、短径0.96mの円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ170cmほど掘り下げた段階で、崩落が想定されたため調査を断念した。

覆土 観察できた部分は、12層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片4点(小皿2、焙烙1、火鉢1)、鉄製品1点(鉄格子)が出土している。土師質土器片4点は覆土中から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。鉄格子は井戸の廃絶に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器が細片のため、決定することが困難である。鉄格子は、明治時代になって井戸を廃絶する際に設置された想定される。使用していた時期は、江戸時代までさかのぼると考えられる。

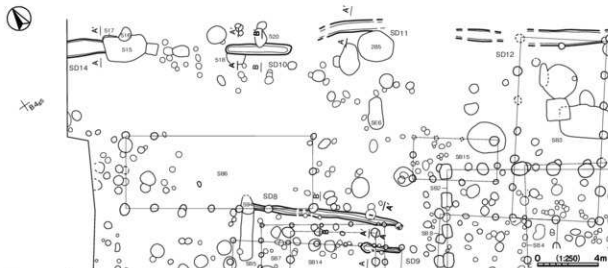


土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、埋め戻
- 2 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 にじみ黄褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量
- 6 にじみ黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 9 灰青褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 10 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭少量
- 11 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 12 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量

第21図 第6号井戸跡実測図

(3) 溝跡



第22図 第8～11・14号溝跡実測図

第8号溝跡 (第22・23・64図)

位置 調査区西部のB 4j7～C 4b8区、標高258mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6・7号掘立柱建物、第594号土坑、第16号ピット群P 7・P 16・P 25に掘り込まれている。

規模と形状 両端部を他の遺構に掘り込まれているため、長さは9.5mしか確認できなかった。B 4j7区から南東方向(N - 132° - E)に、直線状に延びている。上幅26～52cm、下幅8～26cmで、確認面からの深さは10cmで、断面形は浅いU字状である。北西部から、南東端部に向かって緩やかに下っている。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)が出土している。1は覆土上層から出土している。土器は埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器と掘り込んでいる第7号掘立柱建物の年代が17世紀後葉から18世紀前葉のため、17世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第23図 第8号溝跡実測図

第9号溝跡 (第22・24図)

位置 調査区西部のC 4b8区、標高258mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5・7号掘立柱建物、第16号ピット群P 8・9、第17号ピット群P 33に掘り込まれている。第14号掘立柱建物と重複しているが、新旧は不明である。

規模と形状 長さは2.54mで、C 4b8区から南東方向(N - 131° - E)に、直線状に延びている。上幅24～60cm、下幅10～36cmで、確認面からの深さは14cmで、断面形は浅いU字状である。北西端部から南東端部に向かって緩やかに下っている。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

所見 遺物は出土していない。時期は、隣り合った第8号溝跡と類似した形状を示すことや第7号掘立柱建物の時期が17世紀後葉から18世紀前葉のため、第8号溝跡と同時期の17世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第24図 第9号溝跡実測図

第10号溝跡 (第22・25図)

位置 調査区西部のB 4h8～B 4h9区、標高258mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第518号土坑を掘り込み、第520号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長さ4.32mで、B 4h8区から南東方向(N - 124° - E)に、直線状に延びている。上幅57～75cm、下幅36～41cmで、確認面からの深さは36cmで、断面形は浅いU字状である。北西端部から南東端部に向かって緩やかに下っている。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 瓦片3点(丸瓦2, 棧瓦, 1)が, 覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土遺物の丸瓦が雲母を含んでいるため, 18世紀中葉以降と考えられる。性格は不明である。

土層解説 (各ライン共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量



第25図 第10号溝跡実測図

第11号溝跡 (第22・26・64図)

位置 調査区西部のB4h9～B4i0区, 標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長さは両端が攪乱を受けて壊されているため, 3.31mしか確認できなかった。B4h9区から南東方向(N-120°-E)に, 直線状に延びている。上幅60～68cm, 下幅38～48cmで, 確認面からの深さは10cmで, 断面形は浅いU字状である。北西端部から南東端部に向かって緩やかに下っている。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片1点(瓦灯傘)が, 覆土中から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

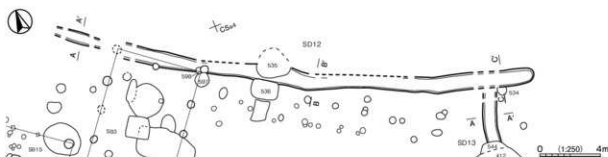
所見 出土土器からは時期が決定できないが, 整地以前に埋め戻されているため, 19世紀中葉以前と考えられる。また, 攪乱を挟んで第10号溝跡が確認されている。走行方向がほぼ一致しており, 覆土も酷似していることから, 同一遺構の可能性がある。性格は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量



第26図 第11号溝跡実測図



第27図 第12・13号溝跡実測図

第12号溝跡 (第27・28・64・86図 PL7・19)

位置 調査区中央部から東部にかけてのB5j1～C5e8区, 標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号掘立柱建物跡, 第534・597・598号土坑を掘り込み, 第535・536号土坑に掘り込まれている。第13号溝と接続していたと推測できるが, 攪乱を受けており新田は不明である。

規模と形状 北西側が攪乱を受けており, 長さは31.2mを確認した。B5j1区から南東方向(N-122°-E)に, 直線状に延びている。上幅84～110cm, 下幅48～98cmで, 確認面からの深さは28cmで, 断面形は浅いU字

状である。北西端部から南東端部に向かって緩やかに下っている。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片1点(甕),土師質土器片2点(小皿),瓦質土器片2点(火鉢,焙烙),陶器片5点(皿3,瓶類1,徳利1),磁器片3点(碗,蓋物蓋,皿),金属製品1点(刀子),銭貨1点(寛永通宝),瓦片2点(平瓦,丸瓦)が,覆土中から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は,出土土器から18世紀中葉以降と考えられる。性格は不明である。第1次面では確認できなかったが,第3号石組水路跡がL字状に折れ曲がっている場所に接続するように当跡が確認できたため,石組水路跡の掘方底面のみが残存していた可能性が考えられる。また,第10・11号溝跡とも走行方向がほぼ一致しているため,同一遺構の可能性もある。



第28図 第12号溝跡実測図

第13号溝跡 (第27・29・64図 PL7)

位置 調査区東部のC5c7～C5d7区,標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第544号土坑に掘り込まれている。第12号溝跡との新旧は,攪乱を受けており不明である。

規模と形状 北端が攪乱を受けており,長さは2.62mしか確認できなかった。C5c7区から南西方向(N-166°-W)に,直線状に延びている。上幅80～82cm,下幅64～68cmで,確認面からの深さは32cmで,断面形は浅いU字状である。北西端部から南東端部に向かって緩やかに下っている。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 陶器片3点(碗2,鬘水入れ1),磁器片1点(碗)が,覆土中から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は,出土土器から18世紀中葉以降と考えられる。性格は不明である。



第29図 第13号溝跡実測図

第14号溝跡 (第22・30図)

位置 調査区西部のB4f6～B4g6区,標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第515・517号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西側が調査区域外に延びており,東側も掘り込まれているため,長さは2.84mしか確認できなかった。B4f6区から南東方向(N-125°-E)に,直線状に延びている。上幅74～108cm,下幅56～92cmで,確認面からの深さは18cmで,断面形は浅いU字状である。北西端部から南東端部に向かって緩やかに下っている。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

所見 遺物は出土していない。時期は,整地以前に埋め戻されているため,19世紀中葉以前と考えられる。また,

視孔を挟んで第10号溝跡が確認されている。走行方向がほぼ一致しており、覆土も酷似していることから、同一遺構の可能性が高い。性格は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量



第30図 第14号溝跡実測図

表3 江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
8	B47-C48	N-132°-E	直線状	(95)	0.26~0.52	0.08~0.26	10	浅いU字状	縦斜	人為	土師質土器	本跡→SK6・7、SK394、FG16・F8・F17・P.高・F.33
9	C48	N-131°-E	直線状	254	0.24~0.60	0.10~0.36	14	浅いU字状	外傾	人為	-	S311→48→S315・7、F.33・F.7字→F.33
10	B468-B419	N-124°-E	直線状	4.32	0.57~0.75	0.36~0.41	36	浅いU字状	外傾縦斜	人為	瓦	SK518→本跡→SK520
11	B409-B410	N-129°-E	直線状	(3.31)	0.60~0.68	0.38~0.45	10	浅いU字状	縦斜	人為	土師質土器	-
12	B351-B358	N-122°-E	直線状	(31.2)	0.84~1.10	0.48~0.98	28	浅いU字状	外傾	人為	土師器、土師質土器、丸型土器、陶器、磁器、金銅製品、瓦	S311、SK344・397・398→本跡→SK335
13	C567-C547	N-166°-W	直線状	(2.62)	0.80~0.92	0.64~0.68	32	浅いU字状	外傾縦斜	人為	陶器、磁器	本跡→SK544
14	B466-B465	N-125°-E	直線状	(2.84)	0.74~1.08	0.56~0.92	18	浅いU字状	外傾	人為	-	本跡→SK315・517

(4) 土坑

当時代の土坑を252基確認した。特徴的な土坑11基以外の土坑については、実測図(第39図～第44図)及び一覧表のみ記載する。

第285号土坑(第31・67図 PL.9・10)

位置 調査区西部のB4i0区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.46m、短径2.10mの楕円形で、長径方向はN-27°-Wである。深さは106cmで、壁は外傾している。底面は皿状である。

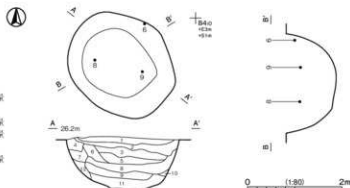
覆土 12層に分層できる。ロームブロック、炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片12点(小皿5, 焙烙2, 火鉢5), 瓦質土器片19点(焙烙11, 火入1, 火鉢5, 火消壺蓋1, 香炉脚1), 陶器片19点(碗2, 皿2, 急須蓋1, 土瓶4, 土鍋2, 柄杓形容器1, 壺2, 瓶類5), 炆器片3点(播鉢), 磁器片16点(碗11, 皿2, 鉢1, 蓋物蓋1, 瓶1), 自然遺物1点(馬骨)が、覆土中から散在した状態で出土している。6・8・9はそれぞれ覆土上層から出土しており、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から19世紀中葉と考えられる。性格は廃棄土坑と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物少量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック多量、炭化物少量
- 5 灰褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 8 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 9 黒褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量
- 11 にぶい黄褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量
- 12 暗褐色 ローム粒子多量



第31図 第285号土坑実測図

第400号土坑 (第32・68図 PL10)

位置 調査区中央部のC5b2区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

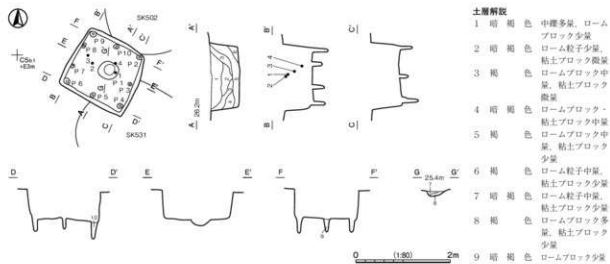
重複関係 第502・531号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸152m、短軸144mの方形で、長軸方向はN-63°-Wである。深さは60cmで、壁は直立している。底面は平坦である。底面に10か所のピットを有している。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢), 土師器片3点(甕2, 高坏1), 須恵器片4点(坏), 土師質土器片13点(皿1, 小皿9, 焙烙2, 焼塩壺蓋1), 瓦質土器片5点(焙烙2, 火鉢2, 焜炉1), 陶器片3点(碗1, 皿1, 甕1), 磁器片2点(碗), 石器1点(凹石), 金属製品20点(釘18, 鏃1, 襖引手1), 瓦片19点(平瓦1, 棧瓦10, 形状不明8), 自然遺物1点(鳥骨)が、覆土中から散在した状態で出土している。1・2は覆土上層から、3・4は覆土中層から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から19世紀中葉と考えられる。形状から、ピットが壁面近くに回っているため、板を立てるような簡易な建物の方形竈穴遺構の可能性が考えられる。第1次面では確認できなかったが、第1号近代建物跡の基礎が分岐する場所に位置しているため、建物に付随する可能性もある。



第32図 第400号土坑実測図

第412号土坑 (第33・68～70・86図 PL10・11・16・18～20)

位置 調査区東部のC5e7区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第544号土坑を掘り込み、第593号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が攪乱を受けているため、南北径4.80m、東西径4.50mしか確認できなかった。長径方向がN-9°-Eの楕円形と推定できる。深さは110cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 13層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

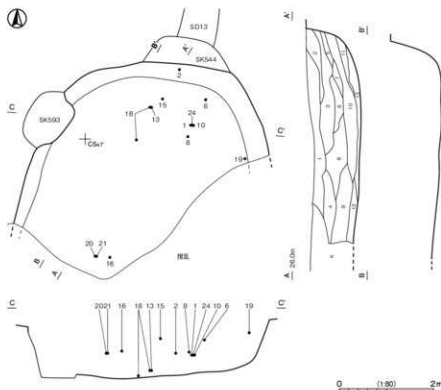
遺物出土状況 須恵器片1点(甕), 土師質土器片37点(蓋1, 皿12, 小皿16, 燗台2, 焙烙3, 焼塩壺蓋2, 火鉢1), 瓦質土器片11点(焙烙5, 焙烙2, 火入1, 火鉢3), 陶器片36点(碗13, 小碗2, 皿7, 小皿1, 灯明受皿1, 灯明皿2, 鉢4, 片口1, 搦鉢4, 壺1), 磁器片81点(小坏4, 小碗4, 中碗17, 碗33, 仏飯器1, 小皿2, 中皿3, 皿10, 大皿1, 猪口1, 香炉1, 瓶類2, 鉢1, 碇子1), 金属製品21点(釘17, 簪1, 銅板1, 不明鉄製品2), 瓦片14点(平瓦1, 丸瓦6, 軒丸瓦6, 形状不明1), 瓦破砕片62.6kgが、

覆土中から散在した状態で出土している。6・15・19は覆土上層から、1・2・8・16・20・21・24は覆土中層から、13・18は覆土下層から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から18世紀後葉から19世紀前葉と考えられる。18世紀前葉に流通していた陶磁器類や、18世紀後葉に流通していた肥前京風焼など幅広い年代にわたる遺物が多量に出土している。性格は廃棄土坑と考えられる。

土層解説

- 1 に深い黄褐色 ロームブロック中葉、
高次黄泥岩片少量、炭
化物・中層微炭
- 2 褐色 ローム粒子中葉、
炭化粒子・炭沼バ
ミス粒子少量、粘土
ブロック・繊維微炭
- 3 黄褐色 炭沼バミス粒子中葉、
ロームブロック少量、
粘土ブロック
- 4 暗褐色 ロームブロック・
中層中葉、粘土ブロッ
ック・炭化物微炭
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
6 暗褐色 ロームブロック、
炭化物中葉、粘土
ブロック微炭
- 7 褐色 ロームブロック中葉、
繊維少量、炭化物微炭
- 8 に深い黄褐色 ロームブロック中葉、
炭化物・繊維少量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量
炭化物・繊維微炭
- 10 暗褐色 ロームブロック・
中層中葉、炭化物
微炭
- 11 に深い黄褐色 ローム粒子中葉、
粘土ブロック・中
層少量
- 12 黒褐色 ロームブロック少量、
繊維微炭
- 13 暗褐色 ロームブロック・
粘土ブロック少量、
炭化物・中層微炭



第33図 第412号土坑実測図

第471号土坑 (第34・70・71図 PL11・16)

位置 調査区東部のC509区、標高258mほどの台地平坦部に位置している。

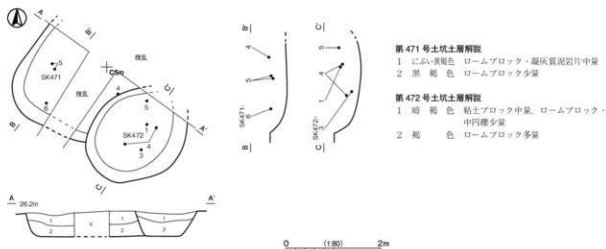
重複関係 第472号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部と中央部に掘削を受けており、南北径2.00m、東西径1.88mしか確認できなかった。長径方向がN-55°-Wの楕円形と推定できる。深さは47cmで、壁は緩やかに立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片2点(甕)、土師質土器片13点(小皿9、焙烙3、火鉢1)、瓦質土器片11点(焙烙9、火鉢2)、陶器片11点(碗3、皿3、灯明受皿1、播鉢2、壺1、瓶類1)、磁器片5点(碗4、中碗1)、珧器片2点(播鉢)が、覆土中から散在した状態で出土している。4～6は、覆土上層から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から19世紀前葉から中葉と考えられる。18世紀前葉の陶磁器類や19世紀代に流通していた瀬戸美濃系の端反碗まで幅広い年代の遺物が出土している。性格は廃棄土坑と考えられる。



第34図 第471・472号土坑実測図

第472号土坑 (第34・71・87・88図 PL11・20)

位置 調査区東部のC5f0区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第471号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部が攪乱を受けており、短径は1.88mで、長径は1.96mしか確認できなかった。長径方向がN-52°-Eの楕円形と推定できる。深さは49cmで、壁は緩やかに立ち上がっており、底面は皿状である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿、鍋₃)、瓦質土器片2点(火鉢)、陶器片9点(碗2、中碗2、天目茶碗1、皿2、鉢1、火入1)、磁器片2点(碗)、妬器片2点(播鉢)、石製品1点(基石)、瓦片2点(平瓦、軒丸瓦)が、覆土中から散在した状態で出土している。1・5は覆土上層から、3・4は覆土中層から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から19世紀前葉から中葉と考えられる。性格は廃棄土坑と考えられる。

第515号土坑 (第35・72・73・86・88図 PL5・11・12・16・18~21)

位置 調査区西部のB4g6区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第517号土坑、第14号溝跡を掘り込み、第516・555号土坑に掘り込まれている。

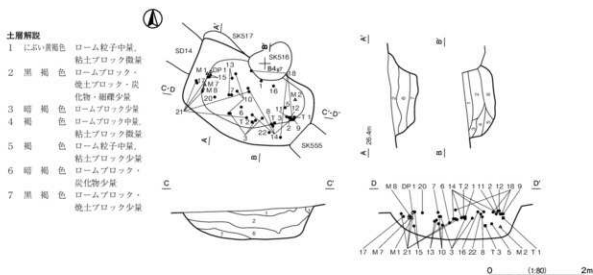
規模と形状 長径2.76m、短径1.68mで、長径方向はN-52°-Wの不整楕円形である。深さは62cmで、壁は外傾し緩やかに立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 須恵器片1点(坏)、土師質土器片47点(皿1、小皿15、灯明受皿2、絵皿1、焙烙10、鉢₅、焼塩壺蓋2、火入₄、火鉢2、焜炉1、器種不明4)、瓦質土器片41点(焙烙33、播鉢1、火鉢3、火消壺蓋1、七厘2、火打箱₁)、陶器片75点(碗4、小坏2、皿12、小皿1、五寸皿1、灯明受皿1、灯明皿1、カンテラ1、中水柱1、土瓶蓋3、土瓶30、土鍋7、鉢1、中鉢2、片口1、播鉢1、植木鉢1、壺2、瓶類2、徳利₁)、磁器片45点(碗6、小碗12、中碗10、小坏2、中碗蓋2、蓋物蓋1、皿3、小皿2、五寸皿1、中皿1、水滴1、小鉢1、三足香炉1、小瓶1、中瓶1)、妬器片5点(播鉢)、石製品1点(基石)、石器3点(砥石)、金属製品19点(鉄鍋₁、包丁₁、鎌₁、釘11、簪1、不明鉄製品4)、銭貨1点(寛永

通宝)、瓦片15点(平瓦8、丸瓦2、軒丸瓦2、形状不明3)が、覆土中から散在した状態で出土している。1・2・7~9・11・12・14・16~18・21・22、DP1、M1・M7・M8、T1・T2は覆土上層から、5・6・10・13・15、M2、T3は覆土中層から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から19世紀中葉と考えられる。性格は廃棄土坑と考えられる。



第35図 第515号土坑実測図

第516号土坑 (第36・73図)

位置 調査区西部のB47区、標高258mほどの台地平坦部に位置している。

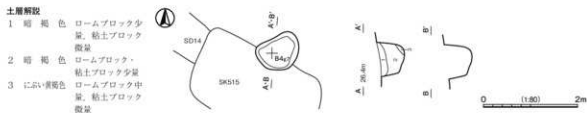
重複関係 第515号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.96m、短径0.62mで、長径方向がN-30°-Eの楕円形である。深さは50cmで、壁は直立している。底面は皿状である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片1点(坏)、須恵器片2点(坏)、土師質土器片1点(小皿)、陶器片1点(土瓶蓋)、磁器片2点(碗)が、覆土中から散在した状態で出土している。

所見 時期は出土土器から19世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第36図 第516号土坑実測図

第517号土坑 (第37・73・85・89図 PL18・20)

位置 調査区西部のB46区、標高258mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14号溝跡を掘り込み、第515号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第515号土坑に掘り込まれているため、長径は1.00m、短径は0.70mしか確認できなかった。

長径方向がN-40°-Wの楕円形と推定される。深さは48cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片2点(火鉢)、瓦質土器片8点(焙烙5、土鍋₉1、火鉢2)、陶器片10点(碗3、小坏1、皿2、土瓶2、鉢₉1、播鉢1)、磁器片4点(碗)、土製品1点(碁石₉)、石器3点(碇石)、金属製品2点(釘)、瓦片7点(平瓦₉5、軒丸瓦2)が、覆土中から散在した状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から19世紀中葉と考えられる。性格は廃棄土坑と考えられる。



第37図 第517号土坑実測図

第528号土坑 (第38・73～75・85・86図 PL5・12・13・16～18)

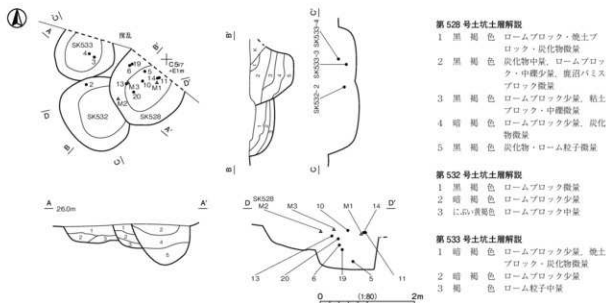
位置 調査区西部のC577区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第532号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北東側が攪乱を受けているため、北西・南東径は1.20mで、北東・南西径1.50mしか確認できなかった。長径方向はN-45°-Eの円形もしくは楕円形である。深さは90cmで、南東側の壁は直立しており、北西側は外傾している。底面は皿状である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片1点(甕)、土師質土器片43点(小皿24、燗台1、五徳1、焙烙12、焼塩壺蓋1、焼塩壺2、火鉢1、器種不明1)、瓦質土器片6点(焙烙3、火鉢2、焜炉₉1)、陶器片26点(碗16、天目茶碗1、小坏1、皿3、土瓶1、播鉢2、瓶類2)、磁器片25点(碗13、小坏1、皿7、鉢1、猪口1、香炉1、仏花瓶1)、炆器片1点(急須)、土製品1点(土人形)、石器1点(碇石)、金属製品4点(釘1、煙管3)、瓦片15点(平



第38図 第528・532・533号土坑実測図

瓦3、平瓦、6、丸瓦6)が、覆土中から出土している。10・11・13・14・20、M1～M3は覆土上層から、6・19は覆土中層から、5は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から19世紀中葉と考えられる。性格は廃棄土坑と考えられる。

第532号土坑(第38・75図 PL13)

位置 調査区南東部のC5f6区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第533号土坑を掘り込み、第528号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東側を第528号土坑に掘り込まれているため、長径は1.58mで、短径は1.10mしか確認できなかった。長径方向がN-32°-Wの円形もしくは楕円形である。深さは56cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片8点(皿1、小皿2、焙烙5)、陶器片4点(碗1、皿2、甕1)、磁器片5点(碗2、仏飯器2、皿1)、金属製品1点(釘)、瓦片2点(平瓦、丸瓦)が、覆土中から出土している。2は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から18世紀後葉以降と考えられる。性格は廃棄土坑と考えられる。

第533号土坑(第38・75図 PL13)

位置 調査区南東部のC5e6区、標高25.8mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第532号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東側が覆乱を受けているため、長径は1.26mで、短径は0.96mしか確認できなかった。長径方向はN-23°-Eの円形もしくは楕円形である。深さは38cmで、壁は外傾しており、底面は平坦である。

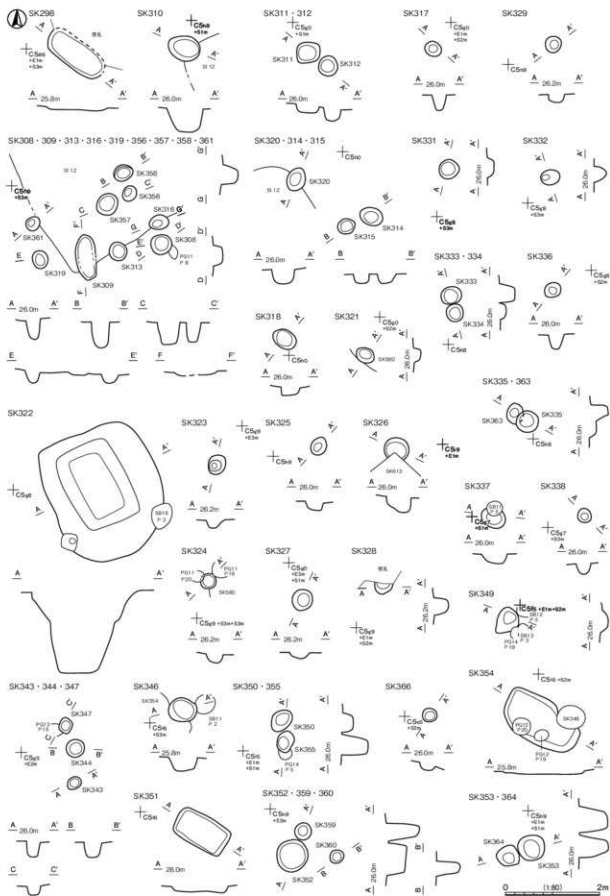
覆土 3層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片6点(小皿4、焼塩壺蓋1、火鉢1)、瓦質土器片6点(焙烙)、陶器片7点(碗4、皿1、搦鉢1、控鉢1)、磁器片7点(碗)、石製品1点(砥石)が、覆土中から出土している。3は覆土中層から、4は覆土上層から出土している。

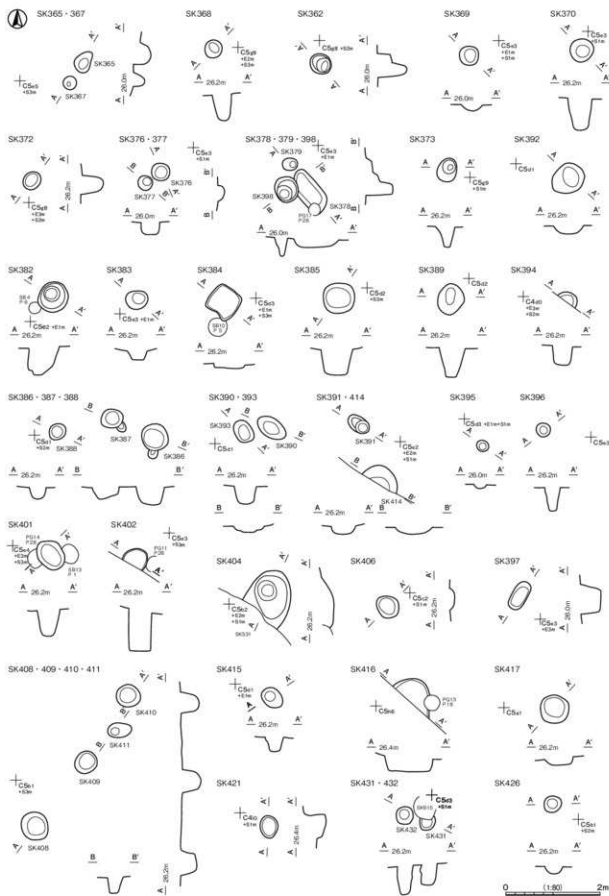
所見 時期は出土土器から18世紀中葉と考えられる。性格は廃棄土坑と考えられる。

表4 江戸時代土坑一覧表

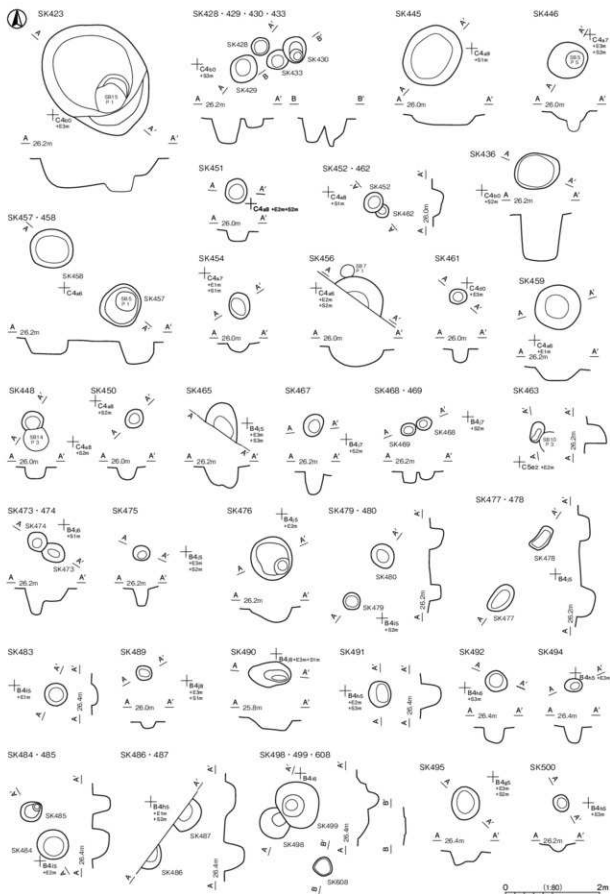
番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
285	B4d	N-27°-W	楕円形	2.46×2.10	106	皿状	外傾	人為	土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、石製、金属製品、骨角製品、瓦	
286	C5e6	N-50°-W	[楕円形]	1.36×0.58	6	平坦	縦斜	人為	焼文土器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、石製、金属製品、瓦	
308	C5f9	-	[円形]	0.45×0.42	19	平坦	外傾	人為	-	PG11 P.8→本誌
309	C5f9	N-9°-W	楕円形	0.96×0.33	9	皿状	縦斜	人為	土師質土器	SI2→本誌
310	C5f8	N-68°-W	楕円形	0.70×0.50	50	平坦	直立 ほぼ直立	人為	土師質土器	SI2→本誌
311	C5g0	N-90°	楕円長方形	0.49×0.42	15	平坦	外傾	人為	金属製品	
312	C5g0	-	円形	0.42×0.40	26	皿状	ほぼ直立	人為	陶器	
313	C5f9	-	円形	0.39×0.39	22	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器	SI2→本誌
314	C5f0	N-64°-W	楕円形	0.50×0.37	18	皿状	外傾	人為	-	
315	C5f0	N-70°-E	楕円形	0.38×0.33	20	皿状	ほぼ直立	人為	-	



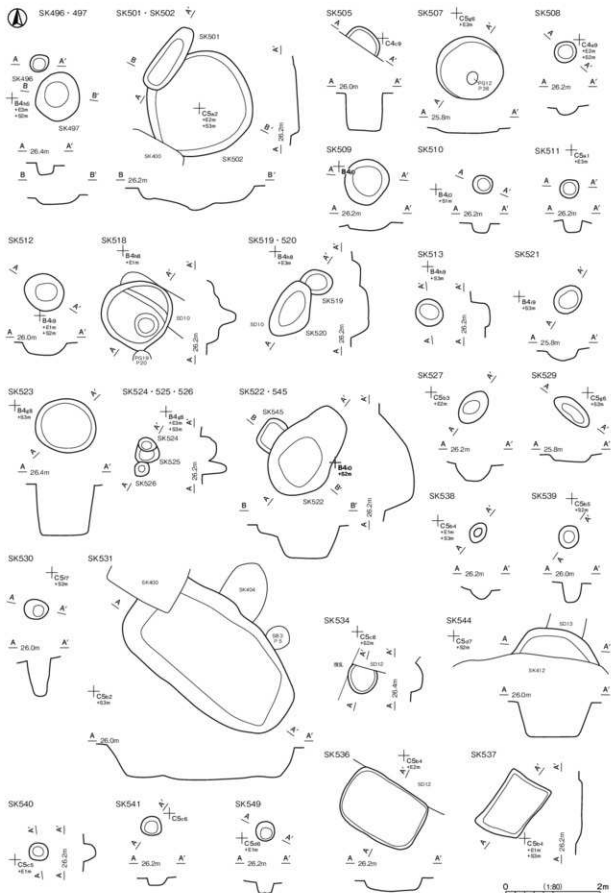
第39図 江戸時代のその他の土坑実測図(1)



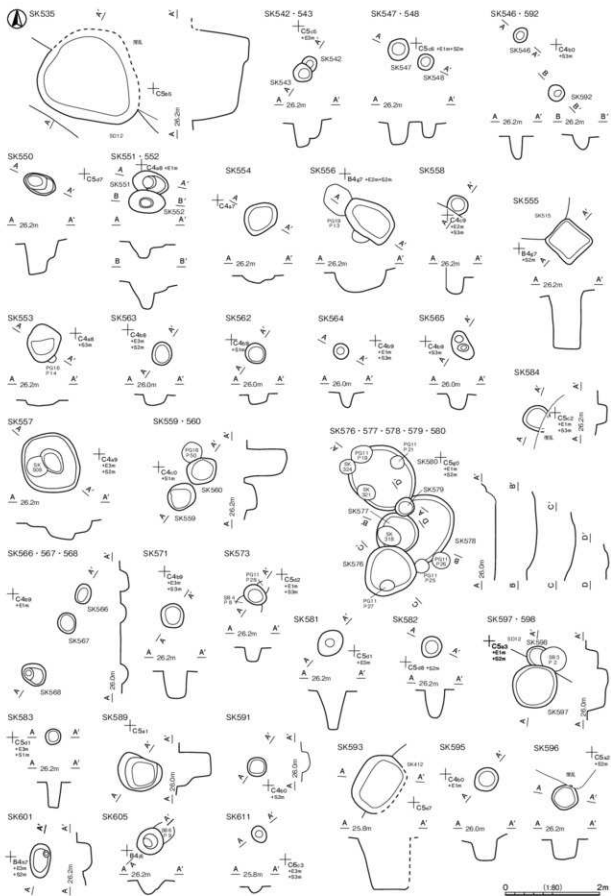
第40図 江戸時代のその他の土坑実測図(2)



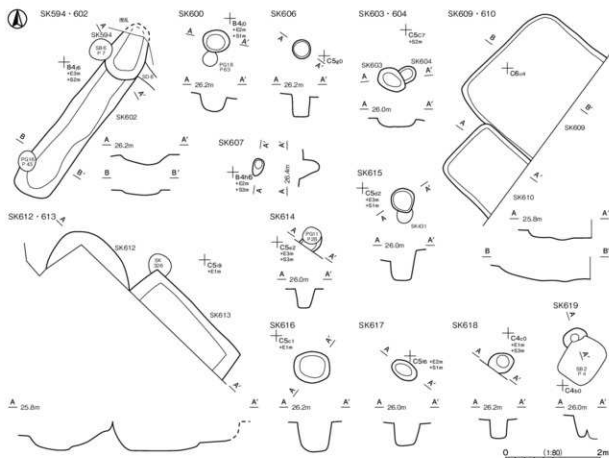
第41図 江戸時代のその他の土坑実測図(3)



第42図 江戸時代のその他の土坑実測図(4)



第 43 図 江戸時代のその他の土坑実測図 (5)



第44図 江戸時代のその他の土坑実測図(6)

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
316	C 5 t9	N - 76° - E	楕円形	0.42 × 0.29	32	皿状	ほぼ直立	人為	-	SI12 → 本跡
317	C 5 g0	N - 65° - W	楕円形	0.36 × 0.31	38	皿状	ほぼ直立	人為	-	-
318	C 5 g9	N - 50° - W	楕円形	0.50 × 0.40	20	平坦	ほぼ直立	人為	-	SK577 → 本跡
319	C 5 g	N - 18° - W	楕円形	0.39 × 0.30	26	皿状	ほぼ直立	人為	-	-
320	C 5 t9	N - 27° - E	楕円形	0.52 × 0.38	32	皿状	ほぼ直立	人為	-	SI12 → 本跡
321	C 5 g9	N - 57° - W	楕円形	0.40 × 0.31	17	平坦	外傾	人為	-	SK580 → 本跡
322	C 5 g8	N - 27° - W	楕丸長方形	2.76 × 2.32	172	平坦	ほぼ直立	人為	土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶器、瓦	本跡 → SK16 P 3
323	C 5 g9	N - 0°	楕円形	0.41 × 0.36	23	皿状	外傾	人為	-	-
324	C 5 g9	-	円形	0.32 × 0.30	15	平坦	ほぼ直立	人為	-	SK380 → 本跡 → PG11 P 20
325	C 5 g9	N - 27° - E	楕円形	0.40 × 0.32	16	平坦	外傾	人為	-	-
326	C 5 g	-	円形	0.50 × 0.48	34	平坦	ほぼ直立	人為	-	本跡 → SK613
327	C 5 g0	-	円形	0.45 × 0.43	14	皿状	外傾	人為	-	-
328	C 5 g9	N - 81° - W	円形・楕円形	0.40 × (0.22)	27	皿状	ほぼ直立	人為	-	-
329	C 5 g9	-	円形	0.35 × 0.33	17	平坦	ほぼ直立	人為	瓦質土器	-
331	C 5 g8	-	円形	0.40 × 0.40	24	平坦	直立	人為	-	-
332	C 5 g8	N - 72° - E	楕円形	0.42 × 0.32	23	平坦	ほぼ直立	人為	-	-
333	C 5 g8	-	円形	0.44 × 0.42	16	平坦	ほぼ直立	人為	-	-
334	C 5 g8	-	円形	0.38 × 0.36	12	平坦	外傾	人為	-	-
335	C 5 g8	-	円形	0.44 × 0.44	14	平坦	縦斜	人為	-	SK363 → 本跡
336	C 5 g2	N - 40° - E	楕円形	0.36 × 0.32	30	皿状	ほぼ直立	人為	土師質土器	-

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
337	C 5 g7	N - 68° - W	楕円形	0.54 × 0.44	20	皿状	外傾	人為	-	本跡→SB11 P 5
338	C 5 g7	-	円形	0.30 × 0.28	20	皿状	ほぼ直立	人為	-	
343	C 5 g5	N - 50° - E	楕円形	0.32 × 0.24	32	皿状	ほぼ直立	人為	-	
344	C 5 f5	-	円形	0.40 × 0.38	30	皿状	ほぼ直立	人為	-	
346	C 5 f6	N - 90°	楕円形	0.60 × 0.48	35	平皿	ほぼ直立	人為	-	SK354→本跡→SB11 P 2
347	C 5 f5	N - 10° - W	楕円形	0.34 × 0.30	19	平皿	ほぼ直立	人為	-	PG13 P 15→本跡
349	C 5 f5	N - 39° - E	楕円形	0.60 × 0.48	14	皿状	外傾 傾斜	人為	-	PG14 P 19→本跡
350	C 5 f5	N - 45° - E	楕円形	0.55 × 0.40	28	平皿	ほぼ直立	人為	-	
351	C 5 f6	N - 59° - W	長方形	1.16 × 0.66	15	平皿	外傾	人為	-	
352	C 5 b9	-	円形	0.68 × 0.67	40	平皿	直立	人為	-	SI12→本跡
353	C 5 b9	-	円形	0.46 × 0.44	56	皿状	ほぼ直立	人為	磁器	
354	C 5 f5	N - 59° - W	隅丸長方形	1.70 × 0.96	11	平皿	傾斜	人為	瓦質土器、陶器	本跡→SK346、PG12 P 13、P 20
355	C 5 f5	N - 33° - E	楕円形	0.43 × 0.33	56	有段	直立	人為	-	PG14 P 5→本跡
356	C 5 b9	N - 25° - E	楕円形	0.35 × 0.30	41	皿状	直立	人為	-	SI12→本跡
357	C 5 b9	-	円形	0.49 × 0.45	49	平皿	直立	人為	-	SI12→本跡
358	C 5 b9	N - 65° - E	楕円形	0.40 × 0.32	61	皿状	直立	人為	-	SI12→本跡
359	C 5 b9	-	円形	0.37 × 0.35	73	皿状	直立	人為	-	SI12→本跡
360	C 5 b9	-	円形	0.29 × 0.28	52	皿状	直立	人為	-	SI12→本跡
361	C 5 b9	N - 39° - E	楕円形	0.32 × 0.24	41	皿状	直立	人為	-	SI12→本跡
362	C 5 g8	-	円形	0.46 × 0.44	62	有段	直立	人為	-	
363	C 5 g7	-	円形	0.36 × 0.34	58	皿状	直立	人為	-	本跡→SK355
364	C 5 b9	-	円形	0.56 × 0.54	56	皿状	直立	人為	-	SI12→本跡
365	C 5 e5	N - 36° - E	楕円形	0.48 × 0.28	32	ほぼ直立	ほぼ直立	人為	-	
366	C 5 e5	-	円形	0.30 × 0.30	14	皿状	ほぼ直立 外傾	人為	-	
367	C 5 e5	N - 31° - E	楕円形	0.68 × 0.38	64	皿状	直立 ほぼ直立	人為	-	
368	C 5 g9	-	円形	0.38 × 0.38	78	皿状	直立	人為	金属製品、瓦	
369	C 5 c3	-	円形	0.40 × 0.40	12	皿状	外傾	人為	-	
370	C 5 e3	N - 47° - E	楕円形	0.54 × 0.48	64	平皿	直立 ほぼ直立	人為	-	
372	C 5 g8	N - 36° - E	楕円形	0.40 × 0.34	46	皿状	ほぼ直立	人為	-	
373	C 5 g9	N - 20° - E	楕円形	0.52 × 0.44	42	平皿	ほぼ直立	人為	-	
376	C 5 e2	N - 87° - W	楕円形	0.40 × 0.35	27	平皿	直立	人為	-	
377	C 5 e2	-	円形	0.30 × 0.30	16	平皿	ほぼ直立 外傾	人為	-	
378	C 5 e3	N - 40° - W	楕円形	0.98 × 0.48	18	皿状	ほぼ直立 外傾	人為	-	本跡→SK308、PG17 P 28
379	C 5 e3	N - 76° - E	楕円形	0.32 × 0.24	68	平皿	ほぼ直立	人為	土師質土器、金属製品	
382	C 5 d2	N - 11° - E	楕円形	0.32 × 0.60	34	平皿	外傾	人為	-	SB4 P 6→本跡
383	C 5 d3	N - 51° - E	楕円形	0.46 × 0.39	18	平皿	ほぼ直立	人為	土師質土器、土製品	
384	C 5 d3	N - 40° - E	方形	0.62 × 0.56	8	平皿	直立	人為	-	本跡→SB10 P 5
385	C 5 d1	N - 1° - E	楕円形	0.69 × 0.63	57	平皿	直立	人為	土師質土器、磁器、金属製品	
386	C 5 d1	N - 16° - E	不定形	0.76 × 0.58	48	有段	外傾	人為	-	
387	C 5 d1	N - 12° - E	不定形	0.56 × 0.46	32	有段	ほぼ直立	人為	-	
388	C 5 d1	N - 63° - E	楕円形	0.42 × 0.20	24	平皿	外傾	人為	-	
389	C 5 d2	N - 5° - E	楕円形	0.66 × 0.56	58	平皿	ほぼ直立	人為	-	
390	C 5 c1	N - 58° - W	楕円形	0.68 × 0.40	12	皿状	傾斜	人為	-	
391	C 5 e2	N - 27° - E	[楕円形]	0.52 × 0.32	21	平皿	ほぼ直立 外傾	人為	陶器、金属製品	
392	C 5 d1	N - 57° - E	楕円形	0.74 × 0.60	16	皿状	傾斜	人為	-	
393	C 5 c1	N - 27° - W	楕円形	0.50 × 0.36	38	皿状	ほぼ直立	人為	-	
394	C 5 d1	N - 55° - W	[楕円形]	0.46 × (0.32)	38	平皿	ほぼ直立	人為	-	
395	C 5 d3	-	円形	0.26 × 0.24	8	皿状	外傾	人為	金属製品	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
306	C 5e2	-	円形	0.30 × 0.30	48	平面	法12直立	人為	-	
307	C 5d3	N-34°-E	楕円形	0.62 × 0.32	48	平面	直立	人為	土師器、土師質土器	
308	C 5e3	N-3°-E	楕円形	0.54 × 0.48	48	平面	直立	人為	-	SK378 → 本跡
400	C 5b2	N-63°-W	方形	1.52 × 1.44	60	平面	直立	人為	瀬古土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、土師質土器、石製品、瓦	SK502、531 → 本跡
401	C 5e4	N-43°-W	楕円形	0.68 × 0.52	54	平面	直立 法12直立	人為	-	SB13 P.1、PG14 P.28 → 本跡
402	C 5e2	N-56°-W	[楕円形]	0.48 × (0.39)	84	平面	直立	人為	土師質土器	
404	C 5b2	N-24°-E	楕円形	(1.02) × 0.92	28	平面	法12直立	人為	-	本跡 → SK531
406	C 5c1	N-54°-W	楕円形	0.54 × 0.42	10	皿状	法12直立	人為	土師質土器	
408	C 5c1	N-50°-W	楕円形	0.65 × 0.59	32	皿状	法12直立	人為	-	
409	C 5b1	N-37°-E	楕円形	0.49 × 0.44	36	皿状	法12直立	人為	-	
410	C 5b1	-	円形	0.52 × 0.48	38	皿状	法12直立	人為	-	
411	C 5b1	N-90°	楕円形	0.50 × 0.30	32	皿状	法12直立	人為	-	
412	C 5e7	N-9°-E	[楕円形]	4.80 × (4.50)	110	平面	外傾	人為	須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、金属製品、瓦	SK544 → 本跡 → SK593
414	C 5e2	N-61°-W	[円形、楕円形]	0.84 × (0.38)	8	平面	緩斜	人為	-	
415	C 5d1	N-40°-W	楕円形	0.50 × 0.40	48	皿状	法12直立	人為	-	
416	C 5g5	N-49°-W	[円形、楕円形]	1.10 × (0.51)	26	平面	外傾	人為	-	
417	C 5j1	-	円形	0.60 × 0.58	14	平面	外傾 緩斜	人為	-	
421	C 4b0	N-2°-E	楕円形	0.45 × 0.38	22	平面	直立 法12直立	人為	陶器	
423	C 4a0	N-32°-W	楕円形	2.38 × 2.04	66	有段	外傾	人為	土師質土器、陶器、磁器	本跡 → SB15 P.1
426	C 4b0	-	円形	0.36 × 0.36	16	平面	外傾	人為	-	
428	C 4b0	-	円形	0.39 × 0.36	19	平面	法12直立	人為	土師質土器	
429	C 4b0	N-35°-E	楕円形	0.65 × 0.55	52	平面	法12直立	人為	土師質土器	
430	C 4b0	N-16°-W	楕円形	0.57 × 0.50	43	平面	直立 法12直立	人為	-	SK433 → 本跡
431	C 5d2	N-33°-E	楕円形	0.40 × 0.34	40	皿状	法12直立	人為	-	本跡 → SK615
432	C 5d2	N-30°-E	楕円形	0.40 × 0.36	62	平面	法12直立	人為	須恵器	
433	C 4b0	N-90°	楕円形	0.46 × 0.41	50	皿状	直立	人為	土師器、土師質土器、陶器	本跡 → SK430
436	C 4b0	N-90°	楕円形	0.95 × 0.75	101	平面	直立	人為	土師器、土師質土器、石器	
445	C 4a8	N-37°-E	楕円形	1.33 × 1.15	23	平面	緩斜	人為	-	
446	C 4a7	N-72°-E	楕円形	0.89 × 0.75	(20)	皿状	外傾	人為	-	本跡 → SB 5 P.5
448	C 4a7	N-90°	[円形、楕円形]	0.46 × (0.37)	22	平面	法12直立	人為	-	本跡 → SB14 P.3
450	C 4a8	N-33°-E	楕円形	0.43 × 0.36	23	平面	法12直立	人為	-	
451	C 4a8	N-0°	楕円形	0.51 × 0.44	23	平面	法12直立	人為	-	
452	C 4a8	N-25°-E	楕円形	0.43 × 0.39	20	平面	法12直立	人為	-	SK462 → 本跡
454	C 4a7	N-16°-W	楕円形	0.56 × 0.45	21	平面	法12直立	人為	陶器	
456	C 4a6	N-54°-W	[円形、楕円形]	1.18 × (0.38)	38	皿状	外傾 緩斜	人為	土師質土器	SB 7 P.1と重複
457	C 4a6	N-23°-E	楕円形	0.92 × 0.77	44	平面	法12直立	人為	-	SB 5 P.1 → 本跡
458	B 4j5	N-61°-W	楕円形	0.90 × 0.80	30	平面	法12直立	人為	-	
459	B 4j6	-	円形	0.94 × 0.94	24	平面	外傾	人為	-	
461	C 4a0	N-89°-E	楕円形	0.39 × 0.31	28	平面	直立 法12直立	人為	-	
462	C 4a8	-	円形	0.28 × 0.27	15	平面	外傾	人為	-	本跡 → SK452
463	C 5d2	N-18°-E	楕円形	0.42 × 0.36	34	平面	直立 法12直立	人為	-	本跡 → SB10 P.3
465	B 4j5	N-1°-E	[楕円形]	(0.66) × (0.60)	42	平面	外傾	人為	-	
467	B 4j6	N-32°-E	楕円形	0.50 × 0.38	44	平面	直立 法12直立	人為	-	
468	B 4j6	N-51°-E	楕円形	0.32 × 0.24	14	平面	法12直立	人為	-	
469	B 4j6	N-65°-E	楕円形	0.36 × 0.28	22	平面	直立 法12直立	人為	-	
471	C 5f9	N-55°-W	[楕円形]	(2.00) × (1.88)	47	平面	緩斜	人為	土師器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、金属製品	本跡 → SK472
472	C 5f9	N-52°-E	[楕円形]	(1.96) × 1.88	49	皿状	緩斜	人為	土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、金属製品、瓦	SK471 → 本跡
473	B 4j5	N-59°-W	[楕円形]	(0.48) × 0.38	36	平面	外傾	人為	-	本跡 → SK474

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
474	B 4 j5	-	円形	0.42 × 0.42	52	平坦	直立	人為	-	SK473→本跡
475	B 4 j5	N-66°-E	楕円形	0.38 × 0.32	42	凹状	直立	人為	-	
476	B 4 j5	-	円形	0.92 × 0.80	40	平坦	外傾	人為	-	
477	B 4 j4	N-34°-E	楕円形	0.68 × 0.42	32	平坦	外傾	人為	-	
478	B 4 i4	N-34°-E	楕円形	0.56 × 0.30	22	平坦	外傾	人為	-	
479	B 4 i4	-	円形	0.38 × 0.38	20	平坦	直立	人為	-	
480	B 4 i4	N-30°-W	楕円形	0.54 × 0.48	30	平坦	外傾	人為	-	
483	B 4 i5	-	円形	0.47 × 0.47	13	平坦	外傾	人為	-	
484	B 4 i5	-	円形	0.65 × 0.63	33	平坦	外傾	人為	-	
485	B 4 i5	N-56°-E	楕円形	0.48 × 0.43	50	凹状	外傾	人為	-	
486	B 4 i5	N-36°-E	[円形・楕円形]	0.60 × (0.24)	40	平坦	外傾	人為	-	
487	B 4 i5	N-30°-E	[円形・楕円形]	0.68 × (0.36)	20	平坦	外傾	人為	-	
489	B 4 j8	N-66°-W	楕円形	0.35 × 0.30	10	平坦	外傾	人為	-	
490	B 4 j8	N-82°-W	楕円形	0.90 × 0.53	20	平坦	外傾	人為	-	
491	B 4 i5	N-0°	楕円形	0.54 × 0.47	50	凹状	外傾	人為	-	
492	B 4 i6	-	円形	0.45 × 0.43	35	凹状	外傾	人為	-	
494	B 4 i5	N-85°-E	楕円形	0.35 × 0.28	30	凹状	外傾	人為	-	
495	B 4 g5	N-0°	楕円形	0.70 × 0.58	20	平坦	外傾	人為	-	
496	B 4 i5	N-66°-E	楕円形	0.43 × 0.33	19	平坦	直立	人為	-	
497	B 4 i5	-	円形	1.00 × 0.93	30	平坦	外傾	人為	-	
498	B 4 j4	N-38°-W	[円形・楕円形]	0.66 × (0.55)	23	凹状	外傾	人為	-	本跡→SK499
499	B 4 i5	N-30°-W	楕円形	1.04 × 0.89	45	凹状	外傾	人為	-	SK498→本跡
500	B 4 i5	N-29°-W	楕円形	0.56 × 0.32	12	凹状	外傾	人為	-	
501	C 5 a2	N-34°-E	楕円形	1.52 × 0.52	17	平坦	外傾	人為	-	SK502→本跡
502	C 5 a2	-	円形	2.22 × 2.20	42	凹状	外傾	人為	-	本跡→SK501
505	C 4 b8	N-55°-W	[楕円形]	0.80 × (0.36)	72	平坦	直立	人為	-	
507	C 5 g6	-	円形	1.42 × 1.32	10	平坦	外傾	人為	-	
508	C 4 a9	-	円形	0.46 × 0.42	10	平坦	外傾	人為	-	SK507→本跡
509	B 4 j0	-	円形	0.98 × 0.92	16	平坦	外傾	人為	-	
510	B 4 j0	-	円形	0.40 × 0.40	20	平坦	外傾	人為	-	金銅製品
511	C 5 j1	-	円形	0.40 × 0.38	26	平坦	外傾	人為	-	
512	B 4 i9	-	円形	0.84 × 0.80	34	平坦	外傾	人為	-	
513	B 4 i8	N-56°-W	楕円形	0.70 × 0.51	36	平坦	外傾	人為	-	
515	B 4 g6	N-52°-W	不整楕円形	2.76 × 1.68	62	凹状	外傾	人為	-	須恵器、土師質土器、瓦質土器、銅器、土製品、石器、金銅製品、瓦
516	B 4 f7	N-30°-E	楕円形	0.96 × 0.62	50	凹状	直立	人為	-	須恵器、土師質土器、土師質土器、銅器、土製品、石器、金銅製品、瓦
517	B 4 i6	N-40°-W	[楕円形]	(1.00) × (0.70)	48	平坦	外傾	人為	-	土師質土器、瓦質土器、銅器、土製品、石器、金銅製品、瓦
518	B 4 i8	-	円形	1.45 × 1.42	58	平坦	外傾	人為	-	縄文土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、瓦
519	B 4 i8	N-90°	楕円形	0.72 × 0.51	18	凹状	外傾	人為	-	本跡→SK520
520	B 4 i8	N-32°-E	楕円形	1.27 × 0.75	38	平坦	外傾	人為	-	縄文土器、須恵器、瓦
521	B 4 i9	N-32°-E	楕円形	0.64 × 0.54	22	平坦	外傾	人為	-	
522	B 4 i9	N-38°-E	不整楕円形	2.06 × 1.34	66	平坦	外傾	人為	-	須恵器、土師質土器、瓦質土器、銅器、土製品、金銅製品
523	B 4 g8	-	円形	1.27 × 1.16	108	平坦	直立	人為	-	土師器、須恵器、石器、瓦
524	B 4 g8	-	円形	0.40 × 0.38	32	凹状	外傾	人為	-	SK525→本跡
525	B 4 g8	N-77°-W	[円形・楕円形]	0.50 × (0.20)	32	平坦	外傾	人為	-	本跡→SK524・526
526	B 4 i8	-	円形	0.32 × 0.30	48	凹状	外傾	人為	-	SK525→本跡
527	C 5 b3	N-34°-E	楕円形	0.28 × 0.50	30	平坦	外傾	人為	-	
528	C 5 f7	N-45°-E	[円形・楕円形]	1.50 × (1.20)	90	凹状	外傾	人為	-	土師器、土師質土器、瓦質土器、銅器、土製品、石器、金銅製品、瓦
529	C 5 g5	N-30°-W	楕円形	0.90 × 0.40	16	凹状	外傾	人為	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
300	C 5 6b	N-76°-W	楕円形	0.53×0.28	80	皿状	直立	人為	-	
301	C 5 6d	N-51°-W	楕丸長方形	3.98×2.14	68	平坦	1412直立	人為	縄文土器、土師器、須恵器、土師瓦土器、瓦質土器、金銅製品	SK31 F 5、SK40 → SK49
302	C 5 6c	N-32°-W	円形・楕円形	1.58×(1.10)	56	平坦	外傾	人為	土師瓦土器、陶器、土師製品、瓦	SK533 → 本跡 → SK528
303	C 5 6e	N-23°-E	円形・楕円形	1.28×(0.96)	38	平坦	外傾	人為	土師瓦土器、瓦質土器、陶器、磁器、石製	本跡 → SK532
304	C 5 6f	N-76°-W	円形・楕円形	0.62×(0.54)	20	平坦	外傾	人為	-	本跡 → SD12
305	C 5 6d	N-54°-W	楕円形	2.20×2.04	92	平坦	1412直立	人為	土師瓦土器、陶器、磁器、土師製品、金銅製品	SD12 → 本跡
306	C 5 6d	N-58°-W	楕丸長方形	1.80×1.26	21	平坦	外傾	人為	-	SD12 → 本跡
307	C 5 6d	N-34°-E	長方形	1.38×0.90	6	平坦	緩斜	人為	-	
308	C 5 6d	N-40°-E	楕円形	0.44×0.32	16	皿状	緩斜	人為	-	
309	C 5 6d	N-36°-E	楕円形	0.50×0.42	50	皿状	1412直立	人為	-	
340	C 5 c5	-	円形	0.42×0.29	23	平坦	外傾	人為	-	
341	C 5 c5	-	円形	0.43×0.42	15	平坦	1412直立	人為	-	
342	C 5 c5	N-90°	楕円形	0.32×0.29	33	皿状	1412直立	人為	-	SK543 → 本跡
343	C 5 c5	-	円形	0.40×0.39	50	皿状	1412直立	人為	-	本跡 → SK542
344	C 5 d7	N-81°-W	円形・楕円形	1.74×(0.58)	72	平坦	外傾	人為	土師瓦土器、瓦質土器、陶器、磁器、石製品	SD13 → 本跡 → SK412
345	B 4 9	N-36°-E	[楕丸長方形・楕丸長方形]	0.72×(0.36)	14	平坦	外傾	人為	-	本跡 → SK522
346	C 4 6b	-	円形	0.33×0.28	48	皿状	1412直立	人為	-	
347	C 5 6e	N-25°-E	楕円形	0.49×0.43	46	皿状	1412直立	人為	-	
348	C 5 6e	-	円形	0.34×0.33	32	皿状	1412直立	人為	-	
349	C 5 6e	-	円形	0.42×0.40	23	平坦	外傾	人為	-	
350	C 5 6e	N-63°-W	楕円形	0.68×0.38	64	皿状	直立	人為	-	
351	C 4 6b	N-81°-W	[不整楕円形]	0.76×(0.38)	22	平坦	外傾	人為	-	
352	C 4 6b	N-81°-W	楕円形	0.80×0.49	42	平坦	直立	人為	-	SK551 → 本跡
353	C 4 67	N-4°-W	不整楕円形	0.81×0.70	14	平坦	外傾	人為	-	PG16 P 14 → 本跡
354	C 4 67	N-72°-E	楕円形	0.72×0.60	11	皿状	外傾	人為	-	
355	B 4 g7	N-50°-W	長方形	0.74×0.70	118	平坦	直立	人為	-	SK515 → 本跡
356	B 4 g7	N-54°-W	長方形	1.00×0.73	44	平坦	1412直立	人為	-	
357	C 4 6b	N-35°-E	楕丸長方形	1.28×1.28	40	有段	外傾	人為	-	本跡 → SK508
358	C 4 6b	N-58°-W	円形・楕円形	0.44×(0.36)	36	平坦	直立	人為	-	
359	C 4 6b	N-54°-E	楕円形	0.60×0.53	25	平坦	1412直立	人為	-	
360	C 4 6b	N-52°-E	楕円形	0.69×0.55	84	平坦	直立	人為	土師瓦土器	PG18 P 50 → 本跡
362	C 4 6b	-	円形	0.42×0.42	22	平坦	1412直立	人為	-	
363	C 4 6b	N-33°-E	楕円形	0.50×0.42	22	平坦	1412直立	人為	-	
364	C 4 6b	-	円形	0.32×0.32	29	皿状	1412直立	人為	-	
365	C 4 6b	N-28°-W	楕円形	0.65×0.39	38	有段	外傾	人為	-	
366	C 4 6b	N-55°-W	楕円形	0.52×0.45	23	有段	1412直立	人為	-	
367	C 4 6b	N-30°-W	楕円形	0.43×0.38	11	平坦	1412直立	人為	-	
368	C 4 6b	N-16°-E	楕円形	0.41×0.32	19	皿状	1412直立	人為	-	
371	C 4 6b	-	円形	0.55×0.47	52	平坦	直立	人為	-	
373	C 5 e2	N-50°-W	[楕円形]	0.48×(0.22)	22	平坦	1412直立	人為	-	本跡 → SB 4、PG11 P 28
376	C 5 6b	-	円形	1.08×1.03	11	平坦	緩斜	人為	-	SK577、578 → 本跡 → PG 11 P 27
377	C 5 g9	N-90°	円形・楕円形	0.88×(0.73)	20	平坦	1412直立	人為	-	SK578 → 本跡 → SK338、576、579
378	C 5 g9	N-45°-E	円形・楕円形	(1.37) × (1.02)	15	平坦	緩斜	人為	-	SK577、578、580 → 本跡
379	C 5 g9	-	円形	0.40×0.38	18	平坦	1412直立	人為	-	SK577、578、580 → 本跡
380	C 5 g9	N-38°-W	楕円形	1.40×1.27	19	平坦	外傾	人為	-	SK577、578、580 → 本跡
381	C 5 c1	N-50°-E	楕円形	0.63×0.50	92	皿状	直立	人為	-	SK577、578、580 → 本跡
382	C 5 d8	N-41°-E	楕円形	0.46×0.41	55	平坦	直立	人為	-	SK577、578、580 → 本跡
383	C 5 d2	N-7°-E	楕円形	0.34×0.30	45	平坦	直立	人為	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
584	C 5 c2	N-18°-E	円形・楕円形	0.50 × (0.40)	16	平皿	外傾	人為	-	
589	C 5 a1	N-43°-W	不整形円形	0.95 × 0.71	75	平皿	直立	人為	-	
591	C 4 b9	-	円形	0.40 × 0.40	10	皿状	外傾	人為	-	
592	C 4 b9	-	円形	0.34 × 0.34	26	皿状	ほぼ直立	人為	土師質土器	
593	C 5 d6	N-28°-E	[楕円形]	1.28 × (0.94)	108	平皿	ほぼ直立	人為	-	
594	B 4 j7	N-36°-E	楕円形	(1.02) × 0.76	20	平皿	縦斜	人為	土師質土器、陶器、銅器	SK602→本跡→SB 6 P 7、SD 8
595	C 4 b0	-	円形	0.52 × 0.48	47	平皿	直立	人為	-	
596	C 5 a2	N-79°-W	楕円形	0.60 × 0.52	40	平皿	ほぼ直立	人為	-	
597	C 5 a3	-	円形	1.02 × 1.98	40	平皿	ほぼ直立	人為	-	SK598・SB 3 P 2→本跡→SD12
598	C 5 a3	N-46°-W	円形・楕円形	0.42 × (0.28)	20	平皿	ほぼ直立	人為	-	本跡→SB 3 P 2・SD12・SK597
600	B 4 j0	N-79°-W	楕円形	0.58 × 0.48	34	平皿	ほぼ直立	人為	-	P G 18 P 63→本跡
601	B 4 b7	N-5°-E	楕円形	0.71 × 0.40	25	平皿	直立	人為	-	
602	B 4 j6	N-36°-E	隅丸長方形	(3.48) × 0.78	20	平皿	外傾	人為	-	本跡→SK594、PG16 P 48
603	C 5 c6	N-56°-W	楕円形	0.64 × 0.46	20	皿状	外傾	人為	-	SK604→本跡
604	C 5 c7	N-59°-E	[楕円形]	(0.32) × 0.32	20	平皿	外傾	人為	-	本跡→SK603
605	B 4 i6	-	円形	0.58 × 0.54	30	皿状	外傾	人為	-	SB 6 P 9→本跡
606	C 5 d9	-	円形	0.40 × 0.40	48	平皿	ほぼ直立	人為	-	
607	B 4 i6	N-15°-E	楕円形	0.37 × 0.22	36	皿状	ほぼ直立	人為	-	
608	B 4 i6	-	円形	0.39 × 0.36	3	皿状	縦斜	人為	-	
609	C 6 e1	N-43°-E	[隅丸長方形]	2.68 × (1.96)	28	平皿	外傾	人為	土師質土器、銅器、瓦質土器、陶器	本跡→SK610
610	C 6 c3	N-41°-E	[隅丸長方形]	1.46 × (1.46)	22	平皿	外傾	人為	-	SK609→本跡
611	C 6 c3	N-29°-W	楕円形	0.38 × 0.28	14	皿状	外傾	人為	-	
612	C 5 i8	N-45°-W	[楕円形]	(1.76) × (1.16)	62	皿状	縦斜	人為	瓦	SK613→本跡
613	C 5 b9	N-45°-W	[長方形]	(2.70) × (0.78)	62	有段	外傾	人為	須恵器、土師質土器	SK328→本跡→SK612
614	C 5 e3	-	[円形]	(0.36) × (0.34)	32	平皿	ほぼ直立	人為	-	本跡→PG11 P 28
615	C 5 d2	N-25°-W	楕円形	0.54 × 0.50	54	平皿	直立	人為	-	SK431→本跡
616	C 5 c4	N-53°-W	楕円形	0.80 × 0.70	66	平皿	直立	人為	-	
617	C 5 i6	N-32°-W	楕円形	0.56 × 0.36	50	平皿	直立	人為	-	
618	C 4 e0	N-78°-E	[楕円形]	(0.58) × 0.40	38	平皿	直立	人為	-	
619	C 4 a0	N-29°-E	[楕円形]	0.52 × (0.22)	38	皿状	ほぼ直立	人為	-	本跡→SB 2 P 4

(5) ビット群 (第 81 図, 付図)

当時代の性格が明確でないビット群を9か所確認した。全体の配置図は付図に掲載し、規模を計測表にて掲載する。

表5 第11号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 5 b9	楕円形	26	22	74	11	C 5 i8	円形	22	22	29	21	C 5 g9	円形	30	28	29
2	C 5 b9	円形	21	21	37	12	C 5 g8	円形	26	24	15	22	C 5 g9	楕円形	24	21	29
3	C 5 i9	楕円形	30	25	22	13	C 5 g8	円形	36	32	25	23	C 5 g9	楕円形	29	26	26
4	C 5 i9	円形	28	27	25	14	C 5 g8	円形	22	20	10	24	C 5 g0	円形	26	25	13
5	C 5 i9	円形	25	23	32	15	C 5 g8	円形	18	18	18	25	C 5 i0	楕円形	40	36	30
6	C 5 b9	円形	23	23	23	16	C 5 g9	楕円形	46	40	36	26	C 5 i0	円形	30	29	30
7	C 5 b9	楕円形	29	26	42	17	C 5 g8	円形	30	30	33	27	C 5 i9	楕円形	32	22	32
8	C 5 b9	楕円形	28	17	24	18	C 5 g8	円形	28	28	22	28	C 5 c3	楕円形	48	38	57
9	C 5 g0	円形	25	25	13	19	C 5 g8	不整形円形	32	30	22	29	C 5 c3	楕円形	28	22	20
10	C 5 i8	円形	32	28	29	20	C 5 g9	楕円形	30	23	15						

表6 第12号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)			ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)			ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 5g7	円形	26	24	16	13	C 5g6	円形	37	35	33	25	C 5f6	円形	27	26	37
2	C 5g6	円形	24	23	10	14	C 5g5	円形	27	25	20	26	C 5f6	楕円形	33	(20)	31
3	C 5g6	楕円形	34	30	12	15	C 5g6	楕円形	22	19	11	27	C 5g6	楕円形	24	18	22
4	C 5g6	円形	30	28	12	16	C 5g6	楕円形	23	20	20	28	C 5g6	楕円形	23	20	18
5	C 5g6	円形	26	25	16	17	C 5f6	楕円形	29	21	14	29	C 5g6	円形	32	30	28
6	C 5g6	円形	22	22	13	18	C 5f6	円形	36	25	33	30	C 5f6	楕円形	44	40	13
7	C 5g6	楕円形	30	27	25	19	C 5f6	楕円形	30	23	29	31	C 5g6	円形	27	26	28
8	C 5g6	楕円形	24	18	16	20	C 5f6	楕円形	40	35	21	34	C 5g6	楕円形	30	24	31
9	C 5g6	楕円形	29	25	24	21	C 5g5	楕円形	30	25	25	36	C 5g6	楕円形	25	15	27
10	C 5g6	円形	25	23	12	22	C 5g5	円形	13	(11)	8	37	C 5f7	円形	26	24	24
11	C 5g6	楕円形	40	29	24	23	C 5g5	円形	21	20	26	38	C 5f6	楕円形	29	23	27
12	C 5g6	円形	27	(16)	10	24	C 5f6	円形	24	23	18	39	C 5f5	円形	45	44	20

表7 第13号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)			ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)			ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 5g6	楕円形	35	29	50	11	C 5g6	楕円形	36	24	64	15	C 5f5	楕円形	(36)	28	48
6	C 5g6	円形	52	48	35	13	C 5f7	円形	28	28	38	17	C 5g6	円形	(24)	23	45
9	C 5g6	楕円形	37	27	38	14	C 5f6	円形	37	37	38	18	C 5g6	楕円形	32	28	32

表8 第14号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)			ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)			ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 5f5	楕円形	26	23	25	9	C 5e5	円形	28	26	21	18	C 5f4	楕円形	29	22	9
2	C 5f5	円形	22	20	27	10	C 5f5	楕円形	30	25	17	19	C 5f5	円形	23	(19)	25
3	C 5f5	円形	22	22	17	11	C 5g5	楕円形	27	22	47	20	C 5e5	楕円形	(22)	(12)	13
4	C 5f5	円形	23	23	21	12	C 5f4	楕円形	29	22	18	21	C 5e5	円形	44	32	51
5	C 5f5	円形	24	(20)	26	13	C 5f4	円形	29	29	10	22	C 5f5	円形	29	27	42
6	C 5f5	楕円形	22	19	17	15	C 5f4	楕円形	32	28	26	28	C 5f4	円形	24	22	52
7	C 5f5	楕円形	38	28	60	16	C 5f4	楕円形	29	22	28	29	C 5e5	楕円形	24	18	13
8	C 5e5	円形	16	16	10	17	C 5f4	楕円形	42	40	25	30	C 5e4	楕円形	40	(36)	51

表9 第16号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)			ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)			ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 4j8	楕円形	40	31	6	15	C 5a6	楕円形	32	28	13	33	C 4a8	楕円形	43	38	12
2	C 4a8	円形	44	43	15	16	C 4b8	円形	46	40	10	34	C 4a8	円形	33	(23)	33
3	C 4a9	楕円形	36	29	31	17	C 5a6	楕円形	24	(18)	22	35	C 4a8	楕円形	(40)	35	29
4	C 4a9	円形	27	25	19	18	C 5a6	楕円形	36	18	21	36	C 4a7	円形	36	36	48
5	C 4a9	円形	39	37	19	19	C 4a7	円形	35	33	23	37	C 4a8	楕円形	33	21	35
6	C 4a9	円形	43	42	12	20	C 4a7	円形	30	(27)	21	38	B 4j6	楕円形	80	50	25
7	C 4a6	円形	72	68	34	22	B 4j6	楕円形	32	28	10	39	B 4j9	円形	40	40	44
8	C 4b8	円形	24	24	21	23	B 4j4	楕円形	38	23	20	40	C 4a7	円形	35	33	38
9	C 4b8	円形	26	24	40	24	B 4j7	楕円形	35	31	24	41	B 4j4	楕円形	28	25	20
10	C 4a7	円形	18	(14)	33	25	C 4a7	楕円形	30	26	33	42	C 5a6	円形	18	18	13
11	C 4b4	円形	32	32	22	27	B 4j7	円形	36	33	17	43	C 5a6	楕円形	44	38	15
12	C 4a7	楕円形	(37)	30	31	28	B 4j8	楕円形	40	35	7	44	B 4j6	楕円形	38	24	47
13	C 4a7	楕円形	57	32	39	31	B 4j8	長方形	34	27	11	45	B 4j7	楕円形	30	21	18
14	C 4a7	円形	36	35	42	32	B 4j8	円形	40	38	22	47	B 4j8	円形	26	(20)	24

表10 第17号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)			ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)			ビット番号	位置	形状	縦横 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 5e3	楕円形	28	24	32	10	C 5e2	楕円形	22	20	17	15	C 5d2	楕円形	32	28	13
3	C 5e3	楕円形	(38)	32	19	11	C 5e2	楕円形	38	28	35	16	C 5d2	楕円形	22	16	19
4	C 5e3	円形	28	28	9	12	C 5d2	円形	38	28	10	17	C 5e3	楕円形	32	28	13
7	C 5e3	楕円形	52	34	51	13	C 5e2	楕円形	42	38	20	18	C 5e2	楕円形	28	(18)	44
8	C 5e3	楕円形	38	34	53	14	C 5e2	楕円形	(34)	24	14	19	C 5e2	円形	40	40	24

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
21	C 5e2	円形	20	20	17
22	C 5e2	楕円形	28	18	24
24	C 5e2	楕円形	52	32	14
25	C 5e2	楕円形	34	22	13
26	C 5e2	円形	22	22	16

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
27	C 5d2	楕円形	38	34	15
28	C 5e3	楕円形	26	22	20
29	C 5d2	[楕円形]	28	(24)	29
31	C 5e2	楕円形	28	24	33
32	C 5e2	[楕円形]	22	(18)	40

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
33	C 4b8	円形	22	22	33
34	C 5d2	楕円形	42	38	9
35	C 4e2	[円・楕形]	(18)	(16)	(14)

表11 第18号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	C 5e2	円形	19	18	30
2	C 5c1	円形	33	32	60
3	C 5d1	楕円形	38	32	20
4	C 5c1	円形	30	28	39
5	C 5c1	円形	26	26	35
6	C 5d1	円形	30	30	40
7	C 5c1	円形	45	43	36
8	C 5c1	円形	27	26	25
9	C 5c1	楕円形	38	30	58
10	C 4e0	楕円形	38	26	57
11	C 4c0	円形	34	31	41
12	C 5c1	円形	24	24	24
13	C 5d1	円形	22	22	20
14	C 5c1	楕円形	23	20	32
15	C 4e0	楕円形	31	28	15
16	C 4c0	楕円形	40	32	18
17	B 4j9	楕円形	30	28	9
18	C 4a0	楕円形	32	26	26
19	C 4a0	楕円形	42	28	19
20	C 4a0	円形	26	22	75
21	C 4a0	楕円形	32	28	24
22	C 4a9	[円・楕形]	(30)	28	38

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
23	C 4a9	[円・楕形]	30	(28)	60
24	C 5c1	円形	40	39	14
25	C 5c1	円形	29	28	25
26	C 5c1	円形	25	25	16
27	C 4c9	円形	34	31	41
28	C 4c0	楕円形	29	25	47
29	C 5c1	楕円形	30	22	6
30	C 5c1	楕円形	35	30	80
31	C 4c0	[円・楕形]	30	(16)	14
32	C 5d1	楕円形	38	24	25
33	C 5c1	楕円形	30	27	48
34	C 5d2	楕円形	24	20	20
35	C 5d2	楕円形	32	28	30
36	C 5d2	楕円形	40	36	35
37	C 5d1	楕円形	34	30	30
38	C 4c0	[楕円形]	(24)	24	21
39	C 4a9	楕円形	60	42	40
40	C 4b9	楕円形	28	14	11
41	C 4b9	円形	25	25	16
42	C 4b9	円形	23	21	22
43	C 4b9	楕円形	29	25	16
44	C 4b9	円形	20	20	18

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
45	C 4c0	円形	28	26	27
47	C 4c0	[円・楕形]	30	(24)	27
48	C 4c0	[楕円形]	68	(33)	13
49	C 4c0	[円・楕形]	36	(34)	12
50	C 4c0	[円・楕形]	40	(40)	37
51	C 4e9	楕円形	40	27	41
52	C 4c0	円形	30	29	14
53	C 5c1	円形	29	29	28
54	C 5c1	[円・楕形]	25	(21)	10
55	C 4c0	円形	25	23	18
56	C 5c1	円形	37	34	20
57	C 5c1	溝入長方形	47	27	8
58	B 4j9	円形	28	28	10
59	C 4c0	円形	30	28	11
60	C 4a0	楕円形	38	32	30
61	C 4a9	楕円形	38	28	56
63	B 4j8	円形	32	32	36
64	C 4b9	楕円形	64	46	24
65	C 4c0	楕円形	34	30	35
66	C 4b9	[円・楕形]	28	(30)	48
67	C 4c0	[円・楕形]	28	(14)	24

表12 第19号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 4j9	楕円形	48	30	22
2	B 4j9	円形	26	28	35
3	B 4j9	円形	32	32	30
4	B 4j9	円形	28	26	20
5	B 4j9	楕円形	60	38	14
6	B 4b8	[円・楕形]	34	(25)	41
7	B 4b8	[円・楕形]	41	(27)	64

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
8	B 4b8	楕円形	58	46	63
9	B 4j9	楕円形	42	38	48
10	B 4j0	楕円形	32	26	35
11	B 4b8	楕円形	49	40	62
12	B 4b8	[楕円形]	44	(30)	52
13	B 4j9	楕円形	56	36	35
14	B 4g7	円形	40	40	10

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
15	B 4g7	楕円形	48	30	15
16	B 4g7	円形	31	30	30
17	C 4a9	楕円形	36	30	56
18	B 4b8	円形	31	30	47
19	B 4g7	[楕円形]	(56)	54	8
20	B 4b8	円形	39	38	30

表13 第20号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	C 5b3	円形	30	30	23
2	C 5b3	円形	24	24	13
3	C 5b4	円形	32	30	44
4	C 5b4	円形	26	24	20
5	C 5e4	円形	40	38	20

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
6	C 5b4	円形	30	28	11
7	C 5e4	[円・楕形]	28	(16)	6
8	C 5e4	円形	26	26	15
9	C 5e4	円形	30	30	30
10	C 5e5	円形	26	24	30

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
11	C 5e5	円形	22	22	23
12	C 5e5	楕円形	28	23	29
13	C 5e5	円形	40	39	26

3 近代以降の遺構 (第1次面)

当時代の遺構は、掘立柱建物跡1棟、井戸跡2基、石組水路跡4条、水路状施設1か所、溝跡1条、近代建物跡1棟、整地跡2か所、土坑83基、柱穴列3か所、ピット群1か所を確認した。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第45・63・86図 PL6・18)

位置 調査区西部のB4g6区、標高26.7mほどの台地平坦部に位置している。

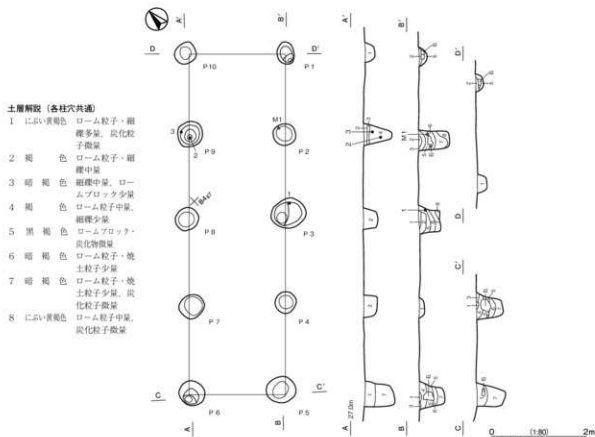
重複関係 第2号整地跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行4間、梁行1間の掘立柱建物で、桁行方向がN-50'-Eの東西棟である。規模は、桁行7.3m、梁行2.1mで、面積は15.33㎡である。柱間寸法は、桁行が西平側の北妻から1.8m(6尺)、1.7m(6尺)、1.9m(6尺)、1.9m(6尺)、梁行が北妻側で2.1m(7尺)で柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径46~74cm、短径44~64cmである。深さは10~56cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1~8層は、柱材抜き取り後の覆土である。また、P1・P2・P5・P6の覆土中で大礫が確認された。

遺物出土状況 土師器片2点(甕)、須恵器片1点(高台付坏)、土師質土器片5点(小皿1、焙烙2、播鉢1、焜炉1)、陶器片1点(瓶類)、磁器片4点(碗3、小瓶1)、金属製品79点(釘78、煙管1)がP2・P3・P9の覆土中からまばらに出土している。1はP3の覆土中層から、2・3はP9の覆土中層から出土している。また、M1の煙管はP2の覆土中層から出土している。P9からは細かくて図示できない鉄製の釘が多量に出土した。建物廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見 出土土器に七面焼の土瓶とみられる細片と土師質土器の焜炉が出土している。七面焼は19世紀中葉から本格稼働した在地の窯で生産されている。また、竈型の焜炉の出土頻例は19世紀後葉にみられることから、時期は19世紀後葉であると考えられる。P1・P2・P5・P6の大礫は、建物の柱を支えるために利用されていたものが、埋め戻しに伴って廃棄されたと考えられる。本跡の西側に隣接して、第1号石組水路跡が確認されているため、性格は石組水路にかかわる簡易な建物、小屋などが想定される。



第45図 第1号掘立柱建物跡実測図

(2) 井戸跡

第3号井戸跡 (第46図)

位置 調査区中央部のB5i1区、標高26.2mほどの台地平坦部に位置している。

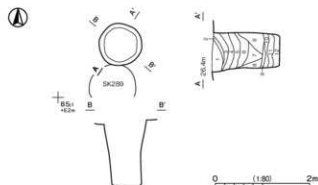
重複関係 第2号整地跡、第289号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.92mほどの円形で、確認面から深さ1.40mまで円筒状に掘り込まれている。

覆土 12層に分層できる。ロームブロック、粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、土師器片1点(器台)が覆土中から出土している。井戸廃絶時の埋め戻しに伴うものと考えられる。

所見 出土土器からは時期を決定できない。整地を行った後の掘り込みのため、時期は19世紀後葉以降であると考えられる。1.40m掘り込んだ底面には、粘土が広がっており、本跡の南西側に第3号石組水路跡のL字状の折れ部が確認されているため、石組水路にかかわる溜井の可能性はある。



第46図 第3号井戸跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 2 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 6 黒褐色 ロームブロック・細粒中量、凝沼パミスブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック・細粒少量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量
- 9 に近い黄褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 10 黒褐色 ロームブロック微量
- 11 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・中粒少量
- 12 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

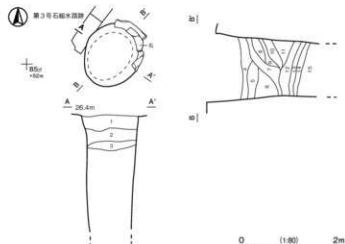
第5号井戸跡 (第47図)

位置 調査区中央部のB5j1区、標高26.2mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号石組水路跡、第2号整地跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.50m、短径1.22mの楕円形で、長径方向N-40°-Eである。確認面から深さ2.50mまで掘り込んだ段階で、崩落が想定されたため、以下の調査を断念した。

覆土 15層に分層できる。ロームブロック、粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。



第47図 第5号井戸跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・中粒少量、凝沼パミスブロック・赤色粒子微量
- 2 に近い黄褐色 ロームブロック少量、炭化物・中粒微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 に近い黄褐色 ロームブロック中量、中粒微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、中粒微量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量
- 7 暗褐色 山砂中量、ロームブロック少量、炭化物微量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量、凝灰質泥岩微量
- 9 黒褐色 山砂中量、ロームブロック少量、炭化物微量
- 10 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 11 黒褐色 炭化材少量、ロームブロック・凝灰質泥岩微量
- 12 黒褐色 細粒少量、ロームブロック・炭化物・山砂微量
- 13 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・細粒少量、凝灰質泥岩微量
- 14 黒褐色 ロームブロック・炭化物・中粒・凝灰質泥岩少量
- 15 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量、凝灰質泥岩微量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、陶器片1点(碗)、磁器片2点(碗、鉢)、土製品1点(凝灰質泥岩水路部材)、金属製品22点(釘)、瓦片3点(丸瓦1、器種不明2)が覆土中から出土している。いずれも廃絶時の埋め戻しに伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物と整地を行った後の掘り込みから19世紀後葉と考えられる。2.50m掘り込んでも底面が確認できなかったため、掘り抜き井戸の可能性が高い。第3号石組水路跡に隣接をしているため、石組水路にかかわると想定される。

表14 近代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	側面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3	B-511	-	円形	0.92×0.90	140	平坦	直立	人為	縄文土器、土師器	第2号整地跡、SK289→本跡
5	B-511	N-40°-E	楕円形	1.30×1.22	(250)	不明	直立	人為	縄文土器、陶器、磁器、土製品、金属製品、瓦	第3号石組水路跡、第2号整地跡→本跡

(3) 石組水路跡

第1号石組水路跡 (第48・63・82・83・86図 PL3・6・17・19)

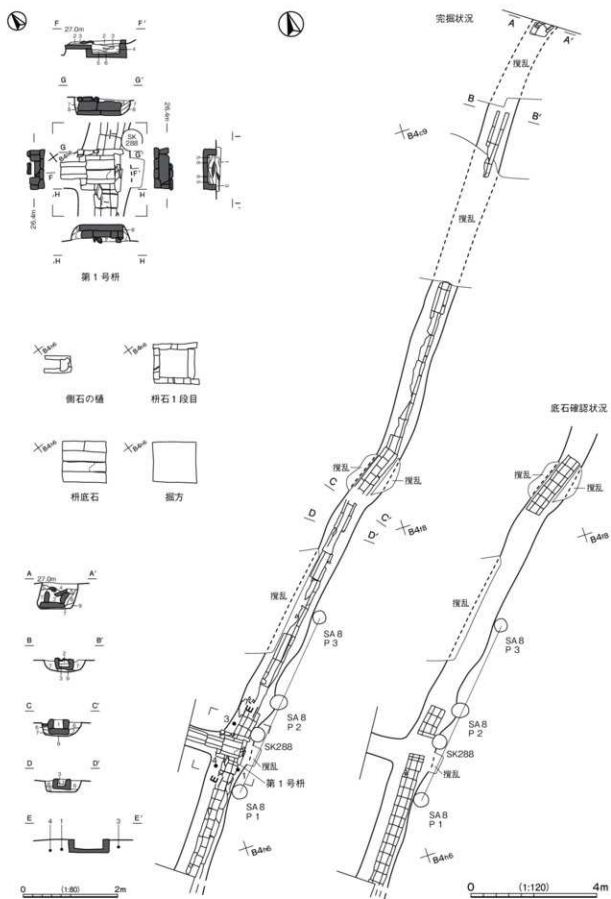
位置 調査区西部のB4b0～B4b5区、標高26.7mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号整地跡を掘り込み、第8号柱穴列、第288号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側、南側ともに調査区域外に延びており、長さは22.40mしか確認できなかった。B4b5区から北東方向(N-45°-E)に直線状に延びている。また、B4g5区の調査区域外から南東方向(N-121°-E)に第1号橋に向かって直線状に1.2m延びて橋部分で合流している。調査の段階で、すでに蓋が開いている状況であったが、調査区北壁の掘方の状況から、暗渠であったと判断できる。水路部分は、3通りの組み合わせを確認した。橋南側は底石と側石の石組、橋北側が凹字状に加工された一体型の岩樋、橋西側ではU字状に加工された一体型の岩樋でそれぞれ水路が構成されていた。石組部分では、底石が長軸方向を横向きに設置されていた。橋部分は、橋石、橋底石の組み合わせで構成されていた。水路部分は、幅20～26cm、深さ12～17cmで、橋内部は、縦50cm、横60cm、深さ25cmである。完存の石材は全て凝灰質泥岩製で、凹字型1体で長さ90cm、幅46cm、高さ21～24cm、内側が幅26cm、深さ12～17cmほどくり抜かれている。重量は、635kgである。U字型1体で長さ60cm、幅40cm、高さ23cm、内側が幅20cm、深さ17cmほどくり抜かれている。重量は、42.4kgである。底石は、長さ30cm、幅46cm、高さ10～12cm、重量21.6～220kgである。側石は、長さ60cmと90cm、幅12cm、高さ20～22cm、重量26.8～28.1kgである。掘方は、上幅70～104cm、下幅50～74cm、深さ32～62cmで、U字状を呈している。

覆土 水路内は3層に分層できる。蓋が開いており、ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。第4層は覆土、第5～9層は掘方への埋土である。

遺物出土状況 土師質土器片2点(焙烙)、陶器片6点(碗2、皿2、灯明受皿1、土瓶1)、磁器片3点(碗2、鉢1)、土製品2点(煉瓦)、石製品70点(凹字型岩樋19、U字型岩樋2、底石24、側石13、橋石8、橋底石4)、金属製品2点(釘)、瓦片1点(棧瓦)が出土している。1・3・4は、掘方の埋土下層から出土している。2は橋の覆土中から出土している。M1は、橋の北側の覆土中から出土している。また、石組の底石上面は側石を載せるため左右ともに1cm程度の段差を付ける加工がなされている。凹字状・U字状の岩樋は本跡に使用されているものである。



第48図 第1号石組水路跡実測図(1)

所見 時期は、出土遺物から19世紀中葉から後葉に比定できる。直線状の石組水路が、一部蛇行をしている。この部分だけ一体型の岩樋から石組に変更されているため、修復をした可能性も考えられる。また、桁は石組水路跡よりも深いため、南側と西側から集水していたと想定できる。調査区南側から北側の那珂川方面に向かって、水路の底面が緩く傾斜している。本跡は、調査区外に延びているため確認できないが、那珂川に排水をしていたと考えられる。

土層解説 (各ライン共通)

1 褐色	ローム粒子中量、細礫少量、機土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック・細礫少量	7 褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック・細礫少量	8 褐色	ロームブロック中量、凝灰質泥岩少量
4 褐色	ロームブロック・細礫中量	9 黒褐色	ローム粒子・砂粒少量
5 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量		

土層解説 (横)

1 褐色	ロームブロック少量、細礫微量	5 黒褐色	砂粒多量、ローム粒子微量
2 暗褐色	細礫中量、ローム粒子少量	6 黒褐色	砂粒多量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、細礫微量	7 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子・砂粒少量	8 黒褐色	ローム粒子・砂粒少量

第2号石組水路跡 (第49・63・86・87図 PL 3・6・19・20)

位置 調査区西部のB 5e2～C 4b7区、標高262mほどの台地平坦部に位置している。

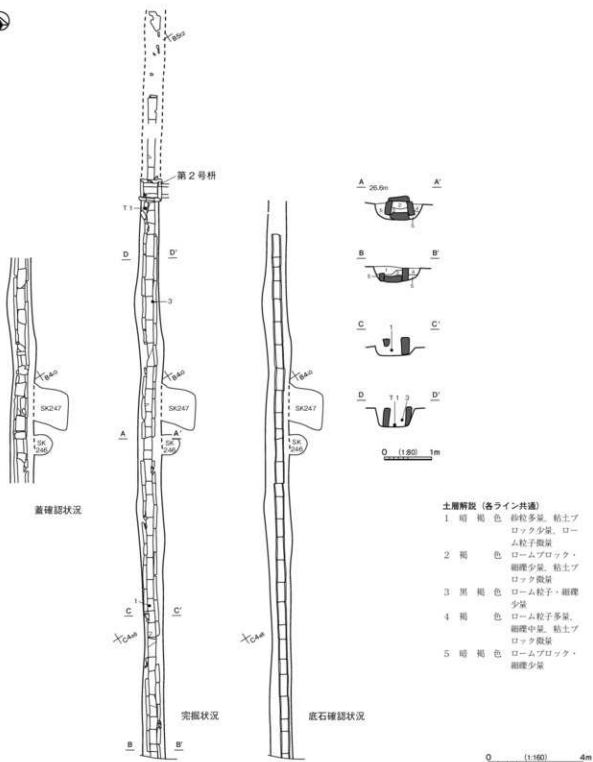
重複関係 第2号整地跡を掘り込み、第246・247号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側、南側ともに調査区域外に延びており、長さは3160mしか確認できなかった。C 4b7区から北東方向(N-33°-E)に直線状に延びている。調査区域外から23mのところから第2号桁が設置されており、第4号石組水路と接続している。調査区南壁の掘方の状況から、暗渠であったと判断できるが、ほぼ蓋が開いている状態で確認され、7点の蓋石は本来の位置にあると考えられるが、他は動かされていたり、破壊されたりしていた。水路部分は、底石と側石と蓋石の石組で構成されている。底石と蓋石は、長軸方向が縦に設置されていた。水路部分は幅32cm、深さ24cmである。完存の石材は、全て凝灰質泥岩である。底石は長さ60～66cmと88～90cm、幅37cm、高さ14cm、重量50.2～68.4kgである。側石は、長さ60～62cmと90～96cm、幅10～14cm、高さ28cm、重量34.3～49.8kgである。蓋石は、長さ90cm、幅36cm、厚さ11cm、重量38.4kgである。掘方は、上幅80～104cm、下幅56～72cm、深さ33～36cmで、U字状に掘り込まれている。第2号石組水路と第4号石組水路が合流する第2号桁は、天井部が内部に崩落し、土砂が流入した状況で確認された。

覆土 水路内は2層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。第4・5層は掘方への埋土、第1層は覆土と考えられる。

遺物出土状況 陶器片7点(小皿3、壺1、瓶類3)、磁器片47点(碗30、小皿6、五寸皿1、鉢7、瓶類3)、石製品87点(底石32、側石45、蓋石10)、金属製品16点(釘9、鏝1、不明鉄製品6)、ガラス製品2点(食品瓶、ビール瓶_等)、自然遺物1点(鳥骨_等)が出土している。1は覆土下層から、3は床面直上から出土している。2と4は覆土中から出土している。また、T 1は掘方の底面から出土している。

所見 時期は、掘方の出土遺物から19世紀後葉に比定できる。直線状の石組水路で調査区南側から橋に向かって緩やかに傾斜をしている。また、調査区北側では桁の傍で底板のみ確認した。調査区北側から橋に向かって石組水路が存在したが、攪乱を受けて壊されてしまったと考えられる。また、確認できた底石の標高から調査区北側から橋に向かって緩やかに傾斜をしていることが分かる。これらのことから、調査区北側に存在した石組水路が南側よりも高い位置で橋に接続されていたと推測される。水が橋に集められ、より低いところへ流れる第4号石組水路に接続していたことから、用途は排水と想定される。



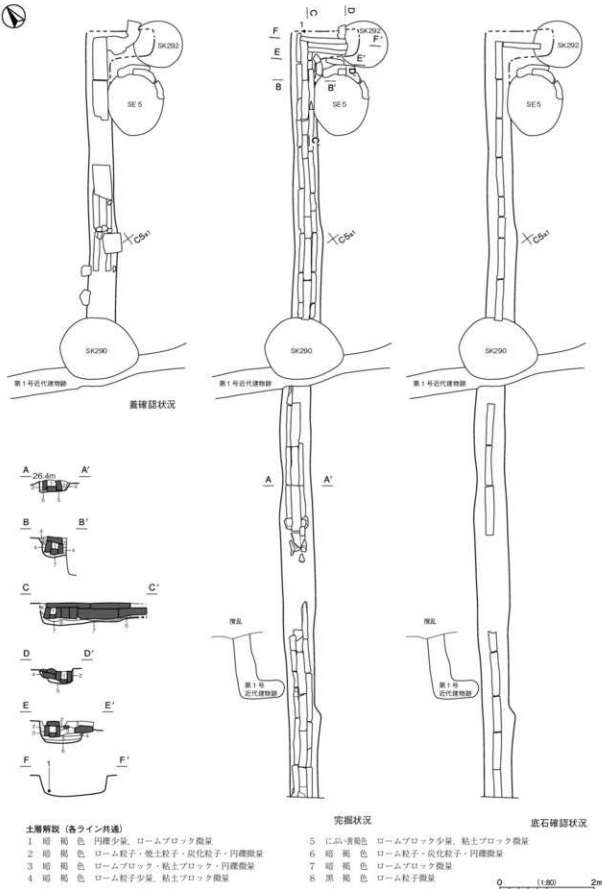
第49図 第2号石組水路跡実測図

第3号石組水路跡 (第50・63・83図 PL4)

位置 調査区西部のB5j1～C4c9区、標高26.2mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号整地跡を掘り込み、第5号井戸、第290・292号土坑、第1号近代建物に掘り込まれている。

規模と形状 南側が調査区域外に延びており、長さは15.53mしか確認できなかった。C4c9区から北東方向(N-36°-E)に直線状に進み、B5j1区で南東方向(N-129°-E)にL字状に曲がっている。調査区南壁の



第50図 第3号石組水路跡実測図

掘方の状況から、検出される前は暗渠であったと判断できるが、南側半分はほぼ蓋が開いている状況で確認された。北側の3枚の蓋石は本来の位置にあると考えられる。水路部分は、底石と側石と蓋石の石組で構成されている。底石と蓋石は長軸方向が縦に設置されていた。水路部分は幅20cm、深さ10cmである。完存の石材は全て凝灰質泥岩製である。底石は、長さ約80～90cm、幅約20cm、高さ約10cm、重量168～18.9kgである。側石は、長さ50～90cm、幅10～12cm、高さ20～25cm、重量138～21.6kgである。蓋石は、長さ83～90cm、幅25～30cm、厚さ10～12cm、重量242～26.2kgである。掘方は、上幅50～70cm、下幅38～70cm、深さ32～36cmで、U字状に掘り込まれている。

覆土 水路内部は、単一層である。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。第2～8層は掘方への埋土と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、陶器片2点(播鉢、甕類)、磁器片1点(碗)、石製品57点(底石17、側石37、蓋石3)が出土している。1は、掘方の埋土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から19世紀代と考えられる。L字状の石組水路で調査区南側からB5jl区の折曲に向かって緩やかに傾斜をしている。また、B5jl区の折曲からわずかに数mで石材が確認できないため不明である。他の石組水路よりも幅が狭く、途中で折れて止まっていることから、用途は上水の可能性も考えられるが、他の石組水路と同様に、排水用途と考える方が妥当である。

第4号石組水路跡(第51・63・64・84・87回 PL 4～7・17・20)

位置 調査区西部から東部にかけてのB4g0～C6f2区、標高26.2mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2・3号整地路を掘り込み、第251号土坑に掘り込まれている。また、第2号水路施設が接続をしている。

規模と形状 西側は第2号橋で第2号石組水路と接続しているが、東側は調査区域外に延びているため、長さは60.16mしか確認できなかった。B4g0区から南東方向(N-130°-E)に直線状に延びている。検出される前は暗渠であることが確認できた。蓋はほぼ閉まっている状況であったが、捜索によって一部破壊されていた。水路部分は、底石と側石と蓋石の石組で構成されている。底石と蓋石は長軸方向が横に設置されていた。橋部分は、橋石、橋底石の組み合わせで構成されていた。水路部分は、幅20cm、深さ20cmで、橋内部は、縦40cm、横40cm、深さ40cmである。完存の石材は全て凝灰質泥岩製である。蓋石は、長さ28～30cm、幅59～60cm、高さ14～16cmで、重量は29.2～37.2kgである。底石は、長さ30～31cm、幅60～62cm、高さ13～14cm、重量32.8～42.4kgである。側石は、長さ90～91cm、幅33cm、厚さ15cm、重量62.8～65.0kgである。掘方は、上幅84～148cm、下幅56～80cm、深さ40～112cmで、箱型に掘り込まれている。

覆土 22層に分層できる。蓋が開いていたため、C・Dライン周辺の石組水路内部では使用に伴う覆土は確認できなかった。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。第2～22層が掘方への埋土である。第1層は、遺構廃絶後の覆土と考えられる。

遺物出土状況 土師器片2点(甕)、土師質土器片3点(小皿、焙烙、内耳鍋)、瓦質土器片1点(播鉢)、陶器片10点(小坏1、皿2、灯明皿1、灯明受皿1、行平2、鉢1、土瓶蓋1、土瓶1)、磁器片1点(瓶類)、磁器片17点(小坏1、碗6、皿3、急須1、鉢2、猪口1、小瓶1、土瓶蓋1、罍子1)、石製品477点(底石187、側石118、蓋石160、橋石8、橋底石4)、金属製品1点(不明鉄製品)、ガラス製品1点(ペン先)、瓦片4点(軒丸瓦1、器種不明3)が出土している。1・2・4～8・11・12・14～16・18・19は、掘方の埋土中から出土している。3・9、T1は掘方の埋土中層から、10・13は掘方の埋土下層から出土している。

蓋石・側石・底石ともに遺存状況がよい岩種を、実測図及び観察表で記載する。

所見 時期は、出土遺物から19世紀後葉に比定できる。第2号石組水路跡に接続している。調査区西側から東側に向かって、水路の底面に約60mで1.3mほどの傾斜がついている。また、水路の蓋はほぼ同じ大きさであり、凝灰質泥岩製の規格品と考えられる。しかし、東側の調査区域外との境目の蓋だけは、大谷石製であった。目地には水漏れ防止用と考えられる粘土が詰められていた。さらに、第2号水路状施設が接続している場所にはほぼ近いBラインでは、凝灰質泥岩製の蓋ではなく、煉瓦を利用して水路に蓋をしていた。これらのことから本跡は、修繕をして長い期間使われていたと考えられる。また、調査区域外に延びていくため確認はできないが、橋に集めた水を高低差を利用して那珂川方面に排水をしていたと想定される。

表15 近代石組水路跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	断面				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	B 4b6 ~ B 4b5	N-45°-E	直線状	(22.40)	0.70 ~ 1.04	0.59 ~ 0.74	32 ~ 62	U字状	外積	人為	土師質土器、陶器、磁器、土師器、石製品、金銅製品、瓦、土師→SR288、SA 8	第2号惣地跡→本跡 第2号惣地跡→本跡
2	B 5e2 ~ C 4b7	N-33°-E	直線状	(31.60)	0.80 ~ 1.04	0.56 ~ 0.72	33 ~ 36	U字状	外積	人為	陶器、磁器、石製品、土師器、ガラス製品、自然遺物	第2号惣地跡→本跡 第2号惣地跡→本跡→SR216・247
3	B 5j1 ~ C 4c9	N-36°-E N-129°-E	L字状	(15.53)	0.50 ~ 0.70	0.38 ~ 0.70	32 ~ 36	U字状	外積	人為	土師質土器、陶器、磁器、土師器、石製品	第2号惣地跡→本跡→SR216・247 第2号惣地跡→本跡
4	B 4g9 ~ C 6f2	N-137°-E	直線状	(60.16)	0.84 ~ 1.48	0.56 ~ 0.80	80 ~ 112	箱型	直立	人為	土師質土器、瓦、土師器、陶器、磁器、瓦、石製品、金銅製品、ガラス製品、土師器	第2号惣地跡→本跡→SR216・247 第2号惣地跡→本跡→SR216・247

(4) 水路状施設

第2号水路状施設 (第52・82図 PL17)

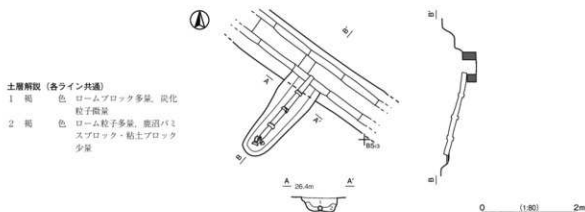
位置 調査区中央部のB 5i2～B 5h2区、標高26.2mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号石組水路跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長さ1.76mで、B 5i2区から第4号石組水路跡に向かって直線状(N-41°-E)に延びている。南西側は土管が破損しており、さらに延びていた可能性もあるが確認できなかった。近代の土管を4本連結して埋設をした暗渠の水路状施設である。掘方は、上幅50～75cm、下幅35～50cm、確認面からの深さ2～50cmである。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積が堆積状況を示していることから埋め戻されている。2層とも土管設置後の掘方への埋土である。

遺物出土状況 土管4点が水路状施設の構造材として出土した。4本が1本の筒状に組み合わせられて埋設されていた。土管を組み合わせただけで、粘土や漆喰などで接着はされていない。



第52図 第2号水路状施設実測図

所見 時期は、出土遺物から近代と考えられる。第4号石組水路跡までの長さ約2mで35cm程度の高低差で、112度の急な勾配のため土管内部の堆積物は確認できなかった。第4号石組水路跡は排水用途と考えられるため、第2号水路跡施設も排水用途と考えられる。

(5) 溝跡

第6号溝跡 (第53図)

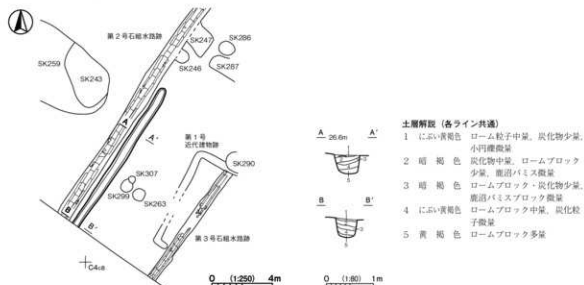
位置 調査区南西部のC4b7～B4j9区、標高262mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号整地跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が調査区域外に延びているため、長さは16.0mしか確認できなかった。C4b7区から北東方向(N-32°-E)に、直線状に延びている。上幅42～52cm、下幅30～38cmで、確認面からの深さは43cmで、断面形はU字状である。南西端部から北東端部に向かって緩やかに下っている。

覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

所見 遺物は出土していない。時期は、19世紀中葉以降と考えられる。本跡の脇に第2号石組水路跡が確認されているため、関連が想定されるものの性格は不明である。



第53図 第6号溝跡実測図

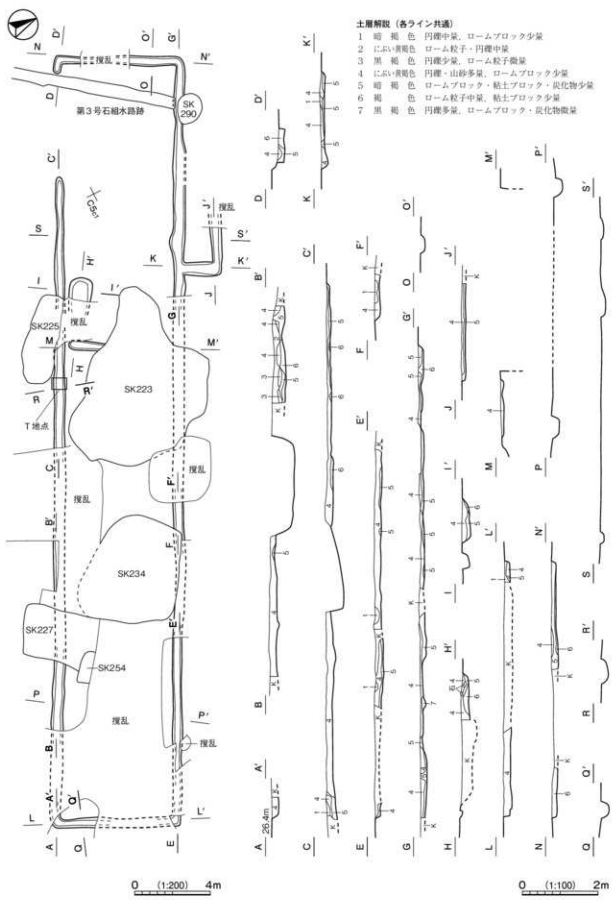
(6) 近代建物跡

第1号近代建物跡 (第54・65図 PL8)

位置 調査区中央部から東部にかけてのC4a9～C5g8区、標高262mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号石組水路跡、第2号整地跡を掘り込み、第223・225・227・234・290号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 建物の東側が広い範囲で攪乱を受けているが、長軸方向N-63°-Wの東西方向に長い建物である。建物は長軸40.56m、短軸6.72mの長方形で、面積は272.56㎡である。確認状況は、線状に円礫が集積したり、散在したりしていた。建物跡全体に円礫が確認できたが、Rライン西側のT地点では、1㎡あたり砂礫(1～3cm)18.2kg、小円礫(3～6cm)37.5kg、中円礫(6～9cm)54.2kg、大円礫(9cm以上)32.6kgの円礫が敷かれていた。これらの円礫は、那珂川から運ばれたものである。布基礎と考えられるが、建物南西部の一部で円礫を確認することができなかった。そのため、この部分は基礎が敷設されなかったと考えられる。



第54図 第1号近代建物跡実測図

また、建物北西部の一部分はL字状に、Hライン・Mラインのところにも円礫が敷き詰められていたが、攪乱を受けているため、全容は不明である。掘方は、上幅50～110cm、下幅30～80cm、深さ5～34cmで、浅いU字状に掘り込まれている。

覆土 7層に分層できる。第1～4層では円礫が敷き詰められていること、それ以外の層でもブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、土師器片1点(甕)、土師質土器片2点(小皿、焙烙)、陶器片2点(小皿、土鍋)、磁器片7点(碗4、皿1、小皿1、五寸皿1)、土製品3点(芥子面1、土管2)、金属製品2点(釘)、瓦片3点(器種不明)が出土している。

所見 時期は、土管などの出土土器から19世紀後葉以降と考えられる。近代の北三の丸は、1882年(明治15)に茨城県監獄本署となつてから、1945年(昭和20)まで名前を変更しながら、刑務所が設置されていた場所である。刑務所の建物を記録した写真等は現存していないため、詳細は不明であるが、近代の刑務所関連施設の基礎跡と推定できる。

(7) 整地跡

第2号整地跡(第55・65～67・82・85・86図、付図 PL 8・9・17～19)

位置 調査区B4f6～C6b4区、標高25.8mほどの台地平坦部から縁辺部に位置している。

重複関係 第1号掘立柱建物、第3・5号井戸、第1～4号石組水路、第6号溝、第223・225～228・231・232・234・235・239・243・244・246～248・252～254・257～259・263～272・274～278・280～282・284・286～294・296・297・299～307・418号土坑、第6～8号柱穴列、第1号近代建物、第3号整地跡に掘り込まれている。

範囲と形状 確認面上は、攪乱を受けているところが多かったが、調査区の南西部から北東部にかけて、全長76.7m、全幅36.2mの広範囲にわたっている。台地上に土を盛って大規模に整地を行っている。盛土の厚さは全域で24～50cmであるが、調査区南東部のみ一段下がっており、最も厚い部分で84cmであった。底面はほぼ平坦である。

覆土 80層に分層できる。調査区北西部から南東部に向かって平坦部を作り出すように盛土を行っている。

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)、土師器片14点(坏3、甕11)、須恵器片7点(坏1、高台付坏1、甕5)、土師質土器片101点(皿36、小皿38、燗台2、焙烙9、焙烙₂、搦鉢3、焼塩壺1、火鉢4、火消壺蓋1、香炉2、七厘2、壺₁)、瓦質土器片9点(焙烙1、焙烙₂、火入₁、搦鉢2、火鉢3)、陶器片52点(碗14、皿15、土瓶蓋1、土瓶3、土鍋1、鉢1、搦鉢3、植木鉢₁、香炉₁、壺5、瓶1、仏花瓶1、浅椀1、甕3、便器₁)、磁器片57点(小坏3、碗41、皿3、仏飯器1、鉢3、壺1、小壺₂、瓶1、朝徳利1、罍子1)、土製品2点(煉瓦、土管)、石器2点(砥石、石盤)、金属製品3点(釘2、煙管1)、銭貨3点(寛永通宝)、瓦片19点(丸瓦2、平瓦6、器種不明11)が出土している。23・M4は上層から、14・15・22は中層から、5・7・8・10～12・17・18・20・21・25・31・32・37～40・43・45・46、Q1、M2・M3は下層から出土している。いずれも盛土に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から19世紀中葉から後葉と考えられる。1882年(明治15)には、茨城県監獄水戸市北三の丸支署が設置されているため、それに伴い大規模な整地が行われたと考えられる。整地範囲は、標高が少しだけ低い調査区の南側半分で、北側と高さを合わせるように整地されている。また、南東側は堀に向かって落ち込んでいたため、盛土をして整地されたと考えられる。以上のことから、北西側から南東側に向かって、複数の段階に分けて土を入れたと推測できる。

第2号整地跡土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・細礫少量	41	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量
2	にぶい黄褐色	ロームブロック中量、重沼バミスブロック少量	42	暗褐色	ロームブロック・細礫少量、炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、重沼バミスブロック・炭化物微量	43	暗褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子・中礫微量
4	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、重沼バミスブロック少量、炭化材・中礫微量	44	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・中礫微量
5	にぶい褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量	45	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、細礫少量
6	黒褐色	ローム粒子中量、重沼バミスブロック少量	46	暗褐色	ロームブロック・凝灰質泥岩片少量、炭化物微量
7	にぶい黄褐色	ロームブロック中量、細礫少量、粘土ブロック・炭化物微量	47	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
8	暗褐色	ロームブロック・重沼バミスブロック少量	48	暗褐色	ロームブロック・重沼バミスブロック少量、焼土ブロック・凝灰質泥岩片微量
9	暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・凝灰質泥岩片微量	49	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量、粘土ブロック微量
10	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・中礫微量	50	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック・重沼バミスブロック少量、炭化物微量
11	にぶい黄褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量	51	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量
12	黒褐色	ローム粒子中量、炭化物・中礫少量	52	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、重沼バミスブロック少量、炭化物微量
13	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、重沼バミス粒子少量	53	にぶい褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
14	灰黄褐色	ロームブロック・中礫・山砂少量、焼土ブロック微量	54	にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量
15	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、中礫少量	55	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量
16	にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子・中礫少量、赤色粒子微量	56	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
17	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、細礫少量、炭化物微量	57	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
18	黒褐色	ローム粒子中量、細礫少量、瓦片微量	58	黒褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
19	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・細礫少量	59	黒褐色	ロームブロック・細礫少量
20	暗褐色	ロームブロック・細礫少量	60	暗褐色	ロームブロック・中礫少量、粘土ブロック微量
21	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	61	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
22	暗褐色	ロームブロック・炭化物・中礫中量	62	黒褐色	ローム粒子微量
23	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・中礫少量、粘土ブロック微量、鉄分沈着	63	黒褐色	ロームブロック中量
24	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量、赤色粒子微量	64	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
25	暗褐色	ロームブロック・重沼バミスブロック・細礫少量、粘土ブロック・炭化物微量	65	黒褐色	ローム粒子中量
26	黒褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量	66	にぶい黄褐色	ローム粒子・細礫中量
27	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・中礫少量	67	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
28	にぶい黄褐色	ロームブロック・炭化物中量、凝灰質泥岩片微量	68	黒褐色	ロームブロック少量
29	にぶい黄褐色	ロームブロック・炭化粒子・凝灰質泥岩片中量	69	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物少量
30	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、中礫微量	70	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量
31	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、中礫微量	71	黒褐色	細礫中量、ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
32	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化物・重沼バミス粒子少量、焼土ブロック微量	72	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
33	黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック・細礫少量	73	暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物微量
34	黒褐色	ロームブロック・重沼バミスブロック少量、炭化粒子微量	74	黒褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
35	黒褐色	ロームブロック・炭化物・重沼バミス粒子少量	75	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
36	暗褐色	ロームブロック・中礫少量、炭化物微量	76	にぶい黄褐色	ロームブロック中量、重沼バミスブロック・炭化物少量
37	にぶい黄褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	77	暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量
38	黒褐色	ローム粒子中量、細礫少量	78	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量
39	黒褐色	ロームブロック・重沼バミスブロック・炭化粒子微量	79	にぶい黄褐色	ローム粒子中量、重沼バミスブロック少量
40	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	80	黒褐色	ローム粒子中量、重沼バミスブロック少量、炭化物微量

第3号整地跡 (第55・67図、付図 PL9)

位置 調査区C 6d3区～C 5h0区、標高258mほどの台地平坦部から縁辺部に位置している。

重複関係 第2号整地跡を掘り込み、第4号石組水路に掘り込まれている。

範囲と形状 確認面上は、掘削を受けたところもあったが、調査区の南東部に、全長21.0m、全幅7.5mの範囲で確認できた。大きな窪地に南西側と北西側から土を入れるようにして、整地を行っている。盛土の厚さは最も厚いところで1.4mであった。底面は、ほぼ平坦である。

覆土 113層に分層できる。本跡の南西側と北西側から、複数の段階に分けて盛土をしている。大まかな盛り土の単位を太線で示した。

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、瓦質土器片1点(播鉢)、陶器片1点(皿)が出土している。いずれも盛土に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器と第2号整地跡との重複関係から19世紀中葉から後葉と考えられる。第2号整地跡で広範囲に平坦面を作出した後、堀に向かって大きく落ち込んでいた部分に盛土をして整地を行い、平坦面の作出をしたと考えられる。北西側と南西側から、複数の段階に分けて土を入れたと推測できる。

第3号聖地跡土層解説

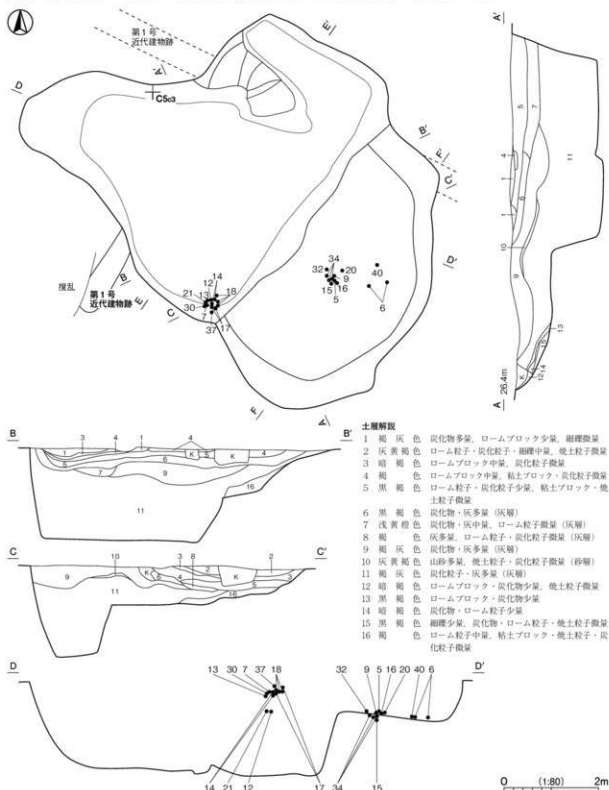
1	黒	褐色	炭化物・焼土粒子少量、ローム粒子・細粒円礫微量	55	黒	褐色	細粒円礫少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐色	焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・細粒円礫微量	56	暗	褐色	ローム粒子・炭化粒子・細粒円礫少量、粘土ブロック微量
3	黒	褐色	炭化粒子・細粒円礫少量、ローム粒子・焼土粒子微量	57	暗	褐色	粘土ブロック中量、細粒円礫微量
4	黒	褐色	細粒円礫少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	58	暗	褐色	粘土ブロック少量、細粒円礫微量
5	暗	褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・細粒円礫微量	59	暗	褐色	炭化粒子少量、粘土ブロック・中粒円礫微量
6	暗	褐色	炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・細粒円礫微量	60	暗	褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物・細粒円礫微量
7	黒	褐色	焼土粒子・細粒円礫少量、ローム粒子・炭化粒子微量	61	黒	褐色	炭化粒子・細粒円礫少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
8	暗	褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・細粒円礫微量	62	暗	褐色	焼土粒子少量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9	暗	褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・細粒円礫微量	63	黒	褐色	中粒円礫少量、ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10	黒	褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子・細粒円礫微量	64	暗	褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・中粒円礫微量
11	暗	褐色	炭化粒子中量、細粒円礫少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	65	暗	褐色	焼土粒子少量、炭化物中量、凝灰質泥岩片少量、ローム粒子・細粒円礫微量
12	暗	褐色	焼土ブロック・炭化粒子・中粒円礫少量、ローム粒子微量	66	黒	褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・凝灰質泥岩片・細粒円礫微量
13	暗	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・中粒円礫微量	67	黒	褐色	焼土粒子・炭化粒子・凝灰質泥岩片・細粒円礫少量
14	暗	褐色	中粒円礫少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	68	暗	褐色	細粒円礫少量、炭化物・焼土粒子・凝灰質泥岩片微量
15	暗	褐色	小粒円礫少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	69	暗	褐色	粘土ブロック・炭化粒子微量
16	黒	褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・中粒円礫微量	70	暗	褐色	炭化粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量
17	黒	褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・細粒円礫微量	71	黒	褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
18	黒	褐色	粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子・細粒円礫微量	72	暗	褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量
19	黒	褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物・細粒円礫微量	73	暗	褐色	ロームブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
20	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・細粒円礫微量	74	明	黄褐色	ロームブロック多量
21	黒	褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・細粒円礫微量	75	暗	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
22	暗	褐色	炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・細粒円礫・凝灰質泥岩片微量	76	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・細粒円礫微量
23	暗	褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・凝灰質泥岩片微量	77	明	黄褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック微量
24	黒	褐色	焼土粒子少量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・細粒円礫微量	78	黒	褐色	炭化粒子少量、粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
25	暗	褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、粘土ブロック・ローム粒子・細粒円礫微量	79	黒	褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量
26	暗	褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、粘土ブロック・細粒円礫微量	80	暗	褐色	粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・ローム粒子・焼土粒子微量
27	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細粒円礫微量	81	にぶ・黄褐色		粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
28	黒	褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	82	にぶ・黄褐色		粘土ブロック多量、焼土粒子微量
29	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	83	黒	褐色	焼土粒子・細粒円礫少量、ローム粒子・炭化粒子微量
30	暗	褐色	ローム粒子多量、粘土ブロック・炭化粒子微量	84	黒	褐色	中粒円礫少量、ローム粒子・炭化粒子微量
31	暗	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・細粒円礫・瓦片微量	85	黒	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・中粒円礫微量
32	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子・細粒円礫微量	86	暗	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、粘土ブロック・ローム粒子・中粒円礫微量
33	にぶ・黄褐色		粘土ブロック・細粒円礫中量、炭化粒子微量	87	暗	褐色	ロームブロック・中粒円礫少量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
34	黒	褐色	炭化粒子中量、粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・細粒円礫微量	88	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子・細粒円礫少量、炭化粒子微量
35	暗	褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	89	暗	褐色	礫主体・細粒円礫中量、焼土粒子・炭化粒子微量
36	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	90	暗	褐色	中粒円礫多量、焼土粒子・炭化粒子微量
37	暗	褐色	ローム粒子多量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	91	暗	褐色	礫主体・中粒円礫多量、焼土粒子微量
38	暗	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	92	灰	黄褐色	礫主体・中粒円礫多量
39	暗	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	93	黒	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
40	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	94	暗	褐色	炭化粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量、細粒円礫微量
41	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	95	暗	褐色	粘土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量、細粒円礫微量
42	暗	褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	96	暗	褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック・凝灰質泥岩片・細粒円礫微量
43	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細粒円礫微量	97	暗	褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量、細粒円礫微量
44	黒	褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	98	暗	褐色	焼土粒子・細粒円礫少量、ロームブロック・炭化粒子微量
45	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	99	黒	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、炭化物・中粒円礫微量
46	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	100	暗	褐色	礫主体・細粒円礫多量、焼土粒子・炭化粒子微量
47	暗	褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	101	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細粒円礫微量
48	暗	褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	102	暗	褐色	中粒円礫少量、炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
49	暗	褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	103	暗	褐色	礫主体・細粒円礫多量、炭化粒子少量
50	暗	褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量	104	暗	褐色	礫主体・細粒円礫多量、炭化粒子少量
51	暗	褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量	105	暗	褐色	礫主体・細粒円礫中量、焼土粒子・炭化粒子微量
52	黒	褐色	粘土ブロック少量	106	暗	褐色	礫主体・中粒円礫多量
53	黒	褐色	粘土ブロック中量	107	暗	褐色	礫主体・中粒円礫多量、焼土粒子・炭化粒子微量
54	にぶ・黄褐色		粘土ブロック多量	108	黒	褐色	細粒円礫少量、ローム粒子・炭化粒子微量
				109	暗	褐色	細粒円礫少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
				110	黒	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・細粒円礫微量
				111	暗	褐色	礫主体・中粒円礫中量、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
				112	暗	褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量、細粒円礫微量
				113	黒	褐色	細粒円礫少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

(8) 土坑

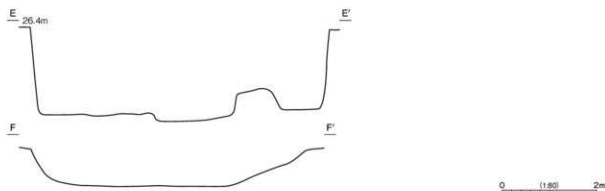
当時代以降の土坑を 83 基確認した。特徴的な 3 基以外の土坑については、付図及び一覧表にて記載する。

第 223 号土坑 (第 56・57・76～79・85・86・89 図 PL14・15・17～19・21・22)

位置 調査区南部の C 5 b2～C 5 d4 区、標高 26.2 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 56 図 第 223 号土坑実測図 (1)



第 57 図 第 223 号土坑実測図 (2)

重複関係 第 1 号近代建物跡、第 2 号整地跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 9.52 m、短軸 6.36 m の不定形で、長軸方向は N - 65° - W である。南東側はテラス状になっており、深さは 85cm で、壁は緩やかに立ち上がっている。北西側に向かって一段掘り下げられており、深さは 214cm で壁はほぼ直立している。底面はどちらも平坦である。

覆土 16 層に分層できる。ロームブロック、灰や山砂が含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 須恵器片 1 点 (円面硯)、土師質土器片 1 点 (小皿)、陶器片 15 点 (碗 1、皿 1、急須 1、土瓶蓋 6、土瓶 2、鉢子 1、ちろり₁、1、播鉢 1、甕 1)、磁器片 367 点 (筒型坏 1、長筒湯呑蓋 1、長筒湯呑 6、小坏 4、平碗 39、飯碗 8、丸碗 209、端反碗 29、小皿 28、深鉢 19、并鉢 21、罎子 2)、土製品 9 点 (煉瓦)、石器 1 点 (砥石)、金属製品 16 点 (釘 3、珙瑯鍋 1、珙瑯鏡 2、ベルト金具₁、1、缶詰 1、焼夷弾₁、7、不明棒状鉄製品 1)、ガラス製品 20 点 (食品瓶 6、ビール瓶 3、サイダー瓶 1、薬瓶 1、薬品瓶 4、軟膏瓶 2、インク瓶 3)、瓦片 13 点 (丸瓦 6、棧瓦 7) が、覆土中から出土している。5・6・9・15・16・20・32・34・40 は南東テラスの床面から、7・12・14・17・18・21・30・37 は北東側の覆土上層から出土している。瓦片は細片が多く、形状が判別できるもののみを取り上げた。細片の合計重量は 61.9kg である。全て埋め戻しに伴うものと考えられる。

所見 時期は出土土器と灰が多量に含まれていることから、埋め戻されたのは太平洋戦争後と考えられる。水戸大空襲を受けた際に、水戸刑務所で使用されていたとみられる日常雑器や、近隣で出た瓦片を多量に廃棄した火災処理土坑と考えられる。

第 224 号土坑 (第 58・89 図 PL21・22)

位置 調査区北部の B 5 丁目区、標高 262 m ほどの台地平坦部に位置している。

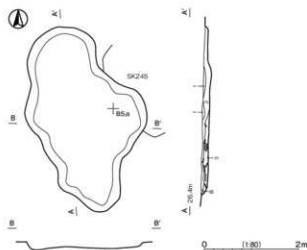
重複関係 第 245 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 4.02 m、短径 2.46 m の不定形で、長径方向は N - 17° - W である。深さは 14cm で、壁は外傾している。また、底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロック、灰や山砂が含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 磁器片 1 点 (長筒湯呑)、金属製品 1 点 (歯車)、瓦片 9 点 (平瓦 1、丸瓦 1、軒棧瓦 2、棧瓦 5)、自然遺物・人工遺物 5 点 (高瀬貝 2、貝ボタン 3) が、覆土中から出土している。瓦は細片が多かったため、形状がわかるものを取り上げた。細片の合計の重量は 147.2kg である。また、貝も破砕片が多かったため、原形をとどめているものを取り上げた。いずれも埋め戻しに伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器と灰が多量に含まれていることから、埋め戻されたのは太平洋戦争後と考えられる。水戸大空襲を受けた際に、水戸刑務所で製作されていた製品やその原料としての貝、近隣で出た瓦片を多量に廃棄した火災処理土坑と考えられる。



第58図 第224号土坑実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 貝殻砂片多量、炭化粒子・灰中量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 灰・瓦片多量、ローム粒子・炭化粒子中量

第306号土坑 (第59図 PL15・16)

位置 調査区中央部のB5j2区、標高262mほどの台地平坦部に位置している。

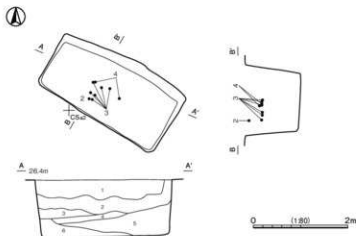
重複関係 第2号整地跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸290m、短軸150mの長方形で、長軸方向はN-59°-Wである。深さは114cmで、壁は直立し、壁面には底面から約60cmまで厚さ2~3cmの粘土が貼り付けられている。また、底面は平坦で、全体に粘土が広がっている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロック、粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片12点(皿1, 焙烙3, 火入1, 七厘4, 器種不明3), 瓦質土器片1点(火鉢), 陶器片9点(碗1, 皿1, 小皿1, 灯明皿1, 土瓶1, 壺1, 瓶類3), 磁器片10点(碗5, 皿2, 瓶類3), 瓦片3点(椀瓦2, 器種不明1)が覆土中から出土している。3・4は覆土中層から、2は覆土上層から出土している。いずれも埋め戻しに伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器と整地後に掘り込んでいることから19世紀後葉と考えられる。北西方向に第3号石組水路跡のL字状の折れ部を確認し、第292号土坑と複乱を挟んで本跡が存在している。他に粘土が貼り付けられている遺構は確認できていない。そのため、第3号石組水路を流れる水を溜める機能を有していた可能性がある。



土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・細礫少量
- 2 に近い黄褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量
- 3 に近い黄褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量
- 4 浅黄色 粘土ブロック多量、ロームブロック微量
- 5 に近い黄褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量

第59図 第306号土坑実測図

番号	位置	長径方向	平面形	規 格		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
268	C 5 g5	N-61°-E	楕円形	0.86×0.62	18	平坦	外傾	人為	磁器、土製品	
269	C 5 g5	N-61°-E	楕円形	0.60×0.92	19	起伏	ほぼ直立	人為	瓦	
270	C 5 g7	N-76°-W	楕円形	0.92×0.64	46	有段	ほぼ直立 外傾	人為	瓦質土器、土製品	瓦片 336g、煉瓦片 120g
271	C 5 g7	N-47°-W	楕円形	0.70×0.68	35	やや凹凸	直立	人為	土師質土器、陶器、磁器、瓦	
272	C 5 h7	N-20°-E	楕円形	0.65×0.57	58	凹状	ほぼ直立	人為	金属製品	
273	C 5 h8	N-34°-W	長方形	1.70×1.42	60	凹状	ほぼ直立 外傾	人為	土製品、瓦	瓦片 87.1kg、煉瓦片 3.8kg
274	B 4 b6	N-84°-W	楕円形	0.88×0.61	28	平坦	ほぼ直立 外傾	人為	金属製品、瓦	
275	B 4 b6	-	円形	0.40×0.40	22	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器、磁器、土製品、金属製品、瓦	
276	C 5 g8	N-62°-E	楕円形	0.71×0.64	53	平坦	ほぼ直立	人為	土製品、瓦	瓦片 21.26g
277	C 5 g9	N-29°-E	楕円形	0.78×0.60	48	凹状	直立 外傾	人為	陶器、磁器	
278	C 5 h9	N-58°-E	楕円形	0.77×0.63	14	平坦	直立	人為	-	
279	C 5 h9	N-40°-W	隅丸長方形	2.00×1.22	38	凹状	外傾	人為	土製品、瓦	瓦片 51.6g、煉瓦片 49.2g
280	C 5 g6	N-49°-E	楕円形	1.66×0.49	42	凹状	直立 ほぼ直立	人為	瓦質土器、陶器	
281	C 5 b6	N-24°-W	[楕円形]	0.85×0.40	9	凹状	外傾	人為	-	SK282→本跡→SK264
282	C 5 b6	N-45°-E	長方形	1.74×0.98	59	平坦	直立	人為	土師質土器、瓦質土器、陶器	本跡→SK264・281
284	B 4 b5	N-50°-E	楕円形	0.38×0.32	13	凹状	外傾	人為	-	
286	B 4 d	N-22°-E	楕円形	1.08×0.90	6	平坦	緩斜	人為	土師質土器、磁器、ガラス製品	
287	B 4 d	N-58°-W	不整形長方形	3.26×1.54	54	有段	外傾 緩斜	人為	土師質土器、土師質土器、瓦質土器、金属製品	
288	B 4 g6	N-47°-W	楕円形	0.42×0.37	63	平坦	直立	人為	土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器	
289	B 5 i	N-1°-E	楕円形	1.08×0.97	32	平坦	外傾	人為	-	
290	C 4 a0	N-44°-W	楕円形	1.70×1.30	42	平坦	直立	人為	土師器、瓦	本跡→第3号石組水路→第1号近代遺物跡
291	B 5 j	-	円形	0.27×0.27	18	凹状	ほぼ直立	人為	陶器	
292	B 5 j	N-4°-W	楕円形	1.10×1.04	24	平坦	外傾	人為	-	
293	B 5 i	N-39°-E	楕円形	0.36×0.28	34	凹状	直立	人為	-	
294	B 5 j	N-64°-E	楕円形	0.36×0.32	21	平坦	直立	人為	-	
295	B 4 d	N-32°-E	楕円形	0.44×0.28	36	凹状	ほぼ直立	人為	-	本跡→SK285・287
296	C 5 g9	N-20°-W	楕円形	1.01×0.78	25	平坦	外傾	人為	土師質土器、金属製品、瓦	瓦片 4.25g
297	C 5 g9	N-52°-W	楕円形	1.72×0.66	32	平坦	直立 外傾	人為	金属製品	
299	C 4 a8	N-59°-W	[楕円形]	0.50×0.40	60	平坦	ほぼ直立	人為	-	本跡→SK307
300	B 4 b6	N-15°-W	楕円形	0.60×0.40	60	凹状	ほぼ直立	人為	-	
301	B 4 b6	-	円形	0.36×0.30	48	平坦	直立 ほぼ直立	人為	-	
302	B 4 b6	-	円形	0.44×0.44	50	凹状	直立	人為	-	
303	B 4 b5	-	円形	0.32×0.30	10	平坦	緩斜	人為	須恵器	
304	B 4 b5	N-35°-E	楕円形	0.34×0.28	8	平坦	ほぼ直立	人為	-	
305	B 4 i	-	円形	0.40×0.30	64	平坦	直立	人為	-	
306	B 5 j2	N-59°-W	長方形	2.90×1.50	114	平坦	直立	人為	土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、瓦	
307	C 4 a8	N-21°-E	楕円形	0.88×0.78	74	平坦	直立	人為	-	SK299→本跡
418	C 4 a0	-	円形	0.60×0.60	30	平坦	ほぼ直立	人為		

(9) 柱穴列

第6号柱穴列 (第60図)

位置 調査区南東部のC 5 h9区～C 5 g0区、標高26.2mほどの台地平坦部に位置している。

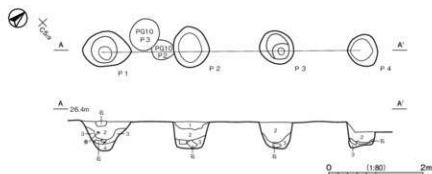
重複関係 第2号整地跡、第10号ピット群P2を掘り込んでいる。

規模と形状 南西から北東方向5.44mの間に配列された柱穴4か所を確認した。配列方向はN-42°-Eである。柱間寸法は1.68～1.92m(6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 4か所。平面形は楕円形で、長径68～124cm、短径62～74cmである。深さは30～68cmで掘方の壁は、P1は外傾しているが、それ以外はほぼ直立している。第1～4層は、柱材抜き取り後の覆土である。どの柱穴も覆土中に大礫を確認した。

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、陶器片2点(碗、皿)、自然遺物1点(馬骨)、瓦片1点(丸瓦)、が覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。いずれも埋め戻しに伴うものと考えられる。

所見 時期は出土遺物と整地後に掘り込んでいることから19世紀後葉と考えられる。大礫は全ての柱穴から確認されたため、遺構に伴うものと考えられるが、性格は不明である。



柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- 1 暗褐色 ローム粒子・細礫少量
- 2 にい漬褐色 中礫中量、ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量

第60図 第6号柱穴列実測図

第7号柱穴列 (第61・81図)

位置 調査区南東部のC5g7区～C5g8区、標高26.2mほどの台地平坦部に位置している。

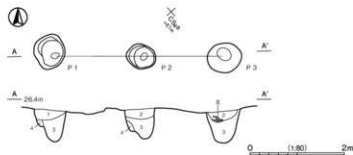
重複関係 第2号整地跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南西から北東方向3.56mの間に配列された柱穴3か所を確認した。配列方向はN-42°-Eである。柱間寸法は1.64～1.90m(5～6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 3か所。平面形は円形または楕円形で、長径72～76cm、短径50～74cmである。深さは52～68cmで掘方の壁は、ほぼ直立している。第1～4層は、柱材抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)、陶器片2点(皿、タイル)、磁器1点(碗)、金属製品1点(釘)が覆土中から出土している。1はP2の覆土中から出土している。瓦片はP1から0.2kg、P2・P3からそれぞれ0.4kgが細片で出土している。いずれも埋め戻しに伴うものと考えられる。

所見 時期は出土遺物と整地後に掘り込んでいることから19世紀後葉と考えられる。瓦片と凝灰質泥岩片が、全ての柱穴で確認できたため、柱を固定する用途で埋土として使われていた可能性がある。性格は不明である。



柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 瓦片多量、ローム粒子少量、中礫微量
- 2 暗褐色 瓦片多量、ロームブロック少量
- 3 褐色 凝灰質泥岩片多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第61図 第7号柱穴列実測図

第8号柱穴列 (第62図)

位置 調査区西部のB4g6区～B4f7区、標高26.4mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号石組水路跡、第2号整地跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南西から北東方向6.08mの間に配列された柱穴3か所を確認した。配列方向はN-43°-Eである。柱間寸法は3.00～3.10m(10尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

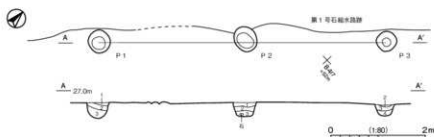
柱穴 3か所。平面形は円形または楕円形で、長径44～56cm、短径44～48cmである。深さは26～28cmで掘方の壁は、ほぼ直立している。第1～4層は、柱材抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 須恵器片1点(環)、土師質土器片1点(小皿)、瓦質土器片1点(焙烙⁹⁾)、陶器片3点(碗1、瓶類2)、磁器1点(小環)が覆土中から出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は出土遺物と整地後に掘り込んでいることから19世紀後葉と考えられる。第1号掘立柱建物、第1号石組水路が隣接しており、関連性が考えられるが詳しい性格は、不明である。

柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- 1 褐色 細礫・粗粒砂多量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 細礫少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 におい黄褐色 細礫多量、ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 細礫少量、ローム粒子微量



第62図 第8号柱穴列実測図

表17 近代柱穴列一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ(m)	柱間(m)	柱穴			主な出土遺物	備考		
					柱穴数	平面形	長径(cm)			短径(cm)	深さ(cm)
6	C5g0-C5g9	N-42°-E	5.44	1.68-1.92	4	楕円形	68-124	62-74	30-68	土師質土器、陶器、自然熟酒、瓦	第2号整地跡、PG10 P2→本跡
7	C5g7-C5g8	N-42°-E	3.56	1.64-1.90	3	円形・楕円形	72-76	50-74	52-68	土師質土器、陶器、磁器、金製品、瓦	第2号整地跡→本跡
8	B4g6-B4f7	N-43°-E	6.08	3.00-3.10	3	円形・楕円形	44-56	44-48	26-28	須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器	第1号石組水路跡、第2号整地跡→本跡

(00) ビット群 (第81図、付図)

当時代の性格が明確でないビット群を1か所確認した。全体の配置図は付図に、規模を計測表にて掲載する。

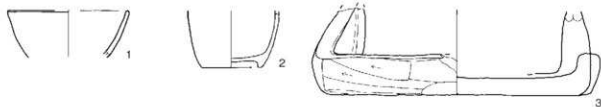
表18 第10号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	規模(cm)			ビット番号	位置	形状	規模(cm)			ビット番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C5h9	円形	38	38	19	6	C5g9	円形	39	36	15	11	C5g5	楕円形	56	48	20
2	C5h9	[円形]	44	(42)	40	7	C5g8	円形	65	62	13	12	C5h6	楕円形	57	44	23
3	C5h9	円形	70	61	41	8	C5g8	[楕円形]	45	(39)	27	13	C5g8	円形	61	58	48
4	C5h8	楕円形	55	42	10	9	C5g7	楕円形	64	54	19	14	C5h8	円形	65	64	42
5	C5g9	円形	49	41	4	10	C5h7	[楕円形]	47	(34)	17						

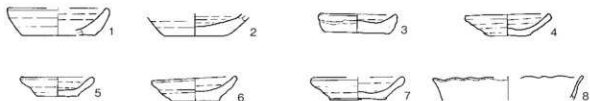
4 江戸時代・近代以降の遺物

当遺跡から出土した江戸時代と近代以降の遺物を実測図と観察表に記載する。

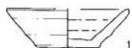
第1号掘立柱建物跡



第2号掘立柱建物跡



第3号掘立柱建物跡



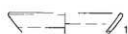
第6号掘立柱建物跡



第8号掘立柱建物跡



第12号掘立柱建物跡



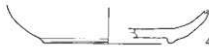
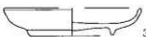
第1号石組水路跡



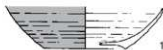
第13号掘立柱建物跡



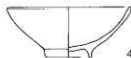
第2号石組水路跡



第3号石組水路跡



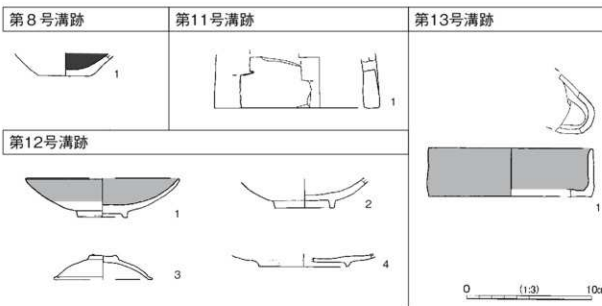
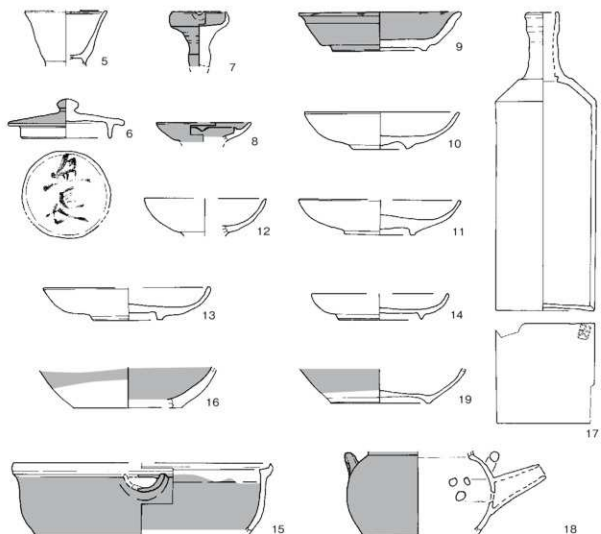
第4号石組水路跡(1)



0 (1:3) 10m

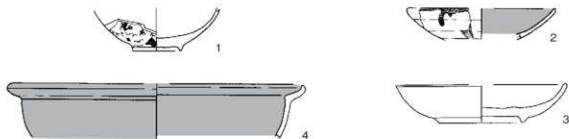
第63图 第1~3·6·8·12·13号掘立柱建物跡、第1~4(1)号石組水路跡出土遺物実測図

第4号石組水路跡(2)

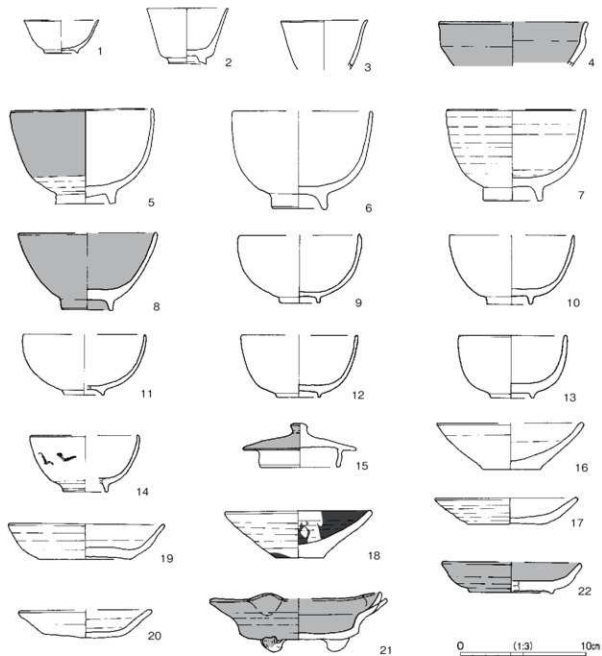


第64図 第4(2)号石組水路跡、第8・11～13号溝跡出土遺物実測図

第1号近代建物跡

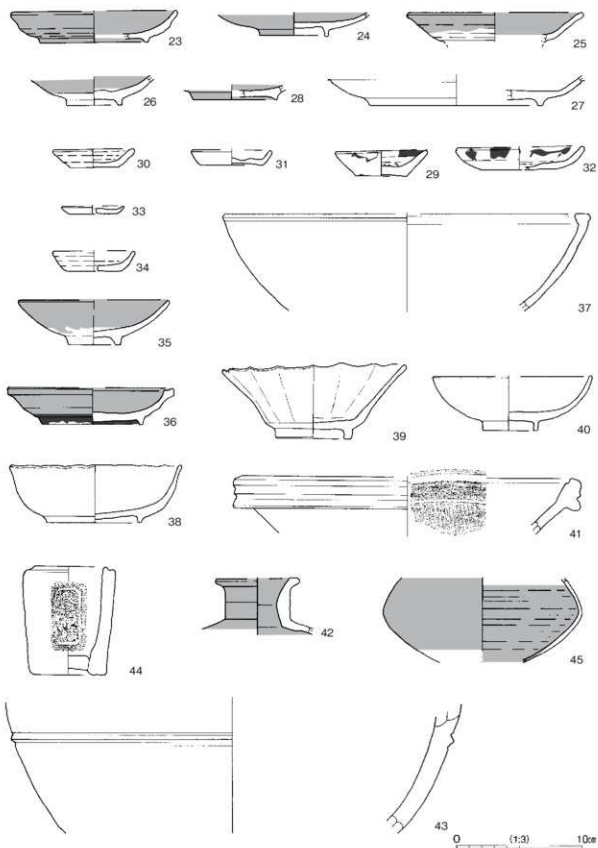


第2号整地跡(1)



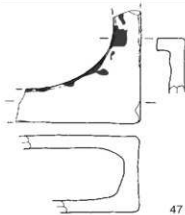
第65图 第1号近代建物跡, 第2号整地跡(1)出土遺物実測図

第2号整地跡(2)

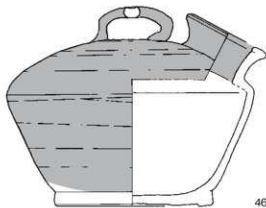
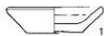


第66图 第2号整地跡(2)出土物实测图

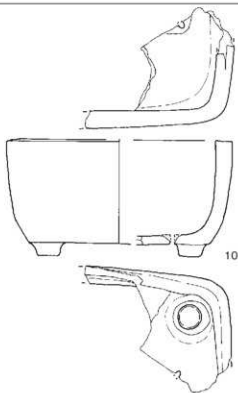
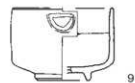
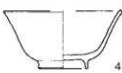
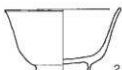
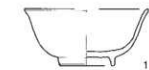
第2号整地跡(3)



第3号整地跡



第2次面 第285号土坑

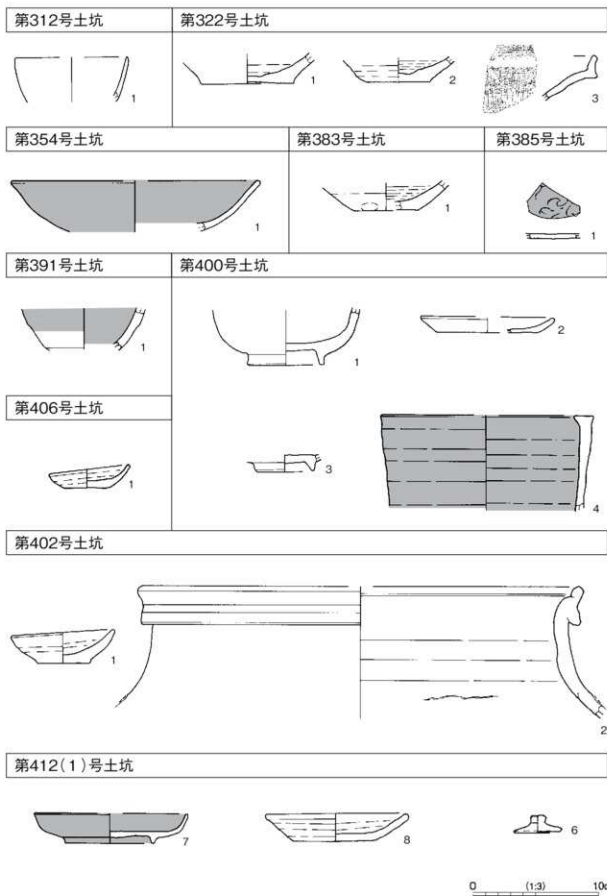


第329号土坑



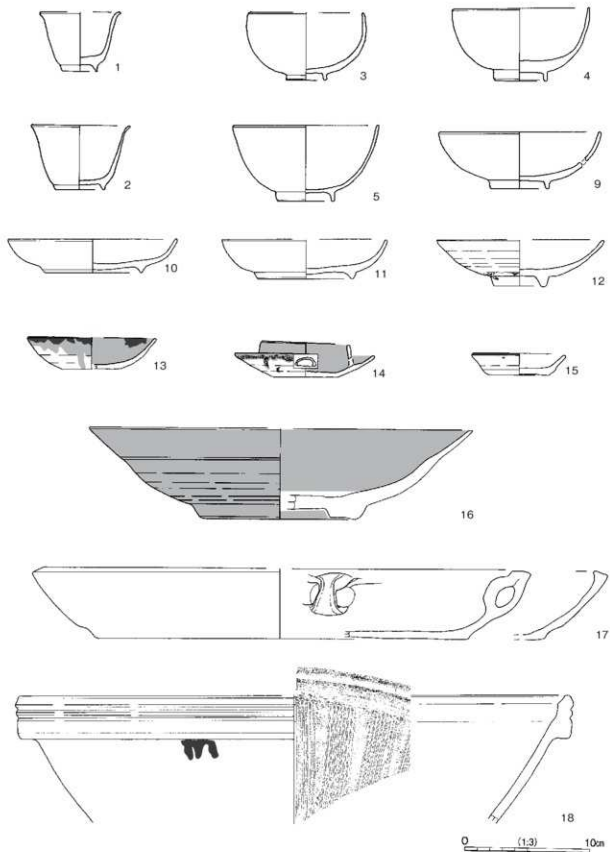
0 (1:3) 10cm

第67图 第2号整地跡(3), 第3号整地跡, 第285·329号土坑出土遺物实测图



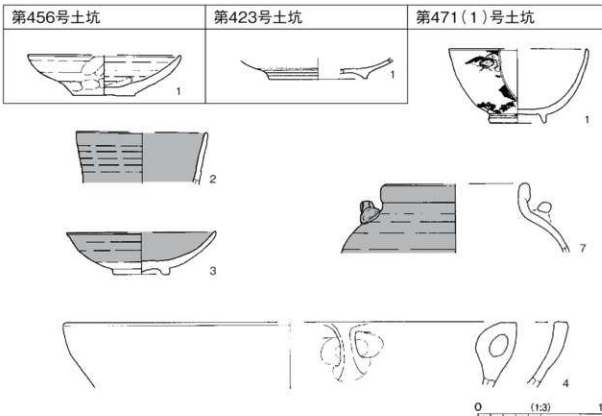
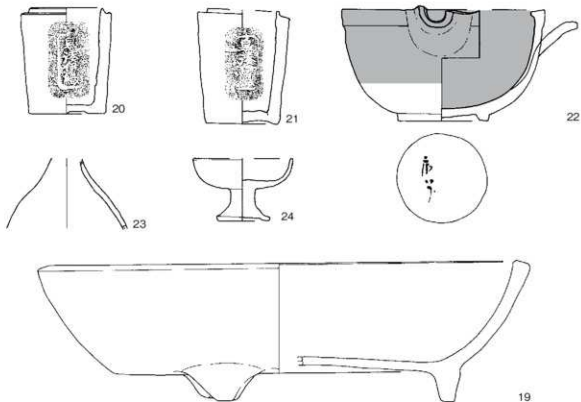
第 68 图 第 312·322·354·383·385·391·400·402·406·412(1) 号土坑出土遗物实测图

第412(2)号土坑



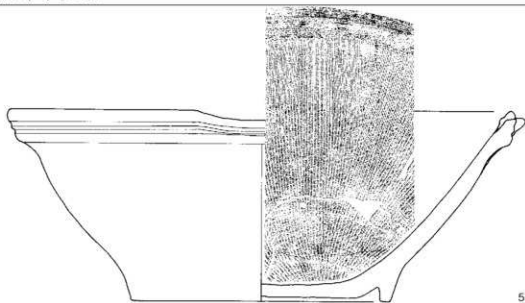
第69图 第412号(2)号土坑出土遗物实测图

第412(3)号土坑

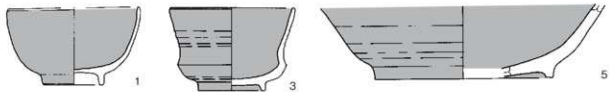


第70图 第412(3)·423·456·471(1)号土坑出土遗物实测图

第471(2)号土坑



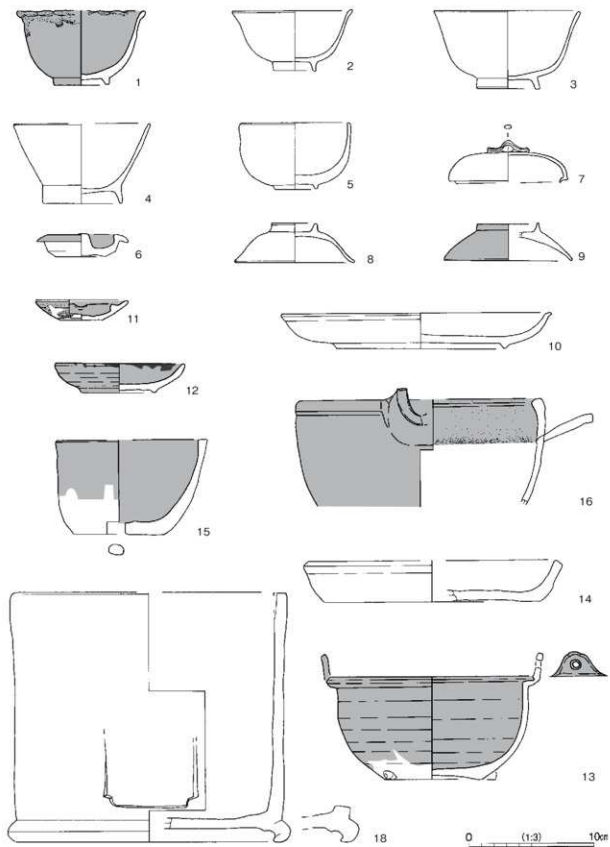
第472号土坑



0 (1:3) 10cm

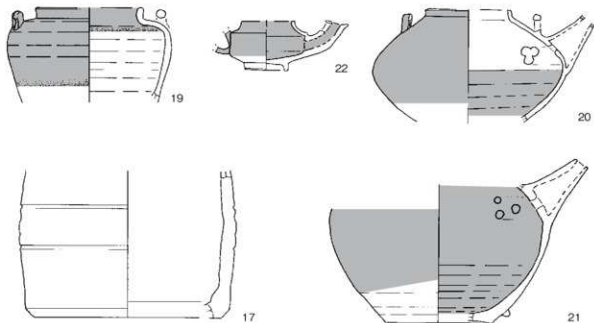
第71图 第471(2)·472号土坑出土遗物实测图

第515(1)号土坑

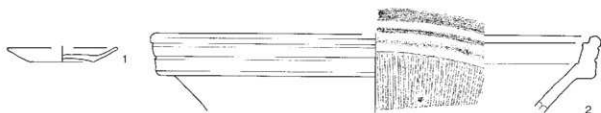


第72图 第515(1)号土坑出土遗物实测图

第515(2)号土坑



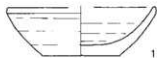
第517号土坑



第516号土坑



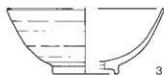
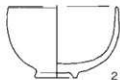
第518号土坑



第522号土坑



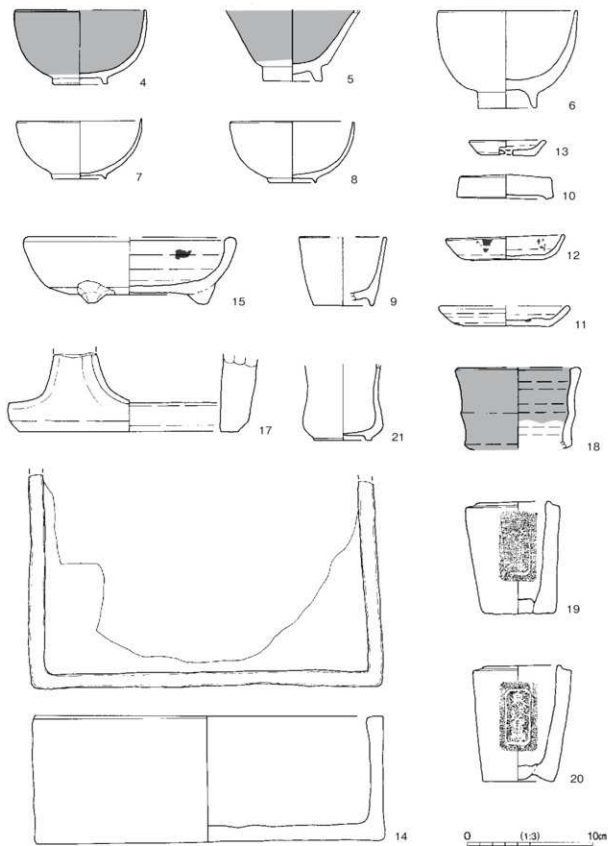
第528(1)号土坑



0 (1:3) 10cm

第73图 第515(2)·516~518·522·528(1)号土坑出土遗物实测图

第528(2)号土坑



第74图 第528(2)号土坑出土物实测图

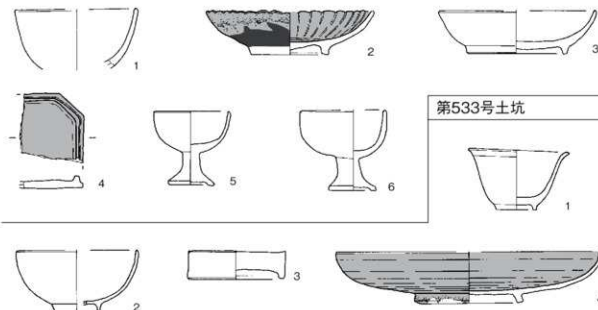
第528(3)号土坑



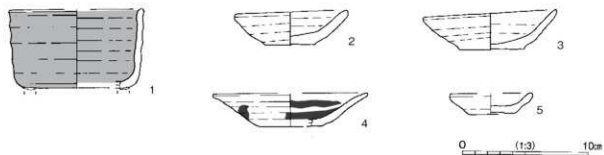
第531号土坑



第532号土坑

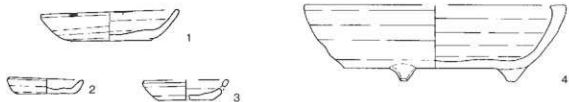


第535号土坑



第75图 第528(3)·531~533·535号土坑出土遺物実測図

第544号土坑



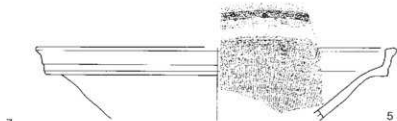
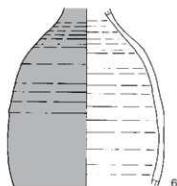
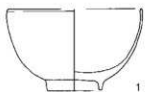
第592号土坑



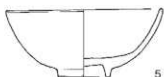
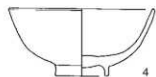
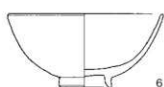
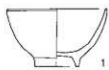
第594号土坑



第609号土坑



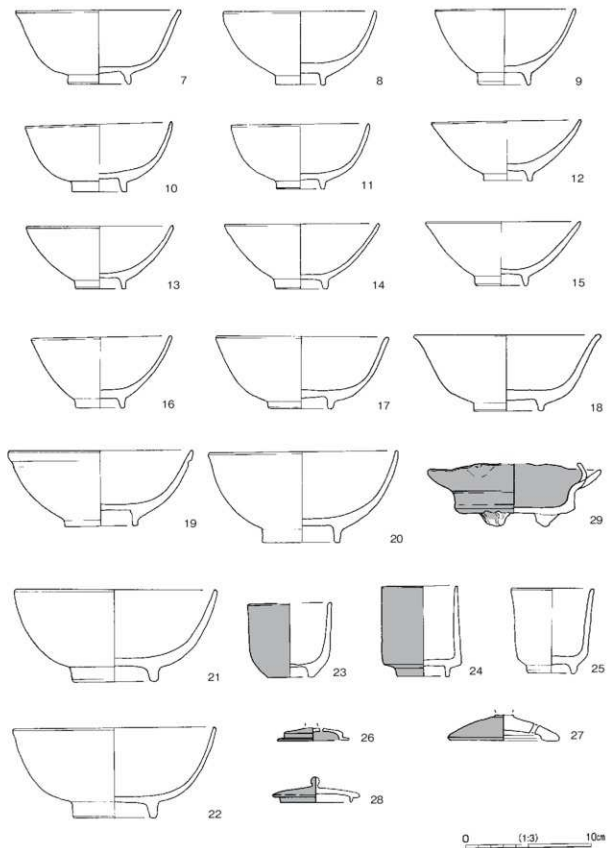
第1次面 第223(1)号土坑



0 (1:3) 10cm

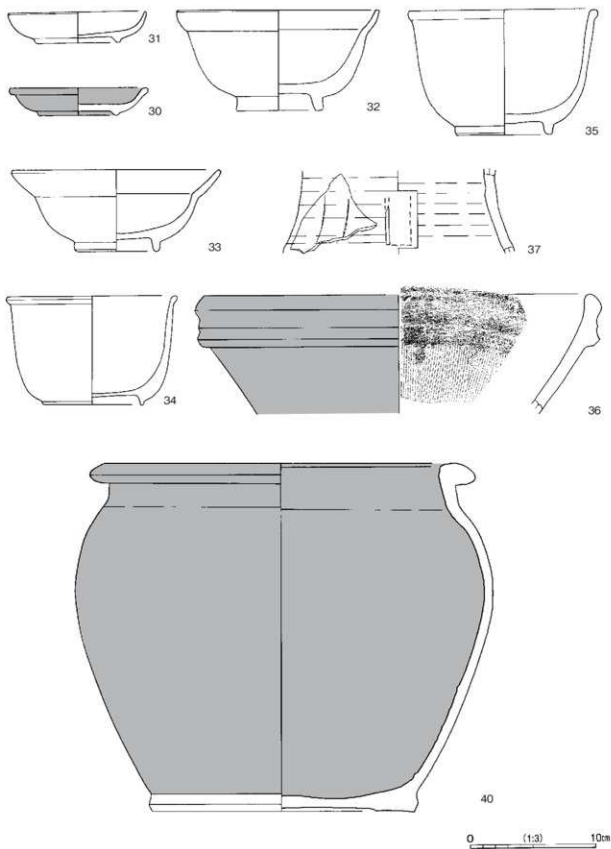
第76图 第223(1)·544·592·594·609号土坑出土遗物实测图

第223(2)号土坑

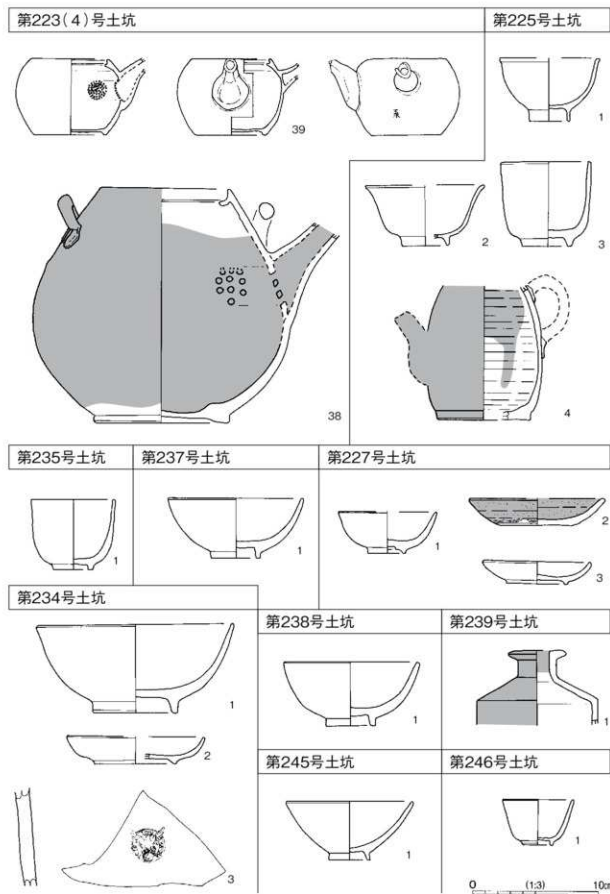


第77图 第223(2)号土坑出土遗物实测图

第223(3)号土坑

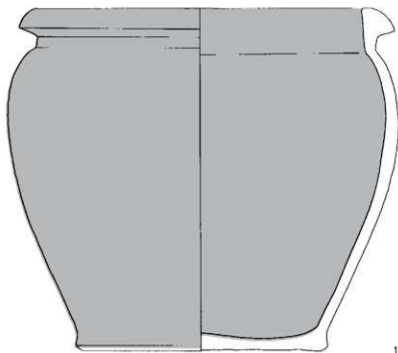


第78图 第223(3)号土坑出土物实测图

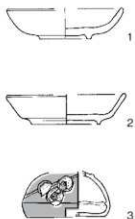


第79图 第223(4)·225·227·234·235·237~239·245·246号土坑出土遗物实测图

第243号土坑



第250号土坑

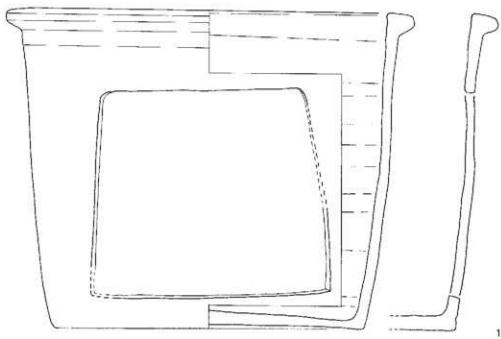


第252号土坑



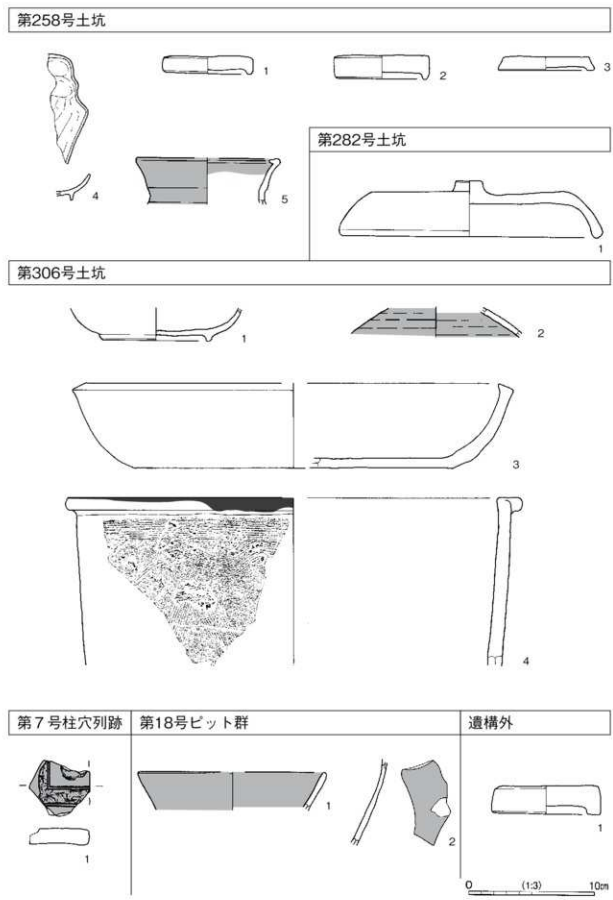
0 (1:3) 10cm

第236号土坑



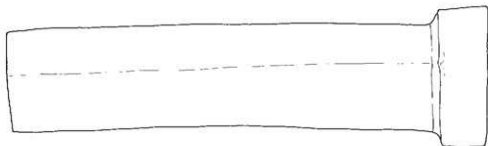
0 (1:4) 10cm

第80图 第236·243·250·252号土坑出土遗物实测图



第 81 図 第 258・282・306 号土坑、第 7 号柱穴列、第 18 号ピット群、遺構外出土遺物実測図

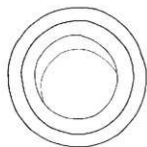
第2号水路状施設



第1号石組水路跡



DP1

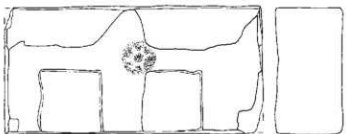


DP1

0 (1:4) 10cm

煉瓦 刻印拓影

第2号整地跡



DP1



第528号土坑



DP1

第515号土坑



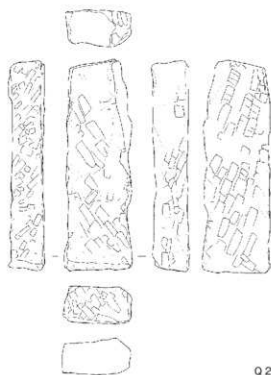
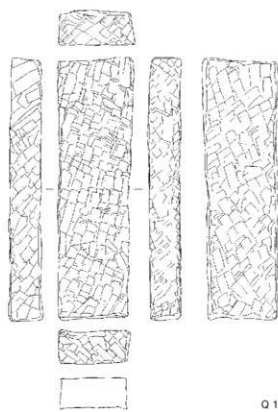
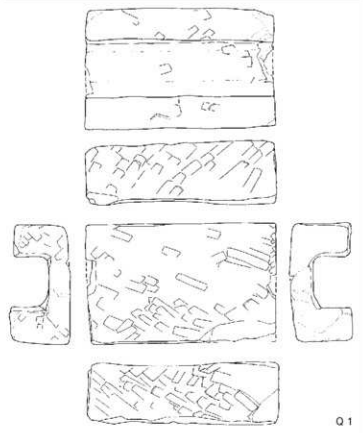
DP1

0 (1:3) 10cm

第82图 第1号石組水路跡, 第2号水路状施設, 第2号整地跡, 第515・528号土坑出土遺物実測図
煉瓦刻印拓影圖

第1号石組水路跡

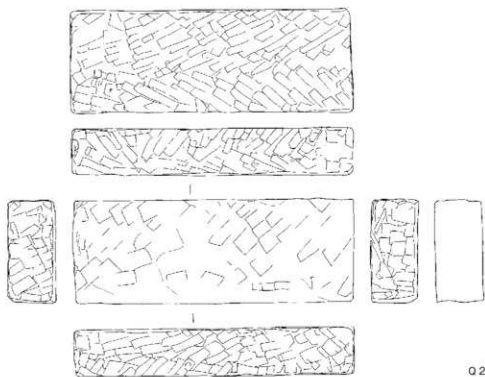
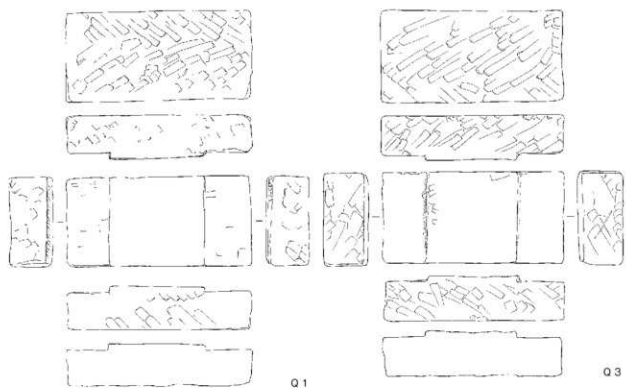
第3号石組水路跡



0 (1:12) 20m

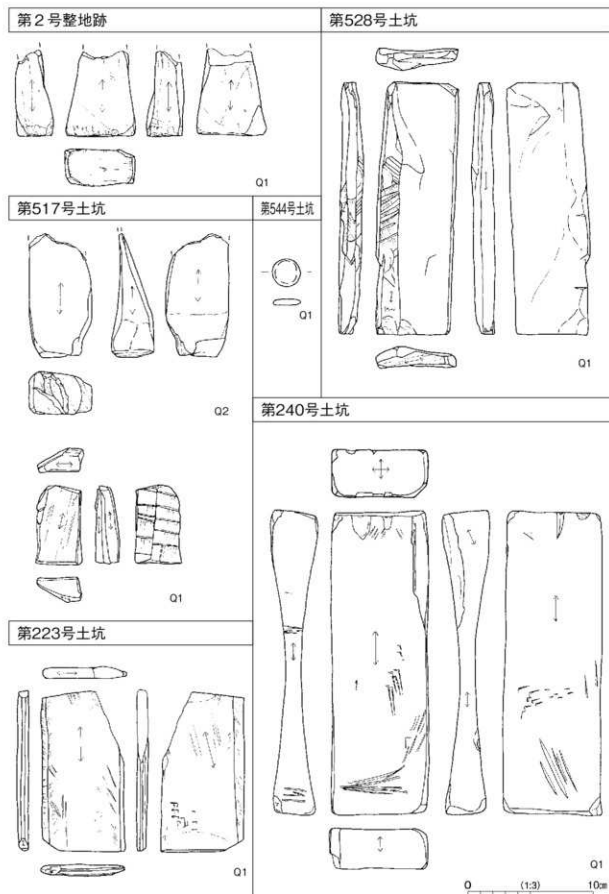
第83图 第1・3号石組水路跡出土遺物実測図

第4号石組水路跡

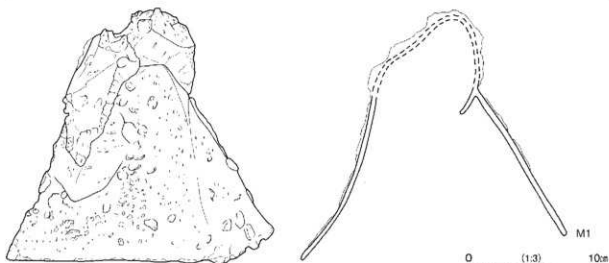
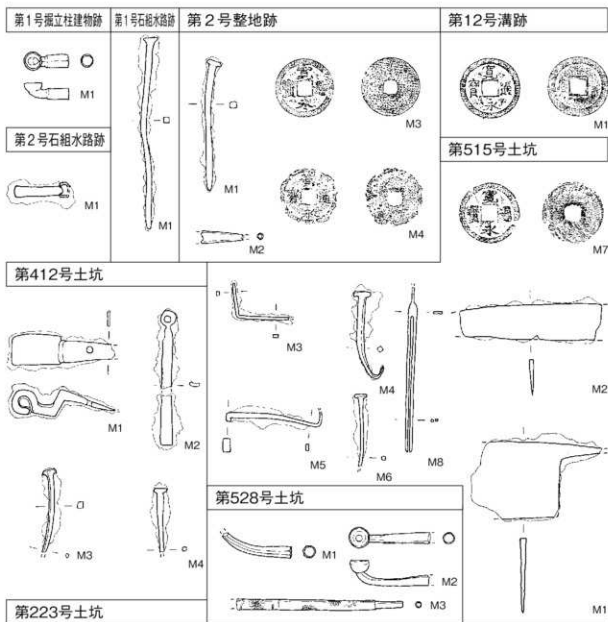


0 (1:12) 20m

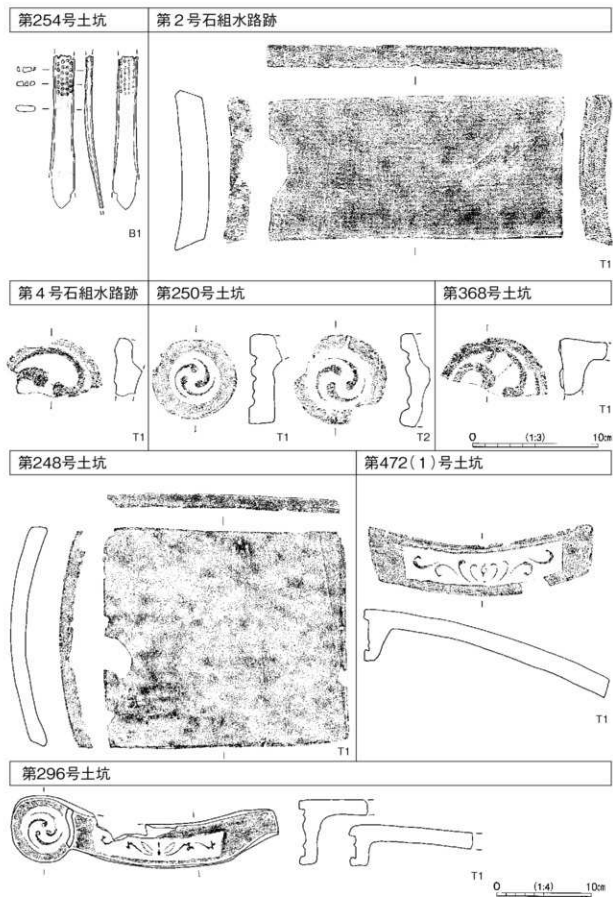
第84图 第4号石組水路跡出土遺物実測図



第85图 第2号整地跡, 第223·240·517·528·544号土坑出土遺物実測図

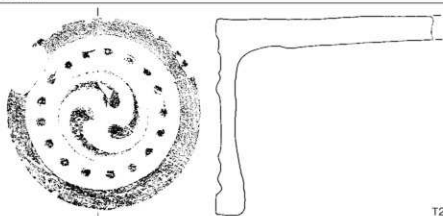


第86图 第1号掘立柱建物跡, 第1・2号石組水路跡, 第12号溝跡, 第2号整地跡, 第223・412・515・528号土坑出土遺物実測図

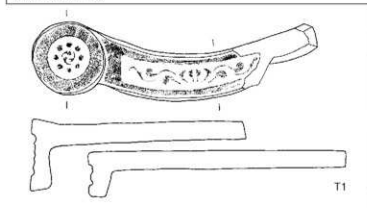


第 87 图 第 2・4号石組水路跡、第 248・250・254・296・368・472(1)号土坑出土遺物実測図

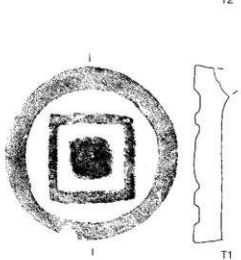
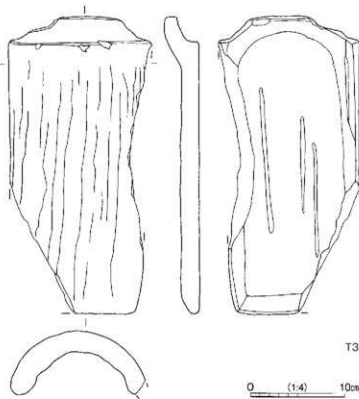
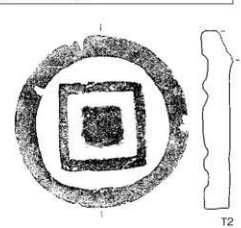
第472(2)号土坑



第273号土坑



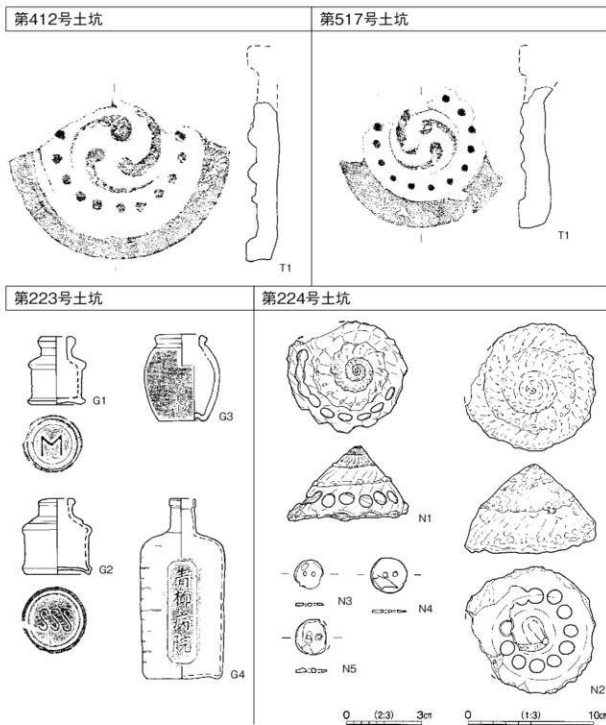
第515号土坑



0 (1:4) 10cm

0 (1:3) 10cm

第88图 第273·472(2)·515号土坑出土遗物实测图



第 89 図 第 223・224・412・517号土坑出土遺物実測図

土器・陶器・炆器・磁器類出土遺物観察表

第 1 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 63 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土器土器	瓶印	-	(6.7)	(21.5)	長石・赤色粘土	灰黄緑	普通	体部外面横位のヘラ振り 底部内面横位のヘラ コテ縁縁合部コテテ 底部外面ヘラコテテ	D 9 覆土中層	20% PL 6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考
1	磁器	中瓶	[96]	(3.4)	-	細密 灰白	ロクロ成形 袋付 杉形 口縁部内面二重 襷織文 胴部外面草花文	透明輪	瀬戸・美濃系	P 3 覆土中層	10%
2	磁器	小瓶	-	(4.5)	4.8	細密 灰白	ロクロ成形 袋付 鎌形 外底襷織文	透明輪	肥前系	P 9 覆土中層	20% PL 6

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	小瓶	[8.0]	2.2	[6.8]	長石・石英・ 雲母・針状物質	浅黄緑	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	P 11 覆土中	20%
2	土質土器	小瓶	-	(1.8)	4.9	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転へう切り後	P 11 覆土中	70%
3	土質土器	小瓶	6.0	1.5	5.2	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 見込周辺部ナデ 底部回転糸切り	P 9 覆土中層	100% PL 6
4	土質土器	小瓶	6.8	1.9	3.4	長石・石英・ 黒色粒子	明赤褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	P 9 覆土中	100% PL 6
5	土質土器	小瓶	5.5	1.6	3.3	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	P 2 底面	95% PL 6
6	土質土器	小瓶	6.5	2.0	3.8	長石・雲母・ 赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	P 9 底面	90% PL 6
7	土質土器	小瓶	[7.0]	1.8	[4.2]	長石・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	P 9 覆土中	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考
8	磁器	小鉢	[12.0]	(1.9)	-	細密 灰白	ロクロ成形 袋付 切子形 梅花 1 口縁 部外・内面襷織文 胴部外面牡丹・内面 花卉文	透明輪	肥前系	P 11 覆土中	5%

第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	皿	[9.7]	3.1	[5.0]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部外面回転糸切り後ナデ	P 10 覆土中層	50%

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	小瓶	-	(1.6)	4.2	長石・石英・ 雲母・細砂	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部右回転糸切り	体部内面油漉付着 P 8 覆土中	10%

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	小瓶	-	(0.8)	4.0	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	P 8 覆土中	30%

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	皿	[9.0]	(1.6)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ	P 11 覆土中	5%

第13号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	皿	-	(1.5)	[5.6]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	P 7 覆土中	5%

第1号石組水路跡出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考
1	磁器	皿	-	(2.9)	[6.6]	細密 灰白	ロクロ成形 袋付 輪花形 見込山水文	透明輪	肥前系	掘方埋土中層	10%
2	陶器	灯明瓦皿	[7.2]	(1.6)	-	細密 浅黄	ロクロ成形 滑漉半月状	灰輪	在産(七郎段)	掘方埋土中	30% PL 6
3	陶器	土瓶	-	(2.9)	-	細密 にぶい橙	ロクロ成形 注口貼付	海鼠輪	在産(佐賀段)	掘方埋土中層	5%
4	陶器	大皿	-	(3.3)	[9.1]	細密 灰黄褐	ロクロ成形 刷り高台 胴部内面波状刷毛 目文 見込砂目織 高台無輪	真白正 透明輪	肥前系	掘方埋土中層	10%

第2号石組水路跡出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考	
1	陶器	小瓶	[10.6]	2.3	[5.8]	細密 黄灰	ロクロ成形 見込目織	丸形 刷り高台 高台無輪	灰輪	瀬戸・美濃系	覆土下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪楽	産地	出土位置	備考
2	磁器	小皿	[100]	1.8	[5.5]	靑密 灰白	ロクロ成形 型押 割り高台 見込寿字文	透明釉	瀬戸・美濃系	覆土中	30% PL.6
3	磁器	小皿	[109]	2.2	6.6	靑密 灰白	ロクロ成形 染付 丸形 口縁部外・内面 帯彫文 胴部外面草文・内面内帯彫文 腰部 二重帯彫文 見込草花文 高台内縁二重角 に彫文 高台文	透明釉	瀬戸・美濃系	床面直上	60% PL.6
4	磁器	五寸皿	-	(28)	[10.4]	靑密 灰白	ロクロ成形 染付 割り高台 胴部内面 花文 見込五葉花文に紅の目線周縁	透明釉	肥前系	覆土中	23% PL.6

第3号石組水路跡出土遺物観察表(第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪楽	産地	出土位置	備考
1	陶器	飯椀	-	(3.3)	(6.6)	靑密 灰白	ロクロ成形 クリ底 内面無輪 底部彫文	灰釉	瀬戸・美濃系	東方土下層	10% 遺書「中」

第4号石組水路跡出土遺物観察表(第63・64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪楽	産地	出土位置	備考
1	陶器	小杯	6.2	4.0	3.0	靑密 灰白	ロクロ成形 丸形 割り高台 高台無輪	灰釉	尾島(七飯地)	掘方埋土中	70% PL.7
2	磁器	小杯	6.6	3.2	2.6	靑密 灰白	ロクロ成形 丸形 高台部無輪文 見込上 縁・底・内縁二重角 高台内縁彫文	透明釉	瀬戸・美濃系	掘方埋土中	80% PL.6
3	磁器	小碗	[90]	4.5	[2.5]	靑密 灰白	ロクロ成形 染付 丸形 割り高台 胴部 外面松文に菊唐草文	透明釉	瀬戸・美濃系	掘方埋土中層	20%
4	磁器	中碗	9.8	4.0	3.6	靑密 灰白	ロクロ成形 染付 平形 割り高台 染付 胴部帯彫文 胴部外面模山山水文 高台唐草文 高台内縁彫文・文字「甲」	透明釉	瀬戸・美濃系	掘方埋土中	80% PL.7
5	磁器	落口	[6.5]	(4.4)	-	靑密 灰白	ロクロ成形 染付 碗反形 割り高台 口 縁部外・内面二重帯彫文 胴部外面山水文 高台唐草文 高台内縁彫文・文字「甲」	透明釉	瀬戸・美濃系	掘方埋土中	40% PL.6
6	陶器	土飯蓋	7.0	3.1	-	靑密 灰白	ロクロ成形 山笠 鍋み胎付 鉄絡銅絡 流し 上面目銀土 下面無輪 見込上葉書	透明釉	益子	掘方埋土中	90% PL.7 遺書「最長」
7	陶器	灯明文皿	4.4	(4.4)	-	靑密 灰白	ロクロ成形	鉄釉	瀬戸・美濃系	掘方埋土中	50%
8	陶器	灯明文皿	[7.6]	(1.6)	-	靑密 浅黄	ロクロ成形 油溝半月状	鉄釉	尾島(七飯地)	掘方埋土中	10%
9	陶器	灯明皿	13.0	3.2	7.6	靑密 灰白	ロクロ成形 割り高台 見込目銀土 底部 目銀土 口縁部・内縁部有蓋	灰釉	瀬戸・美濃系	掘方埋土中層	100% PL.7
10	磁器	小皿	12.3	3.0	4.4	靑密 灰白	ロクロ成形 染付 丸形 割り高台 口縁 部内面無輪文 胴部内面無輪文 見込無輪 文に花若文 見込帯彫文 高台飾目	透明釉	肥前系	掘方埋土中	80% PL.7 初期伊万里
11	磁器	小皿	[130]	2.8	5.6	靑密 灰白	ロクロ成形 染付 丸形 割り高台 見込 目銀土 見込無輪文に草花唐文 高台飾目	透明釉	肥前系	掘方埋土中	70% PL.7 初期伊万里
12	磁器	小皿	[98]	(3.0)	-	靑密 灰白	ロクロ成形 染付 丸形 割り高台 見込 一重帯彫文に草文	透明釉	肥前系	掘方埋土中	10% PL.7 初期伊万里
13	磁器	小皿	[134]	2.8	[5.6]	靑密 灰白	ロクロ成形 染付 丸形 割り高台 見込 無輪文に草花唐文 高台飾目	透明釉	肥前系	掘方埋土中	40% PL.7 初期伊万里
14	磁器	小皿	[108]	2.1	[6.6]	靑密 灰白	ロクロ成形 染付 丸形 割り高台 口縁 部外・内面帯彫文 胴部外面草文・下部二 重帯彫文・内面無輪文 見込草花文に唐歌 鳥類 高台内縁二重角に彫文・無輪文	透明釉	瀬戸・美濃系	掘方埋土中	50%
15	陶器	行平	[20.4]	(5.7)	-	靑密 明黄釉	ロクロ成形 丸形 染付有 注口陥付 胴部 外面無輪凸筋	鉄釉	瀬戸・美濃系	掘方埋土中	10% PL.7
16	陶器	行平	-	(3.2)	[8.6]	靑密 灰白	ロクロ成形 丸形	鉄釉	瀬戸・美濃系	掘方埋土中	10%
17	磁器	飯椀	2.5	23.7	7.9	靑密 濁灰	ベテ底 底部刷印「大」	-	備前系	掘方埋土中	40% PL.17
18	陶器	土瓶	-	(6.2)	-	靑密 黄緑	ロクロ成形 丸形 耳・注口陥付 胴部外 面山水文 注口孔口	白泥 透明釉	益子	掘方埋土中	20% PL.7
19	陶器	土瓶	-	(28)	7.8	靑密 灰白 浅黄	ロクロ成形 腰部以下無輪	白泥 透明釉	尾島(七飯地)	掘方埋土中	25%

第8号溝跡出土遺物観察表(第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土製土器	小皿	-	(1.8)	4.2	長石・石英・ 長石	靑	普通	体部外・内面ロクナデ 底部回転車切り痕ナデ	掘方下層	20%

第11号溝跡出土遺物観察表(第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土製土器	瓦片傘	[130]	(4.3)	-	長石・石英・ 磁障	靑	普通	ロクロ成形 縦透孔2	覆土中	5%

第12号溝跡出土遺物観察表(第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪楽	産地	出土位置	備考
1	陶器	小皿	[122]	3.1	4.0	靑密 灰白	ロクロ成形 割り高台 見込紅の目線周縁 高台無輪	銅緑釉	肥前系	覆土中	40% PL.7
2	陶器	皿	-	(2.4)	[4.8]	靑密 浅黄	ロクロ成形 染付 割り高台 見込模山山水文 高台無輪 高台内内縁に文字不明刷印	透明釉	肥前系	覆土中	20% PL.7 肥前京楽風
3	磁器	蓋物差	[7.8]	2.0	-	靑密 灰白	ロクロ成形 口縁無 丸平柄六 胴部外面 無輪彫文文に無輪文 飾目有蓋	透明釉	瀬戸・美濃系	覆土中	50% PL.7 柄六目2.5%
4	磁器	皿	-	(1.1)	[7.0]	靑密 灰白	ロクロ成形 割り高台 胴部外面無輪文 高台一重帯彫文	透明釉	肥前系	覆土中	10%

第13号溝跡出土遺物観察表 (第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	蟹足入	[130]	3.8	[130]	細密 灰白	複作り・長楕円形 胴部外面草文。	鉄軸 筋紋	瀬戸・美濃系	甕土中	30% PL. 7

第1号近代遺跡跡出土遺物観察表 (第65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	碗	-	(3.6)	4.0	細密 灰白	ロクロ成形 染付 簡り高台 胴部外面 草文	透明軸	瀬戸・美濃系	甕土中	30%
2	陶器	小皿	[118]	(2.5)	-	細密 灰白 灰オリーブ	ロクロ成形 丸形	緑軸 透明軸	肥前系	甕土中	5%
3	磁器	五寸皿	[136]	3.0	[134]	細密 灰白	ロクロ成形 染付 簡り高台 胴部外面 上・唐草文に二重唐草文 見込コシニヤク印 押による五弁花文に紅の目輪調子	透明軸	肥前系	甕土中	30% PL. 8
4	陶器	土鍋	[240]	(4.4)	-	細密 灰黄緑	ロクロ成形 内面輪軸	鉄軸	色黒(七前製)	甕土中	10%

第2号整地跡出土遺物観察表 (第65～67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
16	土質土器	皿	[116]	3.8	4.6	長石・石英・ 赤色粒子	普通	体部外・内面ロクロナデ	底部左回転糸切り後	甕土中	40%
17	土質土器	皿	11.4	2.1	6.6	長石・石英	普通	体部外・内面ロクロナデ	底部右回転糸切り	甕土下層	100% PL. 8
18	土質土器	皿	11.4	3.8	3.8	長石・石英	普通	体部外・内面ロクロナデ	底部左回転糸切り後	甕土下層	100% PL. 8
19	土質土器	皿	12.2	2.9	7.3	長石・石英	にぶい・普通	体部外・内面ロクロナデ	底部右回転糸切り	甕土下層	80% PL. 9
20	土質土器	皿	[106]	2.1	6.6	長石・石英	普通	体部外・内面ロクロナデ	底部左回転糸切り	甕土中	50%
29	土質土器	小皿	7.3	2.1	4.0	長石・石英・ 赤母	普通	体部外・内面ロクロナデ	底部回転糸切り後ナデ	甕土中	100% PL. 9
30	土質土器	小皿	6.6	1.6	4.0	長石・石英・ 赤色粒子	浅黄緑	体部外・内面ロクロナデ	底部右回転糸切り	甕土中	100% PL. 9
31	土質土器	小皿	[6.2]	1.2	4.9	長石・赤色粒子	にぶい・普通	体部外・内面ロクロナデ	底部左回転糸切り後 ナデ 見込周部強いなデ	甕土中	70%
32	土質土器	灯明皿	[9.8]	1.9	[6.1]	長石・赤色粒子	にぶい・普通	体部外・内面ロクロナデ	底部右回転糸切り後 ナデ	甕土中	60%
33	土質土器	燗台	[5.8]	0.6	3.9	長石	浅黄緑	体部外・内面ロクロナデ	底部回転糸切り後ナデ	甕土中	60%
34	土質土器	燗台	[6.2]	1.6	[4.2]	長石・石英・ 赤色粒子	普通	体部外・内面ロクロナデ	底部回転糸切り後ナデ	甕土中	40%
37	土質土器	始佛	[280]	(7.7)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい・普通	普通	ロクロ成形 底深形	甕土中	5%
43	瓦質土器	火鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい・普通	普通	ロクロ成形 胴丸形 胴部隆起部連続瓦文	甕土中	5%
44	土質土器	燗徳盛	5.5	8.6	5.6	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい・普通	複作り 深輪軸 窓窓小 内面布目 底載め込 み 胴部筋・葉物写(泉通平織)	甕土中	95% PL. 9	
47	土質土器	七厘風口	-	6.1	-	長石・石英・ 赤母	にぶい・普通	複作り 胎合中 筋写 丸丹部・体部外面ナデ 内面輪軸・葉付着	甕土中	30%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	小碗	[5.9]	2.7	2.6	細密 灰白	ロクロ成形 上総付 羅反形 簡り高台 見込片文	透明軸	瀬戸・美濃系	甕土中	100% PL. 8
2	磁器	小碗	6.4	4.4	2.9	細密 明緑灰	ロクロ成形 染付 羅反形 口縁部外面 二重唐草文 胴部外面人物文に詩歌文 高台 筋写	透明軸	瀬戸・美濃系	甕土中	90% PL. 8
3	磁器	小碗	6.8	(3.9)	-	細密 灰白	ロクロ成形 染付 羅反形 口縁部外面 草文 胴部外面草文	透明軸	瀬戸・美濃系	甕土中	80%
4	陶器	中碗	[11.6]	(3.6)	-	細密 にぶい・普通	ロクロ成形 天目形	鉄軸	瀬戸・美濃系	甕土中	10%
5	陶器	中碗	11.6	7.6	5.0	細密 灰オリーブ 浅黄	ロクロ成形 丸形 付高台 腰部以下無軸	灰軸	瀬戸・美濃系	甕土下層	80% PL. 8
6	陶器	中碗	[10.9]	7.8	4.3	細密 浅黄	ロクロ成形 胴形 簡り高台 全面輪軸 高台片目	透明軸	肥前系	甕土中	40%
7	陶器	中碗	[11.6]	7.3	4.5	細密 浅黄	ロクロ成形 胴形 簡り高台 全面輪軸 高台片目	透明軸	肥前系	甕土下層	60% PL. 8
8	陶器	中碗	[10.9]	6.1	4.0	細密 灰白	ロクロ成形 丸形 簡り高台 全面輪軸 胴部外・内面筋写片目	白濁軸	肥前系	甕土下層	70% PL. 8
9	陶器	中碗	[9.6]	5.4	3.2	細密 浅黄緑	ロクロ成形 染付 上総付 半球形 簡り 高台 胴部外面草文 高台無軸	透明軸	京・信楽系	甕土中	40% PL. 8
10	磁器	中碗	[9.8]	5.5	3.5	細密 灰白	ロクロ成形 染付 丸形 胴部外面草文 高台二重唐草文 底部筋「大明年載」に唐 草文	透明軸	肥前系	甕土下層	70% PL. 8
11	磁器	中碗	[9.8]	4.8	[3.2]	細密 灰白	ロクロ成形 染付 浅半球形 簡り高台 胴部外・内面水梨地に菊文散らし	透明軸	肥前系	甕土下層	40% PL. 8
12	磁器	中碗	[9.2]	5.0	3.5	細密 灰白	ロクロ成形 染付 浅半球形 簡り高台 胴部外・内面水梨地に菊文散らし	透明軸	肥前系	甕土下層	40%
13	磁器	小碗	8.5	5.0	3.4	細密 灰白	ロクロ成形 染付 浅半球形 簡り高台 口縁部内面二重唐草文 胴部外面矢倉根文 唐草高脚文 (見込唐草文に身字文 高台筋 写文に身目)	透明軸	肥前系	甕土中	95% PL. 8
14	磁器	小碗	[8.6]	4.5	[3.4]	細密 灰白	ロクロ成形 染付 簡り高台 丸形胴部外 面筋写 口縁部筋写 高台二重唐草文	透明軸	肥前系	甕土下層	20%
15	陶器	土飯蓋	6.2	3.5	-	細密 にぶい・普通	ロクロ成形 胎押 山盛 丸平鍋小 口交 有 胎入筋写	鉄軸	色黒(七前製)	甕土下層	95% PL. 8 筋写片目 30%
21	陶器	小皿	[130 - 138]	4.2 - 4.7	[9.6]	細密 灰オリーブ	ロクロ成形 型押 筋紋 口縁目筋写 20% 筋写し 見込片文と目筋し	銅輪軸 筋写	瀬戸・美濃系	甕土下層	30% PL. 9 筋部の付

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪楽	産地	出土位置	備考
22	陶器	小皿	[110]	25	[66]	緋密 黄灰	ロクロ成形 隅り高台 丸形	鉄輪 長石軸	瀬戸・美濃系	盛土中	29% 松岡野里
23	陶器	小皿	[130]	25	[81]	緋密 灰白	ロクロ成形 隅り高台 丸形 見込目縁1	鉄輪	瀬戸・美濃系	盛土中	29% 志野里
24	陶器	皿	-	[19]	55	緋密 オリーブ灰	ロクロ成形 隅り高台 雲付無軸	無軸輪	志摩(土師見)	盛土中	60% PL 8
25	陶器	五寸皿	[138]	23	-	緋密 灰白 浅黄體	ロクロ成形 行高台 端反形 胴部下部無軸	灰輪	志摩(土師見)	盛土下層	10%
26	陶器	小皿	-	[23]	44	新密 オリーブ灰	ロクロ成形 隅り高台 見込縁の目縁付高台 高台無軸	陶輪 透明輪	肥前系	盛土中	30%
27	磁器	皿	-	[24]	[130]	緋密 灰白	ロクロ成形 絵巻 隅り高台 見込二重線 縁文に山水牡丹雲文 移り高台	透明輪	肥前系	盛土中	10% 初期伊万里
28	陶器	皿	-	[11]	[62]	緋密 灰白	ロクロ成形 隅り高台 見込二重線縁文に 紅雲文 ハマ付巻 高台内目縁2	長石軸	瀬戸・美濃系	盛土中	10% PL 8 松岡野里
35	陶器	小皿	[120]	35	41	緋密 におい黄粉	ロクロ成形 隅り高台 丸形 見込縁の目 縁付巻	陶輪	肥前系	盛土中	40% PL 9
36	陶器	小皿	[130]	29	80	新密 オリーブ灰	ロクロ成形 隅り高台 椀形 底部に高 付軸	長石軸	瀬戸・美濃系	盛土中	40% PL 9 徳島県産変色
38	磁器	小皿	134	46	74	緋密 灰白	ロクロ成形 惣押 染付 端反形 輪花6 部り高台 胴部外面彫文内面彫に山水文 雲部二重線縁文 見込目弁巻 高台二重線 高台内路「大明年製」に陶縁文	透明輪	肥前系	盛土下層	80% PL 9
39	磁器	小鉢	146	5.8	5.8	新密 灰白	ロクロ成形 染付 菊十形 勢勝路 輪花 11 胴部外面山水文 雲部陶縁文 見込椀 脚山水文 高台二重線縁文	透明輪	瀬戸・美濃系	盛土下層	90% PL 9
40	陶器	小皿	[124]	4.2	4.4	緋密 浅黄	ロクロ成形 染付 浅丸形 隅り高台 見 込椀脚山水文 高台無軸 高台内「目縁」 縁付	透明輪	肥前系	盛土下層	40% PL 9 徳島京焼風
41	磁器	圓鉢	[27.6]	(4.6)	-	緋密 灰赤	ロクロ成形 外帯押庄 口縁外帯三段 脚 目1単位11本	-	明石・堺系	盛土中	5%
42	陶器	飯碗	[6.6]	(4.5)	-	緋密 オリーブ灰	ロクロ成形 奇徳丸形。	鉄輪	瀬戸・美濃系	盛土中	10%
45	陶器	土瓶	-	(6.7)	-	緋密 灰白	ロクロ成形 算盤型 胴部下部無軸	灰輪	志摩(土師見)	盛土下層	40%
46	陶器	浅瓶	5.1	15.8	12.3	長石 灰白 オリーブ灰	ロクロ成形 腰張形 上部縁手貼付 隅り 高台 底部無軸	灰輪	瀬戸・美濃系	盛土下層	95% PL17

第3号整地跡出土遺物観察表(第67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	土師土器	小皿	74	2.1	4.5	長石・石英・ 赤色砂子	橙	普通 体部外・内面ロクロナデ	底部右回転糸切り後	盛土中	60% PL 9

第285号土坑出土遺物観察表(第67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
5	瓦葺土器	大酒盞蓋	-	(19)	-	長石・石英	靑	普通 ロクロ成形 九平積み 輪み貼付	見込し羅付巻	覆土中	40% 揃み径31cm
7	土師土器	小皿	[8.6]	1.2	6.4	長石・石英・ 雲母・赤色砂子	靑	普通 体部外・内面ロクロナデ	見込周部部留みナデ 底部右回転糸切り	覆土中	60%
10	瓦葺土器	火鉢	[17.7]	9.3	[13.2]	長石・石英	におい黄粉	普通 体部外面へろ磨き	内面輪積み直を残すナデ	覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪楽	産地	出土位置	備考
1	磁器	中碗	[9.8]	4.5	[4.2]	緋密 灰白	ロクロ成形 染付 隅り高台 端反形 口 縁部外・内面彫文 胴部陶縁山水文 雲 部二重線縁文 見込二重線縁に鳥文 高台 二重線縁文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	50% PL 9
2	磁器	中碗	9.2	5.0	[4.2]	緋密 灰白	ロクロ成形 染付 隅り高台 端反形 胴 部外面彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	50%
3	磁器	中碗	[11.3]	5.0	[3.9]	緋密 灰白	ロクロ成形 染付 隅り高台 平形 口縁 部外・内面彫文 胴部外面彫文 雲部 陶縁文 高台二重線縁文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	40% PL 9
4	磁器	中碗	[9.4]	4.6	3.8	緋密 灰白	ロクロ成形 染付 隅り高台 端反形 胴 部外面彫文 高台二重線縁文 見込椀付 下無軸	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	40% PL 9
6	陶器	土瓶蓋	3.8	2.3	-	緋密 におい黄粉	ロクロ成形 蒸とし蓋 九平積み 揃み貼付 下無軸	陶輪	志摩(土師見)	覆土上層	90% PL 9 揃み径0.8cm
8	陶器	小皿	8.4	1.7	3.8	緋密 灰白	ロクロ成形 高付 隅り高台 端反形 無 軸 底部付摺文	陶輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	80% PL10
9	陶器	筒形 容器	[8.0]	5.2	[4.2]	緋密 浅黄	ロクロ成形 隅り高台 輪高台 胴部彫文 胴部内面陶縁文 高台無軸	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	30% PL10

第312号土坑出土遺物観察表(第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪楽	産地	出土位置	備考
1	陶器	小碗	[9.0]	[3.5]	-	緋密 浅黄	ロクロ成形 半球形	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	5%

第322号土坑出土遺物観察表(第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	土師土器	皿	-	(2.4)	7.3	長石・石英・ 細砂	浅黄靑	普通 体部外・内面ロクロナデ	底部右回転糸切り	覆土下層	5%
2	土師土器	皿	-	(1.9)	5.2	長石・石英・ 雲母・赤色砂子	靑	普通 体部外・内面ロクロナデ	見込周部部留みナデ 底部右回転糸切り後ナデ	覆土中	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
3	垢器	掻鉢	-	(3.4)	-	長石・細礫 灰	綾作り 口縁無裝飾 腹目歯数6本1単位	-	信楽	覆土中	5%

第329号土坑出土遺物観察表 (第67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	風印	[247]	(8.7)	-	長石・石英	にぶ黄橙	普通	ロクロ成形 七厘形 体部外面ミダキ・内面無軸	覆土上層	5%

第354号土坑出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考	
1	陶器	中甕	[198]	(4.0)	-	細密 灰黄	ロクロ成形 丸形	製部内面刷毛目文	白泥 灰軸	肥前系	覆土下層	10%

第383号土坑出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	甕	-	(2.3)	[5.0]	長石・石英・ 雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部右回転糸切り	覆土中	30%

第385号土坑出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	磁器	甕	-	(0.4)	-	細密 灰白	ロクロ成形 見込射化文	前面無	龍泉系	覆土中	10%

第391号土坑出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	天目茶碗	-	(3.4)	-	細密 灰白	ロクロ成形 腰部・底部無軸	鉄軸	瀬戸・美濃系	覆土中	5%

第400号土坑出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	土質土器	甕	[108]	1.2	[8.0]	長石・石英	にぶ黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切りナデ	覆土上層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	磁器	碗	-	(4.6)	6.2	細密 オリーブ灰	ロクロ成形 染付 製部外面青文・腰部 二重團扇文 高台二重團扇文 段台無軸	透明軸	在池	覆土上層	40%
3	陶器	甕	-	(1.3)	4.4	細密 灰白	ロクロ成形 染付 胡り高台 高台無軸 見込花卉文	白泥 透明軸	瀬戸・美濃系	覆土中層	20% PL10
4	陶器	小甕	[168]	(7.7)	-	細密 暗赤黒 にぶ黄橙	ロクロ成形 孫太形	鉄軸	瀬戸・美濃系	覆土中層	5%

第402号土坑出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	小甕	8.2	2.2	4.2	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナ デ 見込局段部無軸ナデ	覆土上層	90% PL10

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
2	垢器	広口甕	[348]	[10.5]	-	細密 細灰	綾作り 口縁部・肩部・内面横ナデ 口 縁部斜り返し 裾若干の陶質	自然軸	常滑	覆土中	5% PL10 8-9形式

第406号土坑出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	小甕	6.4	1.8	3.8	長石・石英・ 雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部左回転糸切り後 ナデ	覆土中	100%

第412号土坑出土遺物観察表 (第68～70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	土質土器	甕	3.5	1.4	-	長石・石英・ 雲母	にぶ黄橙	普通	ロクロ成形 山蓋 口交差 丸駒目 底部回転 糸切り後ナデ	覆土上層	100% 組み付け12号
8	土質土器	甕	11.4	2.1	6.6	長石・石英	にぶ黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部左回転糸切り 体部外面油煙付着	覆土中層	95% PL10 打明無軸用
15	土質土器	小甕	7.3	1.7	4.8	長石・赤色粒子	にぶ黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部左回転糸切り 口縁部油煙付着	覆土上層	100% PL11 打明無軸用

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	土師土器	鈴鈴	[304]	5.6	[288]	長石・石英	褐色	普通	ロクロ成形 耳貼付 有耳 内外・内面・底部襷縁付着	真平田深め 体部 底部・方向のヘラ	覆土中層 30% PL16
19	瓦葺土器	火鉢	393	11.2	[277]	長石	灰白	普通	ロクロ成形 口縁内彫彫形	三足足付	覆土上層 90% PL16
20	土師土器	埴埴密	5.3	8.5	6.1	長石・石英・ 雲母	橙	普通	板作り 深桶形 窓受小 のナデ 胴部筋一重付内「見込草文」	底裏め込み後一方 内面	覆土中層 100% PL11
21	土師土器	埴埴密	[56]	9.0	5.8	長石・石英	橙	普通	板作り 深桶形 窓受小 のナデ 胴部筋一重付内「見込草文」	底裏め込み後一方 内面	覆土中層 95%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考	
1	磁器	小杯	[64]	4.7	2.8	細密 灰白	ロクロ成形 染付 筒形高台 襷縁形 胴部内面筋に薄文 襷部内面筋文 高台内面筋文	透明釉	肥前系	覆土中層	40%	
2	磁器	小碗	7.8	5.2	3.8	細密 灰白	ロクロ成形 染付 襷縁形 筒形高台 口縁部外面筋文 胴部外面筋文 高台一重筋文 高台内面筋文	透明釉	瀬戸・美濃系	覆土中層	90% PL10	
3	陶器	小碗	[90]	5.4	3.2	細密 浅黄	ロクロ成形 色絵 上絵付 手彫形 筒形高台 見込目取立 高台無筋	透明釉	京・信楽系	覆土中	50%	
4	磁器	中碗	10.7	5.9	4.0	細密 灰白	ロクロ成形 染付 筒形高台 丸形 胴部外面筋に繁文 襷部内面筋文 高台一重筋文 高台内面筋文	透明釉	瀬戸・美濃系	覆土中	60% PL10	
5	磁器	中碗	11.6	6.1	4.6	細密 灰白	ロクロ成形 染付 筒形高台 丸形 胴部外面筋に繁文 襷部内面筋文 高台一重筋文 高台内面筋文	透明釉	肥前系	覆土中	60% PL10	
7	陶器	小皿	[122]	2.4	7.2	細密 明りろけ	ロクロ成形 鉄指輪 筒形高台 見込草文 笠付無筋	黒釉	瀬戸・美濃系	覆土中	70% PL10	
9	陶器	小皿	12.9	4.6	4.6	細密 灰白	ロクロ成形 鉄指輪 筒形高台 見込目取立 高台無筋	透明釉	肥前系	覆土中	60% PL10 見込草文	
10	磁器	小皿	13.4	2.7	7.7	細密 灰白	ロクロ成形 染付 筒形高台 本底筋 胴部外面筋に繁文・草文・内面草文文、見込コネクタ印刷による点草文文 高台一重筋文 高台内面筋文に目取立	透明釉	肥前系	覆土中	70% PL10	
11	磁器	小皿	[130]	3.2	7.5	細密 灰白	ロクロ成形 染付 筒形高台 本底筋 胴部外面筋に繁文・内面草文文、見込コネクタ印刷による点草文文 高台一重筋文に目取立 高台内面筋文	透明釉	肥前系	覆土中	70% PL10	
12	磁器	小皿	[131]	3.7	4.0	細密 灰白	ロクロ成形 染付 筒形高台 本底筋 胴部外面筋に繁文・内面草文文、見込コネクタ印刷による点草文文 高台一重筋文に目取立 高台内面筋文	透明釉	瀬戸・美濃系	覆土中層	70% PL10	
13	陶器	打明瓦	[102]	2.5	[48]	細密 におい橙	ロクロ成形 染付 筒形高台 本底筋 胴部外面筋に繁文・内面草文文、見込コネクタ印刷による点草文文 高台一重筋文に目取立 高台内面筋文	鉄釉	越後(上田)	覆土上層	50%	
14	陶器	打明瓦	6.3	2.9	5.0	細密 灰黄	ロクロ成形 ベタ底 平形 口縁部外縁付 胴部外面筋下部から底部筋に取付	鉄釉	越後(上田)	覆土中	90% PL11	
16	磁器	大皿	[304]	8.0	[120]	細密 灰白ろけ	ロクロ成形 染付 筒形高台 筒縁形 見込目取立 高台筋二段 襷部・高台無筋	青磁釉	肥前系	覆土中	60% PL16	
18	陶器	摺鉢	[436]	(102)	-	長石・石英・ 浅黄	ロクロ成形 口縁外筋二段 樽目1単位 8本	-	明石・堺系	覆土下層	5% PL10	
22	陶器	片口	[164]	8.8	7.2	長石・石英	灰黄	ロクロ成形 筒形高台 口貼付 丸形 口縁切込目取立 見込目取立 襷部・高台無筋 高台内面筋文	灰白	瀬戸・美濃系	覆土中	50% PL16 掛書「店〇」
23	磁器	飯碗	-	(56)	-	細密 灰白	ロクロ成形 染付 襷縁形 胴部筋文	透明釉	在産	覆土中	10%	
24	磁器	飯碗	[77]	5.0	4.1	細密 灰白	ロクロ成形 染付 筒形高台 台付高台 胴部筋文 高台一重筋文	透明釉	肥前系	覆土中層	50% PL11	

第 423 号土坑出土遺物観察表 (第 70 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	磁器	皿	-	(17)	(78)	細密 普通	ロクロ成形 染付 筒形高台 見込草文文 襷部・高台一重筋文 高台内面筋文	透明釉	肥前系	覆土上層	5%

第 456 号土坑出土遺物観察表 (第 70 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師土器	皿	[120]	3.2	5.0	長石・石英・ 雲母	におい橙	普通	体部外・内面ロケナデ 底部回転車切り機ナデ 指面筋	見込一方のナデ	覆土上層 5%

第 471 号土坑出土遺物観察表 (第 70・71 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	瓦葺土器	鈴鈴	[339]	(52)	-	長石・石英・ 細砂	におい黄	普通	ロクロ成形 耳貼付 有耳	体部外・内面保付着	覆土上層 50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考	
1	磁器	中碗	[110]	5.9	[44]	細密 灰白	ロクロ成形 染付 筒形高台 胴部筋文 高台一重筋文 高台内面筋文	透明釉	肥前系	覆土中	40%	
2	陶器	中碗	[04]	(42)	-	細密 浅黄	ロクロ成形 襷縁形 筒形高台 胴部外面筋下部から底部筋に取付 胴部外面筋文 高台一重筋文 高台内面筋文	鉄釉	瀬戸・美濃系	覆土中	10% PL11 掛鉢小皿	
3	陶器	小皿	[120]	3.3	4.4	細密 浅黄	ロクロ成形 筒形高台 丸形 見込目取立 高台筋二段 高台無筋	黒釉	肥前系	覆土中	50% PL11	
5	陶器	摺鉢	40.4	15.2	20.6	長石・石英	灰赤	ロクロ成形 口縁外筋二段 樽目12本1単位	-	明石・堺系	覆土上層	80% PL16
6	陶器	摺鉢	-	(142)	(178)	長石・石英	におい橙	ロクロ成形 ベタ底 樽目8本1単位	-	不明	覆土上層	20%
7	陶器	中碗	[109]	(55)	-	細密 灰黄 暗緑	ロクロ成形 耳貼付 胴部内面筋付着	鉄釉	瀬戸・美濃系	覆土中	10% PL11 掛鉢小皿	

第 472 号土坑出土遺物観察表 (第 71 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	中瓶	[104]	6.2	4.8	緻密 淡黄	ロクワ成形 甕形高台 丸形 口縁部口縁部 外部灰。腰部下部筋彫り分け 引出無輪	灰輪 鉄輪	瀬戸・美濃系	甕土上層	50% PL.11
2	陶器	大耳瓶	[120]	5.8	[6.5]	緻密 灰白 赤黒	ロクワ成形 大耳形 腰部平直輪 ロクワ成形 甕形高台 腰部 内外輪部 口分け 頸部下輪部分け 頸部外面直線 5条 高台内面彫りの中に「無」引出	鉄輪	瀬戸・美濃系	甕土中	30% PL.11
3	陶器	中瓶	100	6.6	5.4	緻密 灰白	ロクワ成形 甕形高台 丸形 頸部外面直線 5条 高台内面彫りの中に「無」引出	灰輪	瀬戸・美濃系	甕土中層	40% PL.11 腰筋小瓶
4	陶器	皿	-	(6.1)	[11.4]	緻密 にぶい黄	ロクワ成形 甕形高台 丸形 頸部外面直線 下部から高台無輪 頸部内面輪毛文 見込 引出無輪	灰白 白黒 鉄輪	肥前系	甕土中層	20% PL.11
5	陶器	鉢	-	(5.8)	[14.1]	緻密 灰白	ロクワ成形 甕形高台 笠形 鉄筋 上巻 頸部内面直文	灰白 鉄輪	瀬戸・美濃系	甕土上層	5% PL.11 笠形鉢

第 515 号土坑出土遺物観察表 (第 72・73 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
14	瓦質土器	始筒	[198]	3.3	[17.2]	長石・石英・ 磁鉄	赤黒 普通	ロクワ成形 底平直成形 体部外・内面と底部 縁付		甕土上層	40%
17	瓦質土器	火鉢	-	(11.6)	[14.8]	長石・石英	赤黒 普通	ロクワ成形 体部外面下部へ凸り 体部外面 直線による三段の区画 上段型押による草文 中段色押による風流文 下段6本1単位の輪筋 による流状文と横線文		甕土上層	10% PL.12
18	瓦質土器	七厘	[218]	19.8	[21.0]	長石	にぶい黄 普通	ロクワ成形 頸部直 口縁部割線直		甕土中	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	中瓶	[101]	5.9	[4.3]	緻密 灰オリーブ 灰黄	ロクワ成形 甕形高台 端反形 甕付・高 台内無輪	軟陶輪 包地(包脚地)		甕土上層	50% PL.11
2	磁器	中瓶	9.5	4.8	3.4	緻密 灰白	ロクワ成形 甕付 甕形高台 端反形 口 縁部外・内面直線 頸部外面横線出水文 腰部直線 見込直線文に石文 高台直 線文	透明輪	瀬戸・美濃系	甕土上層	90% PL.12
3	磁器	中瓶	11.4	6.2	4.8	緻密 灰白	ロクワ成形 甕付 甕形高台 端反形 口 縁部内面直線文に石文 頸部外面如意頭口 縁内面直線文に石文と横線文 高台内面直線文に筋 直化平直	透明輪	瀬戸・美濃系	甕土中	90% PL.12
4	磁器	中瓶	[107]	6.4	6.2	緻密 灰白	ロクワ成形 甕付 甕形高台 直線形 口 縁部内面二重直線 頸部外面横線文 見 込直線文に石文	透明輪	瀬戸・美濃系	甕土中	50% PL.12
5	磁器	小瓶	8.7	5.3	3.2	緻密 灰白	ロクワ成形 甕付 甕形高台 腰部形 口 縁部内面二重直線 頸部外面矢羽根文 腰部直線文 見込直線文に石文	透明輪	肥前系	甕土中層	70% PL.12
6	陶器	土瓶蓋	4.0	1.9	-	緻密 にぶい黄	ロクワ成形 高とし蓋 口受有 九平積み 積み形	軟陶輪	包地(包脚地)	甕土中層	100% PL.11 積み径 1.5cm
7	磁器	壺物蓋	[8.2]	3.4	-	緻密 灰白	ロクワ成形 甕付 横積み 積み形 口受有 口受有 頸部外面上部二重直線文 中央部高 台に石文 高台直線文 頸部外面直線文	透明輪	瀬戸・美濃系	甕土上層	40%
8	磁器	中瓶蓋	9.4	3.1	-	緻密 灰白	ロクワ成形 甕付 端反形 輪積み 高台 内角筋 口縁部内面直線に如意頭文 頸部 外面上部・下部直線文に如意頭文 頸部 外面横線出水文 見込二重直線文に石文	透明輪	瀬戸・美濃系	甕土上層	80% PL.12 積み径 3.7cm
9	磁器	中瓶蓋	10.2	2.9	-	緻密 灰白	ロクワ成形 甕付 内面直線分け 丸形 直線 輪積み 口縁部内面四方摩文 見込 二重直線に石文	青磁輪 透明輪	肥前系	甕土上層	40% 積み径 4.8cm
10	磁器	中瓶	21.6	2.9	13.4	緻密 灰白	ロクワ成形 甕付 甕形高台 端反形 口 縁部内面直線 頸部外面横線に横線文・ 内面直線内面に横線文と横線文 見込二重 直線文に手摺筋による石文 高台直線 文 高台内面直線文に如意頭文	透明輪	肥前系	甕土中層	60% PL.11
11	陶器	灯明笠	7.2	1.6	3.2	長石 石英 淡黄	ロクワ成形 ベタ底 油塗切立状 頸部外 面下部から底部縁付取り 頸部外面下部 縁無輪	鉄輪	瀬戸・美濃系	甕土上層	100% PL.12
12	陶器	灯明皿	10.2	2.3	5.8	緻密 灰白	ロクワ成形 甕形高台 丸形 全面輪筋 口縁部 政治直線文	灰輪	瀬戸・美濃系	甕土上層	90% PL.12 小瓶形
13	陶器	把手持筒	17.0	10.0	7.8	緻密 にぶい黄	ロクワ成形 丸形 三足板状耳 肩・足筋 付 蓋文有 頸部下部から底面無輪	鉄輪	包地(包脚地)	甕土中層	80% PL.16
15	陶器	横木鉢	[120]	7.7	7.2	緻密 黒 にぶい黄	ロクワ成形 口縁部 平直形 頸部外面直 線無輪 底部直線出水文 見込直線文	鉄輪	瀬戸・美濃系	甕土中層	40% 中瓶形
16	陶器	片口	[190]	(9.4)	-	緻密 オリーブ黄 灰白	ロクワ成形 口縁切立丸形 注口 注口 内部下部無輪	鉄輪	瀬戸・美濃系	甕土上層	20%
19	陶器	壺	[8.4]	(7.5)	-	緻密 淡黄 灰白	ロクワ成形 双耳甕形 耳貼付 玉縁 口縁 口唇部板状き取り	鉄輪	瀬戸・美濃系	甕土中	30% PL.12
20	陶器	土瓶	[6.4]	(8.9)	-	緻密 緑	ロクワ成形 甕形高台 注口・耳貼付 注 口孔 1 (3孔直線) 頸部外面下部無輪	陶線輪	包地(包脚地)	甕土中	60% PL.20
21	陶器	土瓶	-	(13.0)	(8.6)	緻密 にぶい黄 灰黄	ロクワ成形 丸形 注口・足筋付 注口孔 3無輪 頸部外面直線無輪	陶線輪	包地(包脚地)	甕土上層	40% PL.16
22	陶器	カンナ	[4.2]	4.0	3.2	緻密 灰白	ロクワ成形 甕形高台 片口 手摺付口・ 後手摺付 注口溝有 口縁・頸部外面下部 から引出無輪	赤黒 鉄輪	瀬戸・美濃系	甕土上層	70% PL.12

第 516 号土坑出土遺物観察表 (第 73 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	土瓶蓋	4.4	1.3	-	緻密 にぶい黄	ロクワ成形 高とし蓋 口受有 九平積み 積み形 下部無輪	軟陶輪	包地(包脚地)	甕土中	90% 積み径 1.5cm

第517号土坑出土遺物観察表(第73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪染	産地	出土位置	備考
1	陶器	小皿	[88]	1.1	5.0	長石 灰白	惣押 六角形 胴部台形区内に草花文と雲文 見込六角形区外内に風文	不明	讃岐国志度	覆土中	30% 器内焼。 底熟
2	磁器	磁鉢	[350]	(6.2)	-	長石 赤黒	ロクロ成形 口縁部外唇三段 口縁部内凸部大 器口縁部と本1単位	-	明石・堺系	覆土中	5%

第518号土坑出土遺物観察表(第73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴ほか	輪染	産地	出土位置	備考
1	土質土器	皿	[118]	3.9	6.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙 普通	体部外・内面ロクロナデ 底部中央に穿孔途中の孔あり	底部回転糸切り	底	覆土中	50%

第522号土坑出土遺物観察表(第73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪染	産地	出土位置	備考
1	磁器	小皿	[102]	(1.5)	-	靑玉 灰白	ロクロ成形 丸形 輪花1口縁部内面縁文 胴部外面唐草文・内面胡蝶草文	透明輪	肥前系	覆土中	5%

第528号土坑出土遺物観察表(第73～75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴ほか	輪染	産地	出土位置	備考
10	土質土器	椀形器	7.7	1.9	-	長石・石英・赤母	橙 普通	板作り 深桶形 口交有 上面・側面ナデ			覆土上層	100% 泉州系
11	土質土器	皿	[104]	1.5	6.8	長石・石英	にぶい橙 普通	体部外・内面ロクロナデ 底部右回転糸切り			覆土上層	70% PL12
12	土質土器	皿	9.2	2.0	5.6	長石・石英	にぶい橙 普通	体部外・内面ロクロナデ 底部右回転糸切り			覆土中	60% 石門原転用。
13	土質土器	燗台	5.9	1.3	4.4	長石・石英・赤母・赤色粒子	橙 普通	板作り 丸形 体部外・内面ロクロナデ 底部左回転糸切り			覆土上層	95% PL12 古厚0.5～0.6cm
14	土質土器	火鉢	28.2	10.2	28.1	長石・石英	橙 普通	板作り 方形 体部接合部・底部接合部貼り合わせ後ナデ 足貼付あり			覆土中	20% PL16
15	瓦質土器	火鉢	[170]	5.4	-	長石・石英	灰 普通	ロクロ成形 口縁内厚形 足貼付 体部下端工具による削り・外面内面厚形			覆土上層	40%
16	瓦質土器	呪印	-	(9.2)	[248]	長石	灰 普通	ロクロ成形 壺型 胴部一面 体部外面ミダキ			覆土中	10%
17	土質土器	五徳	-	(6.2)	[174]	長石・石英	灰黄橙 普通	土足断面三角形 脚部接合部り合わせ後削りナデ 体部ナデ・底径工具による削り			覆土中	20%
19	土質土器	焼壺	3.6	9.0	5.7	長石・石英・赤母・赤色粒子	浅黄橙 普通	板作り 深桶形 壺交小 内面布目 底縁の込			覆土中層	100% 泉州系
20	土質土器	焼壺	5.5	9.3	5.8	長石・石英・赤色粒子	浅赤黒 普通	板作り 深桶形 壺交小 内面布目 底縁の込 小皿取敷方向からのナデ 漆印あり			覆土上層	100% PL13

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪染	産地	出土位置	備考
1	磁器	小杯	6.6	4.9	2.6	靑玉 灰白	ロクロ成形 梨付 瑞辰形 胴部外面竹文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	70%
2	陶器	小碗	[84]	5.2	3.4	靑玉 灰白	ロクロ成形 半球形 削り高台 土総付 側面出水文 高台無輪	透明輪	京・信濃系	覆土中	50% PL12
3	陶器	中碗	[123]	5.1	(5.2)	靑玉 浅黄橙	ロクロ成形 洗手球形 削り高台 見込接 側面出水文 高台無輪	透明輪	肥前系	覆土中	40% 肥前京焼風
4	陶器	中碗	[104]	5.9	4.3	靑玉 灰白	ロクロ成形 半球形 削り高台 鉄輪沈し 高台無輪	鉄輪	瀬戸・美濃系	覆土中	50%
5	陶器	碗	-	(5.6)	4.7	靑玉 灰白	ロクロ成形 天目形 削り高台 高台無輪	鉄輪	瀬戸・美濃系	覆土下層	40%
6	陶器	中碗	11.2	7.8	4.2	靑玉 オリーブ黄	ロクロ成形 筒形 削り高台 全面施輪 高台砂目肌1	透明輪	肥前系	覆土中層	95% PL12
7	磁器	中碗	10.0	4.1	4.3	靑玉 灰白	ロクロ成形 梨付 浅半球形 削り高台 胴部外面回竹文	透明輪	肥前系	覆土中	20% PL12
8	磁器	中碗	9.8	4.9	3.7	靑玉 灰白	ロクロ成形 梨付 浅半球形 削り高台 胴部外面唐文	透明輪	肥前系	覆土中	60%
9	磁器	香口	[68]	5.6	[4.7]	靑玉 灰白	ロクロ成形 梨付 桶形 高台 削り高台 口縁部外面唐文 胴部外面下部無輪 文・高台・裏面無文・底口無輪	透明輪	肥前系	覆土中	20%
18	磁器	香口	[160]	(6.4)	-	靑玉 灰白	ロクロ成形 筒形 胴部下面下部無輪	青磁輪	瀬戸・美濃系	覆土中	30% PL13
21	磁器	仏花瓶	-	(6.2)	[45]	靑玉 灰白	ロクロ成形 梨付 笠蓋形 削り高台 胴部外面回竹文 胴部外面唐文 高台無輪	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	20% PL13

第531号土坑出土遺物観察表(第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴ほか	輪染	産地	出土位置	備考
1	土質土器	小皿	5.8	1.8	3.6	長石・石英・赤母・赤色粒子	橙 普通	体部外・内面ロクロナデ 底部右回転糸切り			覆土下層	100%
2	土質土器	小皿	-	(2.2)	4.6	長石・石英・赤母	浅黄橙 普通	体部外・内面ロクロナデ 底部右回転糸切り後工 目によるナデ			覆土上層	60% 石門原転用。
3	土質土器	皿	[110]	3.7	[4.4]	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい橙 普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後工 目によるナデ(横目肌)			覆土中	40%
4	土質土器	皿	[126]	3.1	[6.4]	長石・石英・赤母	黒黒 普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り			覆土中	40% 鉄輪

第532号土坑出土遺物観察表(第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	中碗	[96]	(47)	-	細密 灰白	ロクロ成形 胎付 胴部外面コンニャク印 型による丸文散らしと菊文散らし	透明軸	肥前系	覆土中	40% PL13
2	陶器	小皿	[132]	3.5	6.0	細密 浅黄	ロクロ成形 胎付 菊文 胴り高台 口 縁部僅付着 胴部外面下部から高台無軸と 残付着(見込)有る	灰軸	瀬戸・美濃系	覆土中層	60%
3	磁器	小皿	[124]	3.4	[7.8]	細密 灰白	ロクロ成形 胎付 丸形 胴部外面無軸文 内面文 見込横文に二重無軸文 高台内無軸 文 高台内無軸文	透明軸	肥前系	覆土中	30%
4	陶器	行筒	-	1.0	-	細密 灰白	型押 隅切 底面無軸	淡緑軸	瀬戸・美濃系	覆土中	10%
5	磁器	仏飯器	5.9	5.8	3.4	細密 灰白	ロクロ成形 胎付 胴底僅粘 台底輪高台 胴り高台 胴部外面無軸文散らし 胴部無軸 文 高台無軸文	透明軸	肥前系	覆土中	95% PL13
6	磁器	仏飯器	[6.6]	6.3	3.7	細密 灰白	ロクロ成形 胎付 台底輪高台 胴り高台 口縁部外面無軸文 胴部外面コンニャク印 型による宝珠文散らし 胴部無軸文 高台 二重無軸文	透明軸	肥前系	覆土中	80%

第533号土坑出土遺物観察表(第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
3	土質土器	模倣煎茶	7.4	2.1	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	板作り 深桶型蓋 口交有 上面・側面ナデ 内面赤目	覆土上層	100% PL13 星州系	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴		軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	小碗	8.2	4.8	3.2	細密 灰白	ロクロ成形 湯反形 胴り高台 口縁部外 面無軸文・内面二重無軸文 見込括弧に二 重無軸文 高台二重無軸文 高台内無軸文 に数「大明」	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土中	95% PL13	
2	磁器	中碗	[96]	4.8	[3.5]	細密 明緑灰	ロクロ成形 半球形 胴り高台 胴部外面 丸に菊文散らし	透明軸	肥前系	覆土中	30% PL13	
4	陶器	中皿	[21.0]	4.1	7.7	細密 灰白	ロクロ成形 丸形 胴り高台 僅付無軸 見込目取2	淡緑軸	瀬戸・美濃系	覆土中層	40%	

第535号土坑出土遺物観察表(第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
2	土質土器	小皿	8.8	2.7	4.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部右回転糸切り	覆土下層	100% PL13	
3	土質土器	皿	10.4	3.1	5.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部右回転糸切り	覆土下層	90% PL13	
4	土質土器	皿	[122]	2.6	[5.0]	長石・石英・ 雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部外・内面・見込 僅付着 底部回転糸切り	覆土下層	30%	
5	土質土器	小皿	[6.2]	1.6	[3.5]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	30%	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴		軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	中碗	[106]	(6.3)	-	細密 黄灰	ロクロ成形 半球形	緑軸	瀬戸・美濃系	覆土下層	20% PL13	

第544号土坑出土遺物観察表(第76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	皿	10.6	2.5	6.4	長石・石英・ 赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 口縁部僅付着 底 部右回転糸切り	覆土中層	100% PL13
2	土質土器	小皿	6.0	1.3	4.6	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 見込滴垂状のナデ 底部右回転糸切り	覆土中	95% PL13
3	土質土器	小皿	[6.6]	1.6	4.4	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り 体 部と底部中央部に穿孔有	覆土中	50% 直径3mm±0.5mm
4	瓦質土器	火鉢	[21.0]	6.1	[14.6]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 口縁内彫彫形 足貼付 口縁部ミ ズキ 体部下層工具による胴り	覆土下層	50%

第592号土坑出土遺物観察表(第76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土質土器	小皿	7.4	2.3	3.3	長石・石英・ 雲母・針状炭素	黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	95%

第594号土坑出土遺物観察表(第76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
3	土質土器	小皿	-	(2.0)	4.8 - 5.4	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 見込一方のナデ 底部回転糸切り後一方のナデ 底部彫削有	覆土上層	50%	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴		軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	碗	-	(2.2)	-	細密 明緑灰	ロクロ成形 胎付 湯反形 口縁部外・内 面無軸文 胴部外面見込文	透明軸	肥前系	覆土上層	5%	
2	陶器	皿	-	(2.6)	-	細密 浅黄	ロクロ成形 湯反形 胴り高台 全面施軸	灰軸	瀬戸・美濃系	覆土上層	5%	

第 609 号土坑出土遺物観察表 (第 76 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
4	土製土器	小皿	[55]	1.6	[32]	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ	底部右回転削り	覆土中	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考
1	磁器	中碗	[107]	6.5	4.2	磁青 灰白	ロクロ成形 染付 丸彫 張り高台 胴部外面彫文 腰彫彫文 高台二重彫文 高台内面彫文・筋「大明年製」	透明輪	肥前系	覆土中	50% PL13
2	陶器	小皿	12.3	3.8	6.2	磁青 黄青	ロクロ成形 染付 丸彫 張り高台 胴部外面下部から高台無縁 見込目取	灰輪	瀬戸・美濃系	覆土中	95% PL13
3	磁器	小皿	[119]	3.1	4.3	磁青 にいり黄青	ロクロ成形 染付 丸彫 張り高台 胴部内面彫文・筋 見込彫の目輪筋さ 高台無縁	透明輪	肥前系	覆土中	40%
5	磁器	圓鉢	[288]	(5.9)	-	長石 石美 にいり黄	ロクロ成形 口縁外帯三段 横目面数本単位	-	明石・堺系	覆土中	10%
6	陶器	中皿	-	(14.2)	-	磁青 オリーブ	ロクロ成形 尾島徳利形 うのふ輪成し	灰輪 小口通	瀬戸・美濃系	覆土中	10%
7	磁器	水筒	-	1.4	5.1	磁青 灰白	型押 染付 豆腐型 底面貼付 胴部外面彫文	透明輪	肥前系	覆土中	50% PL14 孔径 0.4cm

第 223 号土坑出土遺物観察表 (第 76 ~ 79 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	灰土器	円面碗	-	(6.7)	-	長石・石美	黄灰	普通	器足円面碗 長方形透孔 透孔間縦二条 器底面反	覆土上層	5% 本器下底面

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考
1	磁器	小杯	7.8	4.2	3.4	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 胴部外面彫文・筋 見込彫文・丸彫に捺文と彫文 腰彫・高台無縁彫文 高台内面彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	100%
2	磁器	小杯	8.4	5.0	2.9	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 胴部外面彫文・筋 見込彫文・丸彫に捺文と彫文 腰彫・高台無縁彫文 高台内面彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	80% PL14
3	磁器	小杯	[94]	4.7	3.1	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 胴部外面彫文・筋 見込彫文・丸彫に捺文と彫文 腰彫・高台無縁彫文 高台内面彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	60%
4	磁器	丸碗	11.6	5.8	4.2	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 口縁部内面輪文・筋 胴部外面彫文・丸彫に捺文と彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	100% PL14
5	磁器	丸碗	12.3	5.4	4.1	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 口縁部内面輪文・筋 胴部外面彫文・丸彫に捺文と彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	95%
6	磁器	丸碗	12.1	5.8	4.0	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 口縁部内面輪文・筋 胴部外面彫文・丸彫に捺文と彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	100%
7	磁器	盃反碗	13.0	5.9	4.7	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 胴部外面彫文・筋 高台無縁	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	100% PL14
8	磁器	丸碗	12.2	5.8	3.9	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 口縁部内面輪文・筋 胴部外面彫文・丸彫に捺文と彫文 見込彫文・丸彫に捺文と彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	80% 掛書「七二〇〇」
9	磁器	飯碗	11.0	6.0	4.0	磁青 灰白	ロクロ成形 戒線と手掻き 張り高台 胴部外面彫文・筋と捺文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	90% PL14
10	磁器	丸碗	11.5	5.6	4.2	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 口縁部内面輪文・筋 胴部外面彫文・丸彫に捺文と彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	95% PL14
11	磁器	丸碗	10.9	5.2	3.8	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 口縁部内面輪文・筋 胴部外面彫文・丸彫に捺文と彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	80%
12	磁器	平碗	12.0	5.8	4.0	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 胴部外面彫文・筋 高台内面「TRADE MARK MADE IN JAPAN」	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	35% PL14
13	磁器	平碗	11.6	5.0	4.0	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 胴部外面彫文・筋と捺文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	95% PL14
14	磁器	平碗	12.1	5.2	4.0	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 胴部外面彫文・筋 見込彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	95%
15	磁器	平碗	12.1	5.0	4.0	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 胴部外面彫文・筋 見込彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	90% PL14
16	磁器	飯碗	11.2	5.7	3.5	磁青 灰白	ロクロ成形 戒線と手掻き 張り高台 胴部外面彫文・筋 見込彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	100% PL14
17	磁器	飯碗	12.6	5.8	5.0	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 胴部外面彫文・筋・彫文 腰彫彫文に二重彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	95% PL14
18	磁器	盃反碗	14.9	6.0	5.5	磁青 灰白	ロクロ成形 型紙捺絵 張り高台 胴部外面彫文・筋・彫文 腰彫彫文に二重彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	95%
19	磁器	丸碗	14.4	6.1	5.6	磁青 灰白	ロクロ成形 コバルト染付 張り高台 口縁部外面彫文・筋 見込彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	95% PL14
20	磁器	丸碗	15.0	7.8	6.2	磁青 灰白	ロクロ成形 張り高台 登付無縁	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	100%
21	磁器	丸碗	15.6	7.4	6.4	磁青 灰白	ロクロ成形 張り高台 登付無縁	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土上層	95%
22	磁器	丸碗	16.0	7.2	6.5	磁青 灰白	ロクロ成形 張り高台 登付無縁 胴部内面から見込彫文	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	80% 掛書「九二六二六」
23	磁器	筒型杯	[64]	5.8	[34]	磁青 灰白	ロクロ成形 新角底 底部筋「舟象」	青輪	瀬戸・美濃系	覆土中	60%
24	磁器	長筒清否	6.2	7.1	4.0	磁青 灰白	ロクロ成形 イッタンと手掻き 張り高台 胴部外面彫文	黒灰地 透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	100% PL14
25	磁器	長筒清否	6.4	6.8	3.6	磁青 灰白	ロクロ成形 登付無縁	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	100%
26	磁器	急須蓋	5.6	(1.0)	-	磁青 灰黄緑	ロクロ成形 丸形 口受無 横み貼付 孔有	-	万古系	覆土中	95% 孔径 0.3cm
27	陶器	土敷蓋	8.8	(2.0)	-	磁青 灰白	ロクロ成形 山蓋 口受無 横み貼付 下面無縁 孔有	灰輪	不明	覆土中	90% 孔径 0.5cm

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
28	磁器	長崎青磁	5.6	2.0	-	緻密 灰白	ロク口成形 山崖 口受有 丸胴み 横目 胎付 上部 イッタンと手掻きによる菊花文	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土中	100% PL15
29	陶器	小瓶	[136]	5.0	[96]	緻密 にぶい黄赤	ロク口成形 梨神 半端足1 鉄結 見込 鳥文と耳取1	両縁軸 長石軸	瀬戸・美濃系	覆土中	40% PL15 織部内付
30	磁器	小瓶	11.0	2.2	6.2	緻密 明緑灰	ロク口成形 顔付高台 雲付無軸	青磁軸	瀬戸・美濃系	覆土上層	90% PL15
31	磁器	小瓶	10.8	2.5	6.6	緻密 灰白	ロク口成形 顔付高台 雲付無軸 胴部内 面分調紫堇・如雲頭意に菊文 見込丸に 菊文 雲付無軸	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土上層	90% PL15
32	磁器	弁鉢	16.0	8.0	7.0	緻密 灰白	ロク口成形 梨神 コバルト・クロム染付 顔付高台 雲付無軸 胴部外面格子文	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土中	95% PL15
33	磁器	弁鉢	16.3	6.5	6.4	緻密 灰白	ロク口成形 梨神 顔付高台 雲付無軸 高台内路「監」	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土中	100% PL15
34	磁器	深鉢	13.2	8.7	7.8	緻密 灰白	ロク口成形 顔付高台 雲付無軸 高台内 路「監」	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土上層	95%
35	磁器	深鉢	14.4	10.0	7.5	緻密 灰白	ロク口成形 顔付高台 雲付無軸 胴部内 面塗紫有 高台内路「監」	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土中	80% PL15 耳取「七土29」
36	陶器	鉢鉢	[30.5]	[9.5]	-	長石 粗	ロク口成形 口縁外布三條 横目兩敷 30 本1単位	鉄軸	瀬戸・美濃系	覆土中	5%
38	陶器	土瓶	100	187	104	緻密 灰黄緑	ロク口成形 桶定型 顔付高台 口受有 注口・耳取付 注口孔10個 胴部下部分 高台無軸	灰軸	不明	覆土中	80% PL17
39	祐器	急須	6.3	6.1	5.5	緻密 灰黄緑	ロク口成形 桶定型 蓋受有 蓋取差 注 口・手取付 注口孔53個 胴部肩印「土木」	-	万古系	覆土中	90%
40	陶器	壺	30.8	27.7	20.9	緻密 にぶい橙	ロク口成形 梨丸形 輪高台 黒釉流し	焼結 黒軸	笠岡・益子系	覆土中層	70% PL17

第225号土坑出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	小瓶	[7.8]	5.1	3.2	緻密 淡黄	ロク口成形 平鉢形 イッタンと手掻き 顔付高台 玉縁口縁 胴部外面折伏松文 雲付無軸	透明軸	京・信楽系	覆土中	40% PL15
2	磁器	小瓶	[9.5]	4.9	[3.6]	緻密 灰白	ロク口成形 梨付 端反形 顔付高台 口 縁外面内面織文・内面帯織文 胴部外面 菊花文 見込・高台二重無軸文	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土中	30%
3	陶器	長崎青磁	7.0	6.8	3.9	長石 灰白	ロク口成形 吹絵と手掻き 口縁部顔形 胴部外面山文に浪花文 高台無軸	長石軸	瀬戸・美濃系	覆土中	90% PL15
4	陶器	小水注	-	[10.7]	[7.4]	緻密 灰黄	ロク口成形 浅手壺型	鉄軸	瀬戸・美濃系	覆土中	30%

第227号土坑出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	小瓶	[7.6]	3.4	3.0	緻密 灰白	ロク口成形 コバルト染付 丸形 藍の目 四郎高台 胴部内・外面織文 高台内面 織文	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土中	70%
2	陶器	小瓶	[106]	2.2	[5.4]	緻密 極暗褐	ロク口成形 丸形 べつ袋 見込首縁1見 込・底部分付着	灰軸	瀬戸・美濃系	覆土中	20% 披熟
3	磁器	小瓶	8.6	1.7	4.8	緻密 灰白	ロク口成形 顔付高台 見込文字路「木 牛」型ば 耳取付 雲付無軸	透明軸	不明	覆土中	80% PL15

第234号土坑出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	丸碗	15.5	7.1	6.4	緻密 明緑灰	ロク口成形 顔付高台 口縁 胴部外・内 面斜格子文 見込菊花文 雲付無軸	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土下層	80%
2	磁器	小瓶	[108]	2.2	[6.4]	緻密 灰白	ロク口成形 顔付高台 雲付無軸 胴部内 面分調紫堇・如雲頭意に菊文 見込丸に 菊文 雲付無軸	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土中	40%
3	陶器	便器	-	[7.7]	-	緻密 灰白	流し込み成形 正面ロゴ「TOYO TO KI KAISHA」	透明軸	不明	覆土中	5% PL15 耳取部裏面2穴 器底面中央2穴

第235号土坑出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	筒型杯	6.4	5.6	3.0	長石 灰白	ロク口成形 顔付高台 鉄結 胴部外面松 文 雲付無軸	長石軸	瀬戸・美濃系	覆土中	70%

第236号土坑出土遺物観察表 (第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	土器土質	蓋き瓶	38.0	33.7	32.2	長石	明赤褐	普通	ロク口成形 胴部台形意 金属製蓋取有		覆土中	80% PL17

第237号土坑出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	丸碗	10.6	4.9	3.8	緻密 灰白	ロク口成形 梨形胎形 顔付高台 口縁部 内面輪文紫堇 胴部外面織文に花菱文見込 織文と丸に松竹梅文	透明軸	瀬戸・美濃系	覆土中	100% PL15

第 238 号土坑出土遺物観察表 (第 79 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪染	産地	出土位置	備考
1	磁器	丸瓶	108	5.1	4.0	緻密 灰白	ロクロ成形 厚縁縮 傾り高台 口縁部内面輪筆書文 胴部外面山水文に桜花散らし。見込隠線文と土に捺印線文。	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	80%

第 239 号土坑出土遺物観察表 (第 79 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪染	産地	出土位置	備考
1	陶器	徳利	4.6	(6.0)	-	緻密 無釉赤褐色	ロクロ成形 肩縮形	鉄輪	不明	覆土中	10%

第 243 号土坑出土遺物観察表 (第 80 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪染	産地	出土位置	備考
1	陶器	壺	30.0	27.5	19.3	緻密 白・黄褐色	ロクロ成形 胸丸形 輪高台 原輪成し	特製原輪	笠戸・美濃系	覆土中	70% PL17

第 245 号土坑出土遺物観察表 (第 79 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪染	産地	出土位置	備考
1	磁器	平碗	10.0	4.7	3.4	緻密 灰白	ロクロ成形 胴張縮写 クロム染付 傾り高台 胴部外面筆文 器口無輪	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	50%

第 246 号土坑出土遺物観察表 (第 79 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪染	産地	出土位置	備考
1	磁器	小杯	5.6	3.6	2.4	緻密 灰白	ロクロ成形 端反形 傾り高台 胴部外面若松文	透明輪	美濃系	覆土中層	100%

第 250 号土坑出土遺物観察表 (第 80 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪染	産地	出土位置	備考
1	磁器	小皿	[9.0]	2.4	[4.0]	緻密 灰白	ロクロ成形 器押 コバム下染付 隅大角形 傾り高台 胴部内面菊花文に桜花散らし。見込隠線筆文。器口無輪	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	10%
2	磁器	小皿	[9.3]	2.4	[5.3]	緻密 灰白	ロクロ成形 器押 輪花形 傾り高台 胴部内面隅折葉文。見込隠線二重輪線文に筆文書文。器口無輪	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	30%
3	陶器	梨油壺	-	[3.6]	[6.3]	長石 白・黄褐色	ロクロ成形 扁平型無高台 胴部端輪成し内面・底面無輪	灰輪	瀬戸・美濃系	覆土中	40%

第 252 号土坑出土遺物観察表 (第 80 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土質瓦器	皿	[10.3]	1.8	[5.6]	緻密	橙	良好	体部外・内面ロクロナデ 器縁糸切り後ナデ	見込三ツ原文 底面	覆土中	60%

第 258 号土坑出土遺物観察表 (第 81 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土質瓦器	焼灰白蓋	6.8	1.4	-	長石・石英・黒色砂子	橙	普通	板作り 深桶形蓋薄手 ナデ 見込し布目	口受有小 上面・側面	覆土中	87% PL15 泉州系
2	土質瓦器	焼灰白蓋	7.0	1.9	-	長石・石英・黒色砂子	明赤褐色	普通	板作り 深桶形蓋薄手 ナデ 見込し布目	口受有小 上面・側面	覆土中	90% 泉州系
3	土質瓦器	焼灰白蓋	7.8	1.1	-	長石・石英・黒色砂子	明赤褐色	普通	板作り 深桶形蓋薄手 ナデ 見込し布目	口受有小 上面・側面	覆土中	87% 泉州系
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪染	産地	出土位置	備考	
4	磁器	皿	-	(2.0)	-	緻密 灰白	器押 変形 染付 器口高台 胴部内面文様有	透明輪	瀬戸・美濃系	覆土中	10%	
5	磁器	香炉	[11.2]	[3.7]	-	緻密 灰白	ロクロ成形 扁平形器 胴部内面無輪	青磁輪	王地山系	覆土中	10% PL15	

第 282 号土坑出土遺物観察表 (第 81 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土質瓦器	大滑石蓋	[20.2]	4.4	-	長石・石英・黒色砂子	明赤褐色	普通	ロクロ成形 胴張形蓋 器押 丸平鍋み 鍋み胎付	見込三ツ原文 底面	覆土中層	80% PL15 備前系 2.1cm

第306号土坑出土遺物観察表(第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土器土器	紡錘	[35.0]	6.7	[25.4]	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外・内面ロクロナデ 耳動付 底平足 深め	覆土中層	50%
4	土器土器	大鉢	[36.4]	[15.4]	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形 円筒型 体部外面磨文 口縁部 体部内面塗付垂	覆土中層	10% PL16

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	皿	-	(2.7)	[8.6]	緻密 灰白	ロクロ成形 急付 溜り高台 胴部外面花弁文・内面竹文に磨文 縁部磨文 見込梅花文 高台二重線文 高台内縁二重角に高欄と磨文	透明釉	肥前系	覆土中	10% PL15
2	陶器	土瓶	-	(2.3)	-	緻密 にぶい橙灰	ロクロ成形		海原輪 色地(赤黄地)	覆土上層	5%

第7号柱穴列出土遺物観察表(第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	本家取瓦	-	(4.4)	-	長石 淡黄	刷灰和写 表面刷の紫文による区画内に華匠文	白泥 透明釉	瀬戸	P2 覆土中	10%

第18号ピット群出土遺物観察表(第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	磁器	碗	[15.0]	(3.0)	-	緻密 青灰 磁子リブ	胴部外・内面無磨造分文	青鉛釉	鹿島産	P6 覆土中	5% PL16
2	磁器	梅瓶	-	(6.7)	-	緻密 灰白	胴部外面刷花菊文 梅瓶	非白磁釉	豊後産	P13 覆土中	5% PL16

遺構外出土遺物観察表(第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土器土器	横溝直瓦	8.4	2.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	板作り 深縁形蓋厚手 口受有 上面・側面・裏面ナデ	表土	80%

土製品出土遺物観察表

第1号石組水路跡出土遺物観察表(第82図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	成形法	焼成色	特徴	出土位置	備考
DP1	煉瓦	20.7	9.7	5.5	2080	手揉	にぶい赤褐色	刷印丸に「三つ巴」 刷印面縦方向的に筋	掘方埋土中	PL17

第2号水路状施設出土遺物観察表(第82図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	成形法	焼成色	特徴	出土位置	備考
DP1	土管	50.6	10.5 14.7	1.2 1.5	810. 1120	木型成形	橙・にぶい赤褐色	ソケット付 たたら作り	床面直上	近代土管 PL17

第2号整地跡出土遺物観察表(第82図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	成形法	焼成色	特徴	出土位置	備考
DP1	煉瓦	20.5	10.1	5.3	(1998)	手揉	にぶい赤褐色	刷印六角形から放射状の線 刷印面と裏面に焼き直さず全周につ	盛土中	

第515号土坑出土遺物観察表(第82図)

番号	器種	径	厚さ	重量	成形法	焼成色	特徴	出土位置	備考
DP1	碁石	2.2	0.7	2.73	手揉ね	にぶい橙	表・裏面ナデ	覆土上層	

第528号土坑出土遺物観察表(第82図)

番号	器種	高さ	幅	厚さ	重量	成形法	焼成色	特徴	出土位置	備考
DP1	土人形	9.4	(7.0)	(3.8)	(46.85)	型合わせ	橙	前後型貼り合わせ 内部中空	覆土上層	PL17

刻印有煉瓦計測表 (PL22)

番号	出土遺構	遺物番号	規 模			重量	番号	出土遺構	遺物番号	規 模			重量	番号	出土遺構	遺物番号	規 模			重量
			全長	全幅	厚み					全長	全幅	厚み					全長	全幅	厚み	
1	SK223	DP1	16.36	10.15	5.76	1762	9	SK233	DP2	16.10	10.52	5.57	1485	17	SK235	DP2	13.94	11.02	6.01	1183
2	SK223	DP2	12.30	10.54	5.96	940	10	SK233	DP3	15.67	11.60	5.84	1271	18	SK235	DP3	15.15	11.23	5.91	1380
3	SK223	DP3	6.86	9.17	5.74	539	11	SK233	DP4	14.20	10.35	5.89	1338	19	SK240	DP1	12.07	6.36	5.51	709
4	SK223	DP4	8.76	10.65	5.68	587	12	SK233	DP5	13.56	11.29	5.46	1185	20	SK240	DP2	15.06	10.17	5.20	1328
5	SK223	DP5	13.73	9.53	5.55	854	13	SK234	DP1	13.31	10.31	6.06	1948	21	SK240	DP3	20.13	5.19	5.66	1208
6	SK227	DP1	7.36	10.32	5.67	1299	14	SK234	DP2	11.95	11.12	5.77	1096	22	SK251	DP1	11.09	10.46	5.20	1061
7	SK227	DP2	22.35	10.77	5.77	2100	15	SK234	DP3	10.99	9.23	5.64	1494	23	SK264	DP1	12.93	9.05	5.03	777
8	SK233	DP1	12.03	10.48	5.76	1528	16	SK235	DP1	12.62	10.39	5.68	956	24	SK279	DP1	14.80	8.26	5.71	864

石器・石製品出土遺物観察表

第1号石組水路跡出土遺物観察表 (第83図)

番号	器 種	長さ	幅	幅内幅	重量 (kg)	材 質	特 徴	備考
Q1	岩槌	60.6	38.0	15.8	42.4	凝灰質泥岩	幅26cm程の工具痕。底部外面は斜位。側面は矢羽根状の工具痕	U字彫

第3号石組水路跡出土遺物観察表 (第83図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量 (kg)	材 質	特 徴	備考
Q1	岩槌	83.2	24.8	10.4	24.9	凝灰質泥岩	幅3cm程の工具痕。上部・側面は斜位。下部は斜位に一部矢羽根状の工具痕	礫石
Q2	岩槌	67.2	21.6	11.6	22.8	凝灰質泥岩	幅3cm程の工具痕。上部・側面・下部ともに斜位の工具痕	礫石
Q3	岩槌	87.6	18	10.0	17.1	凝灰質泥岩	幅3cm程の工具痕。上部・側面・下部ともに斜位の工具痕	底石

第4号石組水路跡出土遺物観察表 (第84図)

番号	器 種	長さ	幅	高さ	重量 (kg)	材 質	特 徴	備考
Q1	岩槌	59.2	28.6	14.0	28.7	凝灰質泥岩	上部幅2cm程で矢羽根状。側面は幅26cmは斜位の工具痕	底石
Q2	岩槌	90.0	33.5	15.0	53.5	凝灰質泥岩	側部外面幅2.2cm程で矢羽根状。側部内面幅4cm程で斜位の工具痕	礫石
Q3	岩槌	58.0	29.2	14.4	30.7	凝灰質泥岩	下部幅2cm程で矢羽根状。側面は幅2cmと26cmは斜位の工具痕	底石

第2号整地跡出土遺物観察表 (第85図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
Q1	底石 (67)	5.5	3.0	(15441)		凝灰岩	紙面4面 溝状の研磨痕	覆土中	PL18

第517号土坑出土遺物観察表 (第85図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
Q1	底石	6.2	3.7	2.0	50.44	凝灰岩	紙面5面 全面磨痕 仕上げ砥	覆土中	PL18
Q2	底石 (99)	5.0	3.4	(14617)		凝灰岩	紙面4面 溝状の研磨痕	覆土中	PL18

第528号土坑出土遺物観察表 (第85図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
Q1	底石	20.0	6.7	1.8	281.28	粘板岩	紙面4面 溝状の研磨痕	覆土中	PL18

第544号土坑出土遺物観察表 (第85図)

番号	器 種	径	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
Q1	礫石	2.2	0.55	4.32	硬質頁岩	礫石	覆土中	

第223号土坑出土遺物観察表(第85図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	128	6.7	0.9	146.17	粘板岩	砥面6面 全面磨面 仕上げ砥	覆土中	PL18

第240号土坑出土遺物観察表(第85図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	24.2	7.8	3.8	1103.7	粘板岩	砥面6面 溝状の研磨痕	覆土中	PL18

金属製品出土遺物観察表

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第86図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	樽管	3.5	1.4	1.4	5.35	銅	榎首部 継目上部 断面円形	第2号土坑中層	古金銀をリ没図 PL18

第1号石組水路跡出土遺物観察表(第86図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	釘	15.2	1.1	0.5	33.33	鉄	断面方形 平頭角釘 先端部欠損	覆土中	PL19

第2号石組水路跡出土遺物観察表(第86図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	不明鉄製品	3.8	1.3	-	33.23	鉄	右端部に四角形の金具 中央部に棒状の芯有	覆土中	PL19

第12号溝跡出土遺物観察表(第86図)

番号	器種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初測年	特徴	出土位置	備考
M1	重水産室	2.45	0.59	0.11	2.68	銅	1097	新重水元録以降	覆土中	PL19

第2号整地跡出土遺物観察表(第86図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	釘	10.6	0.3~1.2	0.5	20.86	鉄	平頭角釘 断面方形	盛土中	PL19
M2	樽管	(3.6)	(1.0)	(1.0)	(1.34)	銅	吸口部 口元・小口欠損 断面円形	盛土上層	PL18

番号	器種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初測年	特徴	出土位置	備考
M3	重水産室	2.38	0.53	0.14	2.83	銅	1097	新重水元録以降	盛土上層	PL19
M4	重水産室	2.33	0.53	0.13	1.77	銅	1097	重さから新重水元録以降。	盛土上層	PL19

第412号土坑出土遺物観察表(第86図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	不明鉄製品	(8.3)	2.5	0.1~2.1	(37.71)	鉄	断面長方形 薄い板状 折れと曲げのある鉄製品 右端部欠損 孔有	覆土中	PL18
M2	不明鉄製品	(10.0)	1.1	0.3	(22.84)	鉄	断面長方形 薄い板状 上部に円形の孔有	覆土中	PL19
M3	釘	(6.6)	0.3~1.2	0.3~0.5	(13.00)	鉄	断面方形 平頭角釘 折れ曲がりのある形状 先端部欠損	覆土中	PL19
M4	釘	(4.9)	0.3~1.1	(0.3)	(10.31)	鉄	断面方形 先端部欠損	覆土中	PL19

第515号土坑出土遺物観察表(第86図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	仮丁	(10.4)	(6.1)	0.5	(67.26)	鉄	断面三角形 両端部欠損	覆土上層	PL18
M2	鎌	(11.3)	(3.0)	0.3	(32.61)	鉄	断面逆三角形 両端部欠損	覆土上層	PL18
M3	鋸	2.8	(4.5)	0.4	(4.88)	鉄	断面長方形 右端部欠損	覆土中	PL19

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M4	釘	6.9	0.1 ~ 1.4	0.1 ~ 0.5	10.55	鉄	断面方形	平頭角釘	先端部折れ	覆土中	PL19
M5	不明 鉄製品	(7.7)	0.2 ~ 0.7	0.5 ~ 0.6	(21.86)	鉄	断面長方形	左端部巻き込み状の折れ	右端部欠損	覆土中	PL18
M6	釘	(5.7)	0.3 ~ 1.0	(0.3)	(8.00)	鉄	断面方形	平頭角釘	先端部欠損	覆土中	PL19
M8	簪	(13.1)	0.7	0.2	(8.12)	銀	平打簪	先端部欠損		覆土上層	PL19

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	初測年	特徴		出土位置	備考
M7	寛永通宝	2.39	0.59	0.11	1.63	銅	1697	新寛永元禄以降		覆土中	PL19

第 528 号土坑出土遺物観察表 (第 86 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M1	煙管	(5.5)	0.9	(2.0)	(6.87)	銅	煙首部	断面六角形	火眼部欠損	覆土上層	PL18
M2	煙管	(6.5)	1.5	2.0	(5.42)	銅	煙首部	断面四角形	小口欠損	覆土上層	PL18
M3	煙管	(13.3)	-	-	(16.15)	銅	延べ煙管胴部	継目上部	煙首欠損 胴部に菊柄の文様。	覆土上層	浮 0.5 ~ 0.8cm PL18

第 223 号土坑出土遺物観察表 (第 86 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M1	焼夷弾	(20.3)	(21.4)	0.4	(1810)	鉄	焼夷弾尾部	尾翼が剥合		覆土中	PL19

骨格製品出土遺物観察表

第 254 号土坑出土遺物観察表 (第 87 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
1	棒状瓦	(12.2)	2.0	0.5	(7.87)	骨(牛か馬)	先端部欠損	断面棒四角形	柄部に反り 片側から穿孔	覆土中	PL20

瓦出土遺物観察表

第 2 号石組水路跡出土遺物観察表 (第 87 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
T1	契斗瓦	23.7	12.7	2.34	(989)	長石・石英・雲母	灰	表裏面雜跡有		掘方底面	山形瓦形 PL20

第 4 号石組水路跡出土遺物観察表 (第 87 図)

番号	器種	全長	全幅	巴 部				軒 平 部				胎土・色調	文 様・特 徴	出土位置	備考	
				瓦当 耳	文様 区幅	珠径	珠数	文様 区幅	文様 区厚	上唇 縁幅	下唇 縁幅					瓦当 厚
T1	横込瓦	(21)	(7.6)	(4.7)	(4.7)	-	-	-	-	-	-	-	長石・石英・雲母 灰	右三つ巴文。	掘方埋土中層	PL20

第 368 号土坑出土遺物観察表 (第 87 図)

番号	器種	全長	全幅	巴 部				軒 平 部				胎土・色調	文 様・特 徴	出土位置	備考	
				瓦当 耳	文様 区幅	珠径	珠数	文様 区幅	文様 区厚	上唇 縁幅	下唇 縁幅					瓦当 厚
T1	横込瓦	(3.6)	(8.5)	(4.9)	(4.9)	-	-	-	-	-	-	-	長石・石英・赤色灰 に白い遺物	右三つ巴文。	覆土中	PL20

第 412 号土坑出土遺物観察表 (第 87 図)

番号	器種	全長	全幅	巴 部				軒 平 部				胎土・色調	文 様・特 徴	出土位置	備考	
				瓦当 耳	文様 区幅	珠径	珠数	文様 区幅	文様 区厚	上唇 縁幅	下唇 縁幅					瓦当 厚
T1	軒丸瓦	(2.4)	17.0	(12.7)	(11.0)	10	(11)	-	-	-	-	-	長石・石英・雲母 灰	特筆文 表裏面雲母	覆土中	PL20

第 472 号土坑出土遺物観察表 (第 87・88 図)

番号	器種	全長	全幅	巴 部				軒 平 部				胎土・色調	文 様・特 徴	出土位置	備 考	
				瓦当径	文様区幅	珠径	珠数	文様区幅	文様区厚	上層線幅	下層線幅					瓦当厚
T1	軒平瓦	25.7	23.5	-	-	-	-	16.5	3.5	1.0	1.2	5.4	長石・石英・雲母 灰	唐草文 表裏面雲母	覆土中	PL.20
T2	軒丸瓦 (180)	15.5	15.5	12.5	1.17	17	-	-	-	-	-	-	長石・石英・雲母 黒色	内区に右三つ巴文・外区に 珠文 裏面赤目	覆土中	PL.20

第 515 号土坑出土遺物観察表 (第 88 図)

番号	器種	全長	全幅	巴 部				軒 平 部				胎土・色調	文 様・特 徴	出土位置	備 考	
				瓦当径	文様区幅	珠径	珠数	文様区幅	文様区厚	上層線幅	下層線幅					瓦当厚
T1	軒丸瓦 (27)	14.3	14.2	10.4	-	-	-	-	-	-	-	-	長石・石英・雲母 灰	中山氏家紋「辨形の内」に 表裏面雲母	覆土上層	PL.20
T2	軒丸瓦 (25)	14.2	14.1	10.8	-	-	-	-	-	-	-	-	長石・石英 黒灰	中山氏家紋「辨形の内」に 表裏面雲母	覆土上層	PL.20

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
T3	丸瓦	31.2	14.6	3.57	(1277)	長石・石英・雲母	灰	表面工具によるナデ。裏面工具による横方向のナデ痕。縦方向のナデ	覆土上層	PL.20

第 517 号土坑出土遺物観察表 (第 89 図)

番号	器種	全長	全幅	巴 部				軒 平 部				胎土・色調	文 様・特 徴	出土位置	備 考	
				瓦当径	文様区幅	珠径	珠数	文様区幅	文様区厚	上層線幅	下層線幅					瓦当厚
T1	軒丸瓦 (145)	13.9	13.3	9.2	0.9	12	-	-	-	-	-	-	長石・石英 黄灰	左三つ巴文 表裏面雲母	覆土上層	PL.20

第 248 号土坑出土遺物観察表 (第 87 図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
T1	平瓦	25.5	22.5	1.8	(1524)	長石・石英	黄灰	面取りあり 裏面節頭痕	覆土中	写影 PL.20

第 250 号土坑出土遺物観察表 (第 87 図)

番号	器種	全長	全幅	巴 部				軒 平 部				胎土・色調	文 様・特 徴	出土位置	備 考	
				瓦当径	文様区幅	珠径	珠数	文様区幅	文様区厚	上層線幅	下層線幅					瓦当厚
T1	軒丸瓦 (35)	7.2	6.9	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	長石・石英 黒	右三つ巴文	覆土中	PL.20
T2	軒丸瓦 (23)	7.4	7.3	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	長石・石英・雲母 黒	右三つ巴文	覆土中	PL.20

第 273 号土坑出土遺物観察表 (第 88 図)

番号	器種	全長	全幅	巴 部				軒 平 部				胎土・色調	文 様・特 徴	出土位置	備 考	
				瓦当径	文様区幅	珠径	珠数	文様区幅	文様区厚	上層線幅	下層線幅					瓦当厚
T1	軒丸瓦	27.1	30.0	7.6	4.6	0.8	8	14.5	2.3	1.3	1.0	4.7	長石・石英 黒色	内区右三つ巴文・外区珠文 軒平部唐草文 巴部裏面・ 軒平部表面赤目内帯 軒平 部裏面 日本 1 単位の日蓮文 様又赤目	覆土中	PL.20

第 296 号土坑出土遺物観察表 (第 87 図)

番号	器種	全長	全幅	巴 部				軒 平 部				胎土・色調	文 様・特 徴	出土位置	備 考	
				瓦当径	文様区幅	珠径	珠数	文様区幅	文様区厚	上層線幅	下層線幅					瓦当厚
T1	軒丸瓦 (132)	28.0	6.8	5.3	-	-	-	13.5	2.2	1.2	0.8	4.3	長石・石英・雲母 明色	右三つ巴文 軒平部唐草文 軒平部表裏面雲母	覆土中	PL.20

刻印入瓦計測表 (PL.22)

番号	出土遺構	遺物番号	器種	規 模 (cm)			重量	刻印の場所	番号	出土遺構	遺物番号	器種	規 模 (cm)			重量	刻印の場所
				全長	全幅	厚み							全長	全幅	厚み		
1	SK224	T1	枕瓦	(5.92)	(13.83)	2.12	(133)	頭縁右脇区	5	SK227	T2	枕瓦	(9.12)	(11.41)	2.07	(360)	頭縁右脇区
2	SK224	T2	枕瓦	(10.64)	(15.02)	1.95	(417)	頭縁中央	6	SK233	T1	軒丸瓦	(4.69)	(8.93)	1.89	(80)	軒平部中央
3	SK224	T3	枕瓦	(14.67)	(15.34)	2.05	(525)	頭縁中央	7	SK236	T1	枕瓦	(6.34)	(6.77)	2.02	(202)	頭縁中央
4	SK227	T1	枕瓦	(9.50)	(14.31)	1.96	(261)	頭縁中央									

ガラス製品出土遺物観察表（第89図 PL21）

第223号土坑跡出土遺物観察表（第89図）

番号	種 類	口径	高さ	底径	重量	色 調	特 徴	出土位置	備 考
1	インク瓶	1.7	5.4	4.0	66	淡緑色半透明	底部陽刻銘丸に「M」	覆土中	丸蓋インク PL21
2	インク瓶	3.0	6.2	5.2	92	無色透明	底部陽刻銘「SSS」	覆土中	サイエンス株式 会社 PL21
3	食品瓶	3.2	6.8	3.8	113	淡青色半透明	胴部陽刻銘「伊勢惣製」	覆土中	福寿瓶 PL21
4	薬品瓶	2.1	14.3	5.9	91	無色透明	胴部陽刻銘「青柳病院」に容量目盛り	覆土中	PL21

自然遺物・人工遺物出土遺物観察表（第89図 PL21）

第224号土坑出土遺物観察表（第89図）

番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	生 息 地	特 徴	出土位置	備 考
1	高瀬貝	(8.9)	(9.6)	(5.9)	(70.19)	小笠原諸島、奄美大島以南	螺塔と殻底に穿孔有	覆土中	PL21
2	高瀬貝	(10.1)	(10.4)	(7.1)	(176.59)	小笠原諸島、奄美大島以南	殻底に穿孔有	覆土中	PL21

番号	種 類	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
3	貝ボタン	1.1	0.1	0.15	(0.21)	高瀬貝	右下部欠損 中央部穿孔2か所	覆土中	PL21
4	貝ボタン	1.4	0.1	0.2	0.37	高瀬貝	中央部穿孔2か所	覆土中	PL21
5	貝ボタン	1.4	0.2	0.2	(0.40)	高瀬貝	右側欠損 中央部穿孔2か所 表面の潤滑が顕著	覆土中	PL21

第4節 総 括

1 はじめに

調査の結果、平安時代の堅穴建物跡1棟、江戸時代の掘立柱建物跡14棟、溝跡7条、廃棄土坑9基、明治時代の石組水路跡4条等を確認した。ここでは、江戸時代の水戸城北三の丸の本調査区についての様相を述べるとともに、出土遺物についても考察し、まとめとする。

2 土地利用の概略

平安時代 9世紀中葉の堅穴建物跡1棟を確認した。前回の水戸地方検察庁仮庁舎建設事業の発掘調査において、堅穴建物跡10棟が確認されている¹⁾。今回の調査で確認した建物跡と同時期の堅穴建物跡は4棟あり、調査区同士の距離が近いことから、那珂川を望む舌状台地を利用した集落が広がっていたと推測される。

中世 16世紀代と見られる掘立柱建物跡1棟を確認した。この建物は、江戸氏の折願寺である船戸山和光院が存在していた頃の寺院関係の建物と考えられる。和光院は、江戸氏が没落した時に現在の水戸市田島の地に移転となっている。本調査区は中世でも土地利用があったことがうかがえる。

近世 本調査区は、江戸時代を通じて水戸藩附家老中山氏の屋敷地であると伝えられている。近世の土地利用の詳細については、3で述べることにする。

近代・現代 本調査区は、1882年(明治15)茨城県監獄水戸市北三の丸支署の設置から始まり、監獄本署、茨城監獄、水戸監獄、水戸刑務所と名前を変えながら、刑務所が存在していた。2か所の整地や4条の石組水路などが監獄を建造する際に整備されたと考えられる。近代建物は、刑務所の建屋に関係していると推測できる。1945年(昭和20)8月2日の水戸大空襲により被災をして、北三の丸は焼野原となったと伝えられる。その際の瓦礫を埋めた大規模な火災処理土坑が本調査で確認されている。

3 江戸時代北三の丸の中山氏の屋敷跡地について

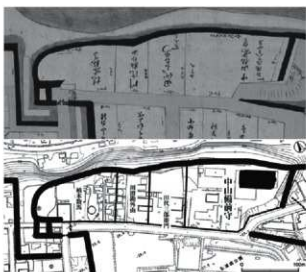
江戸時代の北三の丸は、水戸藩附家老の中山備前守の屋敷地であったと伝えられている。しかし、現存する絵図では、中山氏の屋敷地内の建物やその配置などは不明である。今回は、本調査で確認をした掘立柱建物跡の変遷、溝と廃棄土坑の位置関係から中山氏の屋敷地について考察をしたい。

(1) 掘立柱建物の変遷について

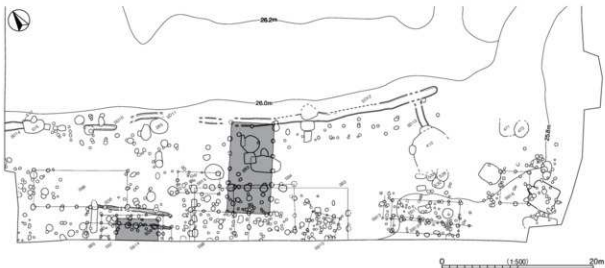
本調査で確認した江戸時代の掘立柱建物跡は13棟あり、その規模や配置から建て替えが行われていると推測できる。現存する絵図の北三の丸における土地利用の変遷については、当財団報告第396集にまとめてある²⁾。絵図から、本調査区が江戸時代全期を通じて中山氏の屋敷地であったこと、拝領している屋敷地が増加するなど水戸藩内において附家老の中山氏の力が次第に強くなっていったことが分かる。これらの状況を鑑みて、掘立柱建物の建て替えについては、規模を大きくするものであったと仮定した。なお、出土遺物の年代及び建て替えた建物の配置から、5期に分けた。

第1期は、17世紀前葉から中葉である。この時期は、第3・14号掘立柱建物が存在していた。第3号掘立柱建物は、出土遺物からこの時期に比定できる。一方で、第14号掘立柱建物は遺物が出土していない。第14号掘立柱建物が調査区域外に延びている南北棟と見ると、建物の主軸がほぼ同じで同時期に存在していたと考えられる。当初は、南北棟が並んでいたと推測される。

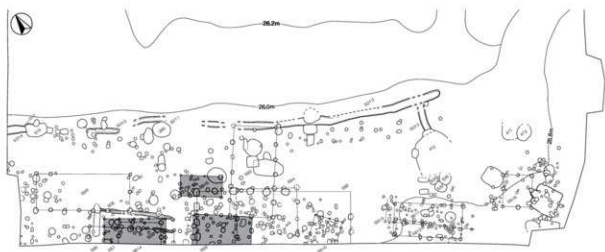
第2期は、17世紀後葉から18世紀前葉である。この時期は、第7・8・15号掘立柱建物が存在していた。第8号掘立柱建物跡の柱穴からは、御深井軸の細片が出土している。第8号掘立柱建物と第15号掘立柱建物は、建物の主軸がほぼ同じで、第3号掘立柱建物跡からの建て替えが想定される。一方で、第7号掘立柱建



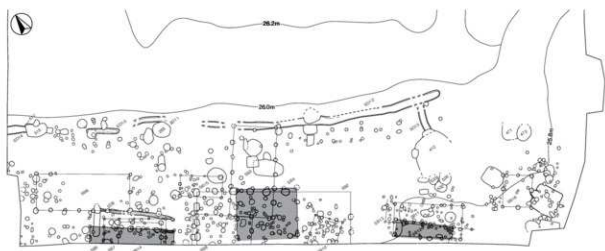
第90図上：水戸城絵図「江戸期水戸武士小路明細図（上市の部）」
（茨城県立図書館所蔵）
下：水戸城北三の丸復元図（水戸市都市計画図DMデータ2500分の1から作成の第396集第38図に加筆修正）



第91図 第1期（17世紀前葉～中葉）



第92図 第2期 (17世紀後葉～18世紀前葉)



第93図 第3期 (18世紀前葉～中葉)

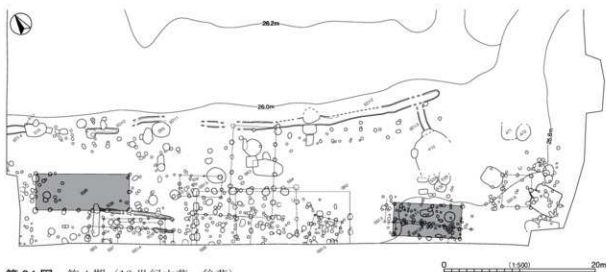
物も建物の主軸がほぼ同じであり、その規模から同時期に存在したと考えられる。

第3期は、18世紀前葉から中葉である。この時期は第4・5・12号掘立柱建物が存在していた。調査区西部では第7号掘立柱建物跡が第5号掘立柱建物に、中央部では、第8・15号掘立柱建物跡が第4号掘立柱建物に、それぞれ建て替えられたと想定される。また、遺構同士の重複関係から、東部の第12号掘立柱建物が同時期に存在したと推測できる。調査区内の全域にわたって、中山氏に関連する建物が建てていたことがうかがえる。

第4期は、藩校の弘道館が中三の丸に建造されてすぐの18世紀中葉から後葉である。この時期は、第6・11号掘立柱建物が存在していた。調査区内の西部・東部で、それぞれ規模を大きくして建て替えられたと推測できる。

第5期は、18世紀後半から19世紀中葉である。この時期は、第2・13号掘立柱建物が存在していた。第2号掘立柱建物跡の出土遺物からこの時期に比定できる。そのため、調査区中央部では、一番大きな建物の第2号掘立柱建物に、東部ではやや規模の大きな第13号掘立柱建物に建て替えられたと推測できる。

江戸時代を通じて、中山氏の屋敷地であったことから、これらの掘立柱建物跡は全て関係のある建物だと言えるが、御殿建物であるのか考察をしたいと思う。まず、建物の基礎構造について考えることとする。



第94図 第4期 (18世紀中葉～後葉)

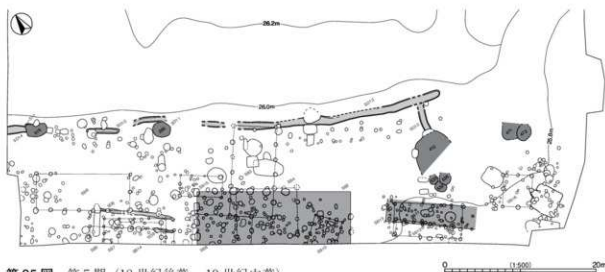
今回の調査で確認した建物跡は、全て掘立柱建物跡であった。ここで比較対象として、江戸の大名屋敷と本跡に近い水戸の武家屋敷を取り上げて考えたい。江戸の大名屋敷は、御三家の尾張藩の上屋敷である市谷邸を例とする。尾張藩の市谷邸では、江戸時代前期(1656年)から中期(1725年)にかけて、御殿建物が掘立柱建物であった。しかし、中期(1725年)以降は、御殿建物も掘立柱建物から礎石建物へと変化をしていた。長屋建物についての初期の構造は不明であるが、18世紀末から19世紀初頭に建てられた建物は、礎石建物であったことが分かっている³⁾。また、水戸の武家屋敷跡である備前町にある釜神町遺跡においては、18世紀前半まで掘立柱建物が確認されており、礎石建物が確認されたのは江戸よりも遅い時期となる18世紀後半になってからである⁴⁾。しかし、中山氏の屋敷地では、同時期でも礎石建物跡を確認することができなかった。下士の屋敷が、礎石建物に変容しているにもかかわらず、中山氏の屋敷地では掘立柱建物が存続していたと言える。これらのことから、本調査区の18世紀後葉以降とみられる第2号掘立柱建物跡は、御殿建物には当たらないと考えられる。

また、中山氏は、江戸時代中期の寛文期から後期の文政期までの間に、屋敷地を西方へ拡大していることを絵図から読み取ることができる。下士の武家屋敷が礎石建物になるよりも早くに御殿建物が礎石建物になると考えられ、第4期に当たる18世紀中葉から後葉には、礎石建物に変容していたと考えられる。そのため、御殿建物は本調査区よりも西の拡大した屋敷地に存在した可能性がある。

(2) 溝と廃棄土坑について

江戸初期には溝や堀で区画を行って屋敷境としている例が、東京都丸の内三丁目遺跡の毛利家屋敷のように大名屋敷でも見られる⁵⁾。今回の調査で確認した第10～14号溝は、区画溝としての機能を有していた可能性がある。これらの遺構は、第13号溝を除いて、走行方向が一致しており、覆土や形状も酷似しているため、同一の遺構の可能性がある。調査区の中央部を北西から南東に走るこの溝の北側では、江戸時代の遺構を確認できなかったため、屋敷の区画溝の可能性は高いと考えられる。そのように考えると、溝が構築された時期は江戸時代前期ごろまで遡り、機能を失った時期が第13号溝が18世紀中葉、それ以外の溝は19世紀中葉と捉えることができる。なお、第12号溝は後世の第4号石組水路によって掘り込まれているため、南東方向にどこまで延びていたのかは不明である。

また、今回の調査で江戸時代末期に比定できる廃棄土坑9基を確認した。時期は、どの土坑も江戸時代後期から末期の第5期に当たる。江戸の大名屋敷でも、屋敷地内に食物残渣や生活用具等を廃棄できる空



第95図 第5期（18世紀後葉～19世紀中葉）

き地が設けられており、その配置は屋敷境や屋敷の裏空間になっていることが多かったようである。調査区内の廃棄土坑の位置を確認すると、そのうち3基（第285・515・517号土坑）は前述の区画溝と重複をしたり隣接したりしている。また、4基（第412・528・532・533号土坑）は、第12号溝跡から分岐している第13号溝を掘り込んでいたり、近くに位置したりしている。第471・472号土坑のみ溝から離れているが、土坑やピット群のなくなる空閑地に作られている。また、これらの土坑が第5期に埋められていることから、本調査区第5期は御殿建物との距離が離れていた裏付けとなると考えられる。

以上のことから、中山氏の屋敷地の境は、調査区中央部を北西から南東に走る溝に沿うように設定されていたと想定している。第1期のみ、南北棟の第3号掘立柱建物が区画溝と重複して存在するため、屋敷境の明確な位置を推測することができない。しかし、それ以降の時期については、掘立柱建物の変遷と配置や廃棄土坑との位置関係を見ても、本調査区の溝が屋敷地の北東境となっていたと考えられる。

4 出土遺物について

今回の調査で出土した土器・陶磁器類は、全部で2451点であった。そのうち中山氏の時期に該当する江戸時代の遺物は、図示した遺物も含めて総計1,468点であった。明治時代の整地跡などからも出土しており、使用した時期が江戸時代と捉えられるものについては、総計に入れて検討対象とした。その内訳を示したものが表19である。在地系土師質土器・瓦質土器に比して、陶磁器の割合が少しだけ高い結果となった。ここでは、陶磁器の産地や器種という視点から、本調査区の出土遺物について検討したい。

(1) 陶器について

確認できた江戸時代の陶器の総数は349点であった。その生産地内訳を示したものが、表20である。陶器は、瀬戸美濃系の比率が41.5%と高い。この中で、特徴的なのが京焼および肥前京焼風陶器の存在である。京焼及び肥前京焼風陶器は、江戸の大名屋敷でも多くは出土しない陶器だが、当遺跡では江戸時代末期の廃棄土坑や明治期の整地跡などから京焼48点、肥前京焼風陶器5点が出土している。他にも、天目茶碗や志野皿、織部向付、腰鎧小服など庶民では所持できないような高級な器種が出土している。一方で、19世紀に操業を始めた地方窯の遺物の比率も30.7%と高い。倍楽園の傍に窯がある水戸藩9代藩主徳川斉昭によって開かれた七面焼の土瓶や、中山氏の居城である高萩の日棚・木皿・石岡・大塚に窯があったと言われている松岡焼の海鼠釉の土瓶等が廃棄土坑からまとめて出土している。このことから、中山氏と藩主水戸徳川家や所領地高萩との結びつきがよく分かる。

表19 江戸時代出土遺物組成図

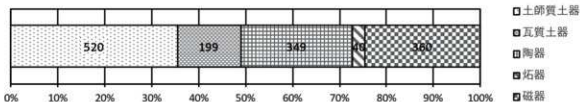


表20 江戸時代出土陶器産地内訳

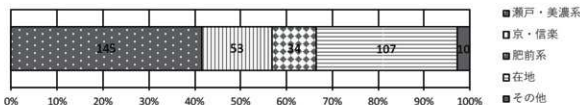
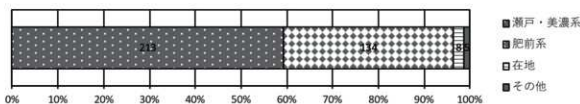


表21 江戸時代出土磁器産地内訳



(2) 磁器について

確認できた江戸時代の磁器の総数は360点であった。その生産地内訳を示したものが表21である。磁器も陶器と同様に瀬戸美濃系の比率が59.1%と高いことが判明した。瀬戸美濃系の磁器の生産は19世紀に入ってからであり、比較的新しいものが使用されていたことが分かった。その一方で、肥前系の初期伊万里と見られる破片が、明治期の整地跡、石組水路跡などから7点出土している。これらは、陶器の京焼と同様に数多くは流通していない磁器であり、希少価値が高いものである。また、舶来品と見られる青磁類が3点確認できた。

(3) 遺物の器種の特徴

出土遺物の器種の特徴は、庶民の家ではあまり出土しないような日常雑器類が出土していることである。以下4点の特徴を述べたい。

① 灯火具や暖房具等の出土

灯明皿や灯明受皿、燭台、カンテラ、行灯皿などの灯火具の出土数が多いのは、屋敷が広がったために数が必要であったことに起因すると考えられる。土師質土器の小皿や陶器の小皿を転用した灯明皿だけでも7点出土している。また、屋敷地が広いので、暖を取るために数多く使用されたと考えられる火鉢も、土師質土器・瓦質土器を合わせて96点出土している。また、暖房具とは言えないかもしれないが、七厘や置き竈、風炉など火を扱う遺物が出土しており、屋敷の暮らしに合わせて持ち運ばれて使用されていたと想像できる。さらに、屋敷の広さに起因した遺物として、漫瓶が出土している。

② 銀製の簪の出土

江戸時代に入り庶民まで化粧の文化は広がった。女性の髪を結う際に使われた簪の出土は1点だけであったが、銀製の簪のため高価なものだと考えられる。その当時の簪の材質は、銀や銅の金属、ガラス、骨といろいろな種類があったが、その中でも銀製は高価な部類である。また、髪を結う際に使用された

と考えられる髪油壺や鬢水入れ、櫛払いだけでなく、お歯黒壺と見られる化粧道具も出土した。

③ 焼塩壺の出土

焼塩壺は、蓋を伴う小形の土師質土器で焼塩の製造と流通とを兼ねたコップ型の容器が多く、武家の宴席などで用いられる特殊な塩として贈答用に用いられていた高級品である。焼塩壺5点が出土しているが、全て「泉湊伊織」の刻印である。この刻印から、1720～1760年頃に関西地方で作られた焼塩壺であることが判明した。

④ 中山氏の家紋入りの軒丸瓦の出土

廃棄土坑である第515号土坑から「枳形の内月に月」の中山氏の家紋入りの軒丸瓦が2点出土している。中山氏の家紋入り瓦は、表面に雲母が付着しているため18世紀代に製作されたものと考えられる。中山氏の屋敷地でなければ、出土しない遺物である。

5 おわりに

今回の調査で、平安時代および近世から現代にかけての、北三の丸の土地利用の様子的一端を確認することができた。資料が現存していない中山氏の屋敷地について、掘立柱建物が整然と並んでいた様子を確認できたのは、水戸藩の上級家老の屋敷を知る上で貴重な資料になると思われる。掘立柱建物と廃棄土坑から検討した中山氏の屋敷地については、調査範囲が限られており、推論の域でもある。今後の調査によって、水戸城の歴史解明の一端を担える調査成果になれば幸いである。

註

- 1) 盛野浩一「水戸城跡 水戸地方検察庁仮庁舎建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告第396集 2015年3月
- 2) 註1)に同じ
- 3) 内野正・小林博範・原川雄二「尾張藩上屋敷跡遺跡Ⅻ-防衛庁新設建物工事に伴う調査-」東京都埋蔵文化財センター調査報告第180集 2006年2月
- 4) 水野順敏・新垣清貴・岡口慶久「益神町遺跡(第16地点)-共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」水戸市埋蔵文化財調査報告第98集 2018年2月
- 5) 岩橋陽一・上條朝宏・栗城謙一・小林裕・竹尾進・武笠多恵子・岩下哲典「東京都千代田区丸の内三丁目遺跡」東京都埋蔵文化財センター調査報告第17集 1994年9月

参考文献

- ・豊島区遺跡調査会「陶磁器・土器 分類・計数基準」豊島区教育委員会「伝中・上富士前Ⅱ別冊」1998年
- ・新宿区内藤町遺跡調査団「内藤町遺跡 放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書」
- ・瓦吹堅「松岡焼について」『茨城県高萩市松岡城B地点遺跡発掘調査報告書』松岡城跡発掘調査会 1995年3月
- ・瓦吹堅「松岡焼と煎跡」『松岡城跡C地点 高萩市立松岡小学校校舎改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高萩市教育委員会 2010年1月
- ・岡口慶久・瀧美賢吾・米川暢敬「七面製陶所跡 遺構・遺物編 第1～3次発掘調査報告書」水戸市埋蔵文化財調査報告第100集 2017年9月
- ・江戸遺跡研究会編「江戸の大名屋敷」吉川弘文館 2011年2月
- ・江戸遺跡研究会「江戸の陶磁器」江戸遺跡研究会第3回大会・資料編 1990年3月
- ・江戸遺跡研究会「江戸時代の名産品と商標」江戸遺跡研究会第18回大会【発表要旨】 2005年1月
- ・森本伊知郎「近世陶磁器の考古学-出土物からみた生産と消費」雄山閣 2009年2月
- ・沙留地区遺跡調査会「沙留遺跡-沙留遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書-」1996年3月
- ・文京区教育委員会「龍岡町遺跡第6地点-〈仮称〉新教育センター建築計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」2015年10月

写 真 图 版



第1次面全景



第2次面全景

PL2



調査区遠景
第2次面



第12号竪穴建物跡
遺物出土状況



第12号竪穴建物跡



第 1 号石組水路跡



第 1 号 桥



第 2 号石組水路跡

PL4



第 2 号 桥



第 3 号石組水路跡



第 4 号石組水路跡
確 認 状 況



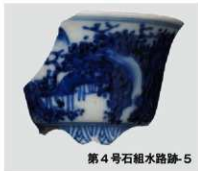
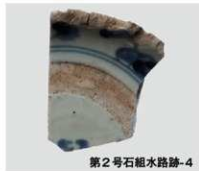
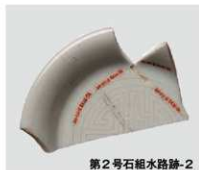
第4号石組水路跡



第515号土坑
遺物出土状況



第528号土坑
遺物出土状況



第12号竖穴建物跡，第1・2号掘立柱建物跡，第1・2・4号石組水路跡出土土器，陶器，磁器



第4号石組水路跡-1



第4号石組水路跡-4



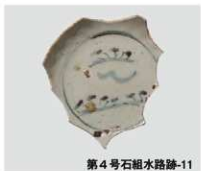
第4号石組水路跡-9



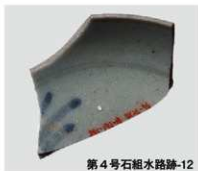
第4号石組水路跡-6



第4号石組水路跡-10



第4号石組水路跡-11



第4号石組水路跡-12



第4号石組水路跡-13



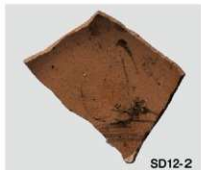
第4号石組水路跡-15



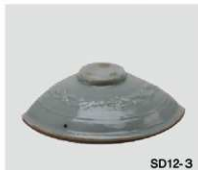
第4号石組水路跡-18



SD12-1



SD12-2

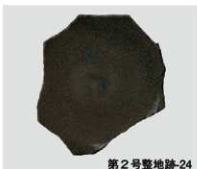
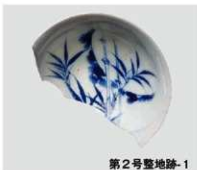


SD12-3



SD13-1

第4号石組水路跡, 第12・13号溝跡出土陶器, 磁器



第1号近代建物跡，第2号整地跡出土土器，陶器，磁器



第2号整地跡-19



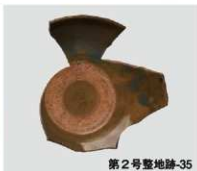
第2号整地跡-21



第2号整地跡-29



第2号整地跡-30



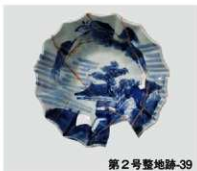
第2号整地跡-35



第2号整地跡-36



第2号整地跡-38



第2号整地跡-39



第2号整地跡-40



第2号整地跡-44



第3号整地跡-1



SK285-1



SK285-3

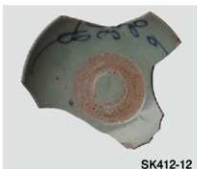
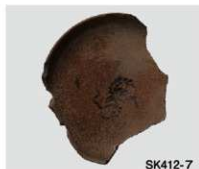
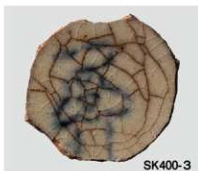


SK285-4



SK285-6

第2・3号整地跡, 第285号土坑出土土器, 陶器, 磁器





SK412-14



SK412-15



SK412-20



SK412-24



SK471-2



SK471-3



SK471-7



SK472-1



SK472-3



SK472-2



SK472-4



SK472-5



SK515-1



SK515-6



SK515-10

第412·471·472·515号土坑出土土器、陶器、磁器



第515·528号土坑出土土器，陶器，磁器



SK528-18



SK528-20



SK528-21



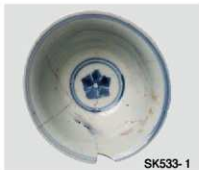
SK532-1



SK532-5



SK533-3



SK533-1



SK533-2



SK535-1



SK535-2



SK535-3



SK544-1



SK544-2



SK609-1



SK609-2



SK609-7



SK223-2



SK223-4



SK223-7



SK223-9



SK223-10



SK223-12



SK223-13



SK223-15



SK223-16



SK223-17



SK223-19



SK223-24



SK223-28



SK223-29



第1・2号石組水路跡，第12号溝跡，第2号整地跡，第223・412・515号土坑出土金属製品，錢貨



第2・4号石組水路跡, 第248・250・254・273・296・368・412・472・515・517号土坑出土遺物



SK223-G 1



SK223-G 2



SK223-G 3



SK223-G 4



SK224-N 1



SK224-N 2



SK224-N 3

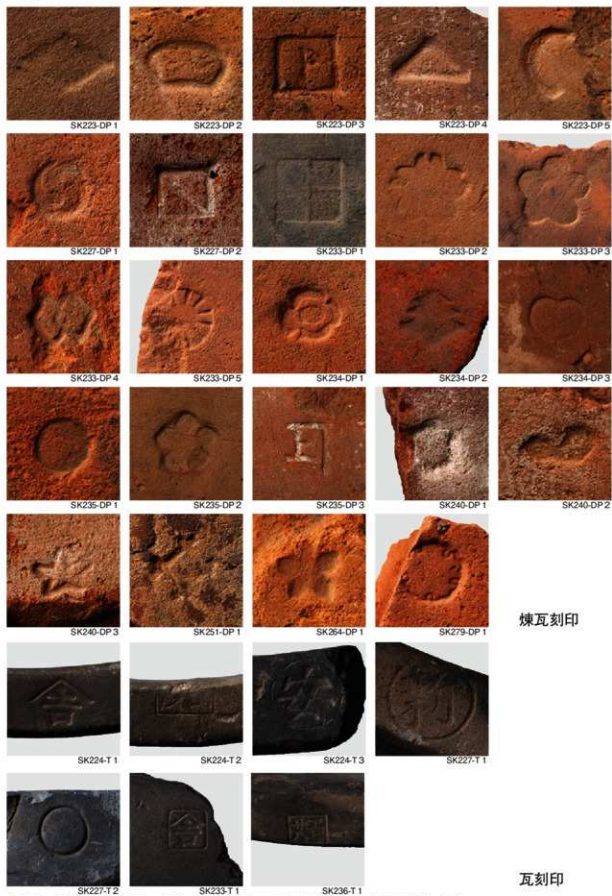
SK224-N 4

SK224-N 5



第515号土坑出土遺物集合

PL22



煉瓦刻印

瓦刻印

第223・224・227・233~236・240・251・264・279号土坑出土土製品・瓦

抄 録

ふりがな	みとじょうあと							
書名	水戸城跡							
副書名	水戸法務総合庁舎新営事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第444集							
著者名	永井敦							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2020(令和2)年3月16日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
水戸城跡	茨城県水戸市 北見町1番1号	08201 1 172	36度 22分 37秒	140度 28分 42秒	25 ~ 27m	20180402 ~ 20180930	2,853㎡	水戸法務総合 庁舎新営事業 に伴う事前調 査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
水戸城跡	集落跡	平安	堅穴建物跡 1棟		土師器(坏・高台付坏・甕類、須恵器(坏・碗・高台付坏・甕類・甕類・甕)、灰釉陶器(壺))			
	屋敷跡	江戸	掘立柱建物跡 14棟 井戸跡 1基 溝跡 7条 土坑 252基 ピット群 9ヶ所	土師質土器(皿・小皿・蓋・灯明皿・燗台・瓦打傘・行平・焙烙・焼塩壺蓋・焼塩壺・火入・火鉢・七厘・五徳)、瓦質土器(火消壺蓋・火鉢・風炉・風炉、播鉢)、陶器(小坏・碗・小碗・中碗・中碗蓋・蓋物蓋・皿・小皿・中皿・大皿・灯明皿・灯明受皿・行灯皿、カンテラ・製水入れ・行平・土瓶蓋・土瓶・土鍋・鉢・柄杓形容器・播鉢・横木鉢・片口・火鉢・壺・小甕)、妬器(播鉢・広口壺)、磁器(小坏・碗・小碗・中碗・皿・小皿・中皿・小鉢・猪口・香炉・水滴・仏花瓶)土製品(土人形・碁石)、石器(砥石)、石製品(碁石)、金属製品(包丁・鎌・鉋・釘・釵・煙管)、銭貨、瓦(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・横込瓦)				
	建物跡 その他	近代 現代	掘立柱建物跡 1棟 井戸跡 2基 石組水路跡 4条 水路状施設 1ヶ所 溝跡 1条 近代建物跡 1棟 整地跡 2ヶ所 土坑 83基 柱穴列 3ヶ所 ピット群 1ヶ所	土師質土器(小皿・燗台・焙烙・置き蓋・焼塩壺蓋・焼塩壺・火鉢・七厘皿・風炉)、陶器(小碗・小皿・小水注・土瓶蓋・土瓶・播鉢・燗油壺・徳利・浅瓶・中甕・本業散瓦・甕器)、妬器(急須蓋・急須)、磁器(小坏・筒形坏・長筒湯呑蓋・長筒湯呑・碗・小碗・丸碗・平碗・飯碗・皿・五寸皿・大皿・小鉢・深鉢・井鉢・香炉・小瓶・梅瓶)、土製品(煉瓦・土管)、石器(砥石)、石製品(岩鑄)、金属製品(焼夷弾)、ガラス製品(インク瓶・食品瓶・薬品瓶)、骨格製品(佛仏い)、瓦(軒丸瓦・製斗瓦・横込瓦・平瓦・軒棧瓦)、自然遺物(高麗貝・貝ボタン)				
要約	江戸時代の水戸城北三の丸内の調査を行った。調査区は、水戸藩商家老の中山氏の屋敷地と伝えられていたが、調査の結果、平安時代の堅穴建物跡、江戸時代の掘立柱建物跡の建て替えや江戸時代末期の複数の廃棄土坑を確認した。また、近代に入ってからの大規模な整地跡や石組水路跡、建物跡を確認した。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC 2019
	図版作成	Adobe Illustrator CC 2019
	写真調整	Adobe Photoshop CC 2019
	図面類	EPSON ES-1000G
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CCでレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第444集

水戸城跡

水戸法務総合庁舎新営事業
地内埋蔵文化財調査報告書

令和2（2020）年3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

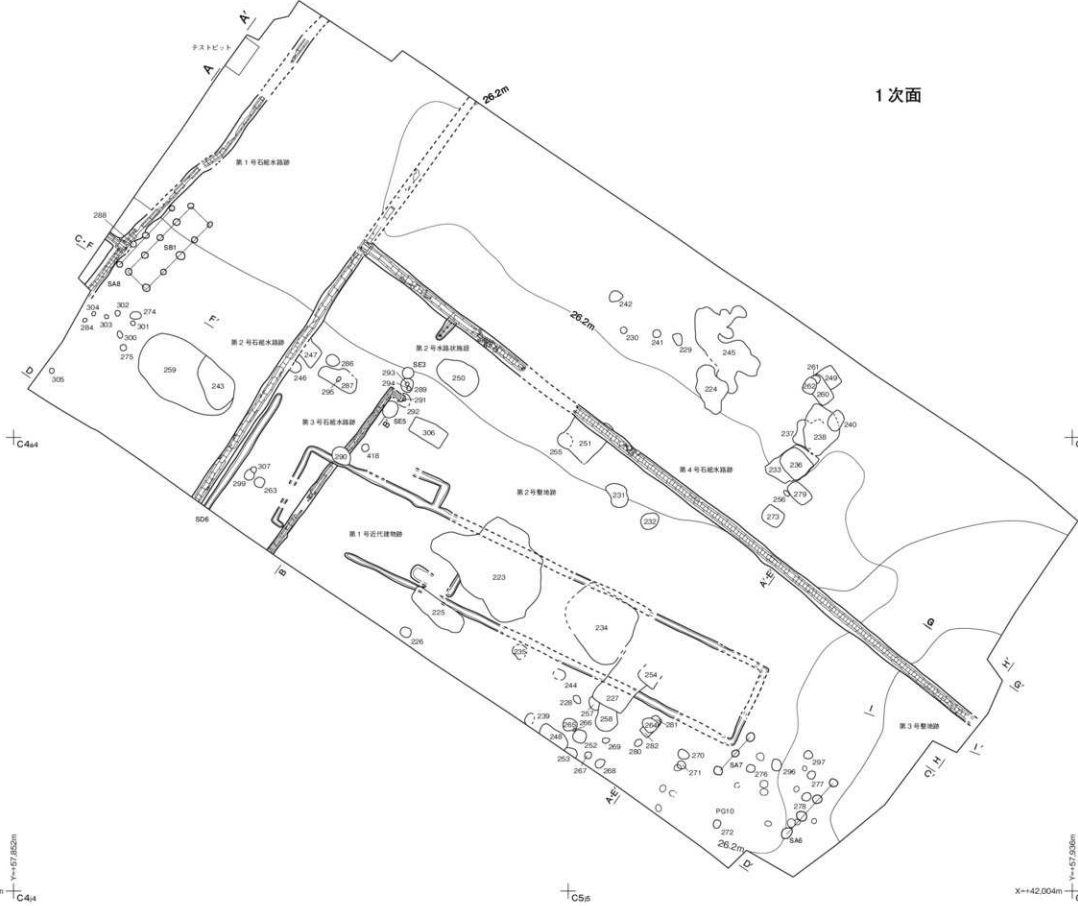
印刷 株式会社あけほの印刷社
〒310-0804 水戸市白梅1丁目2-11
TEL 029-227-8284



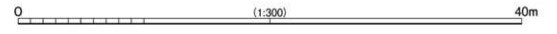
X=+42,076m
Y=+57,852m
B4s4

B5s

B6s



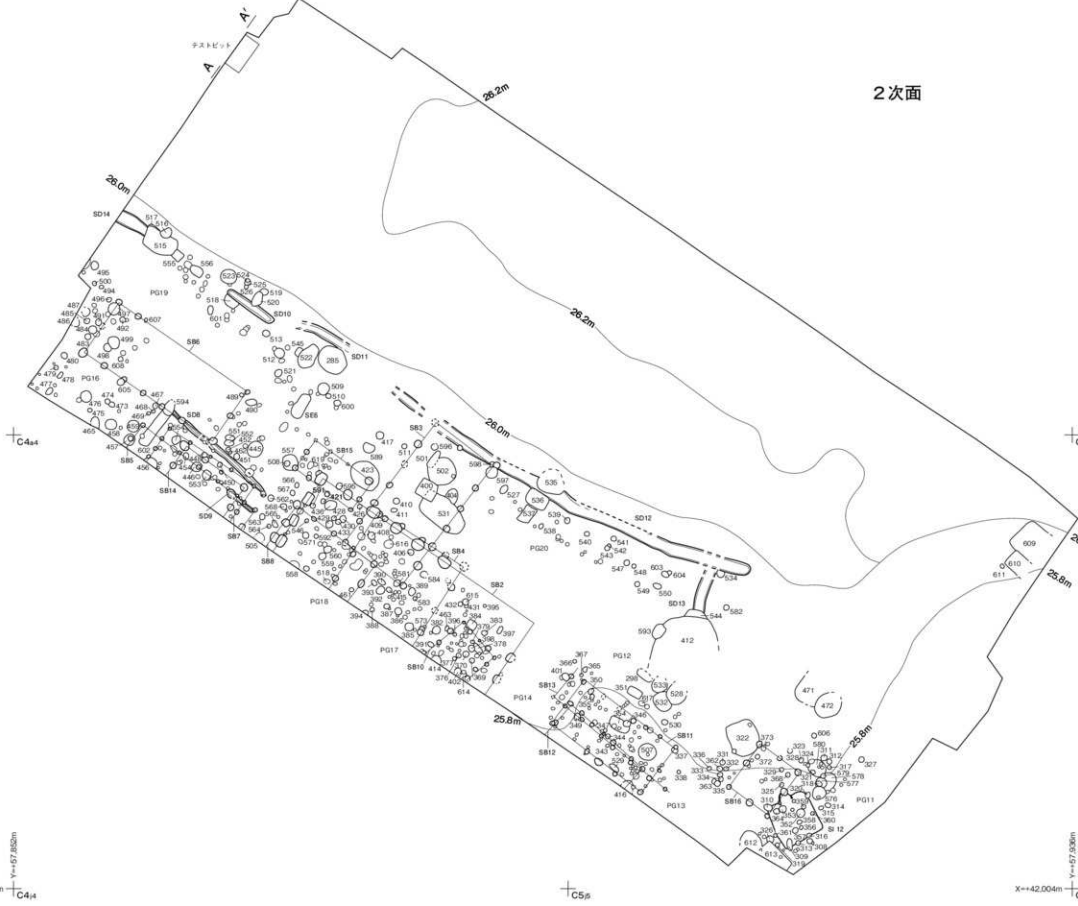
1次面



X=+42,076m
Y=+57,852m
B4s4

B5s

B6s



2次面



付図 水戸城跡遺構全体図 (茨城県教育財団文化財調査報告 第444集)